



貿易—康德四年度貿易

品名	單位	英國				和國				其國				總計			
		計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出		
大豆	千擔	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000		
其他	千擔	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
金	額	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		

對日本貿易主要品

(單位國幣千圓)

品名	單位	英國				和國				其國				總計			
		計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出		
生絲	千擔	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
其他	千擔	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
金	額	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		

一三五

貿易—康德四年度貿易

品名	單位	計入	計出	金
海菜	千擔	...	...	...
茶葉	千擔	...	...	...
糖類	千擔	...	...	...
紙張	千擔	...	...	...
化學	千擔	...	...	...
礦產	千擔	...	...	...
金	額	...	...	...

主要國別貿易

品名	單位	日本		英國		和國		其國		總計	
		計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出	計入	計出
生絲	千擔	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
其他	千擔	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
金	額	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

一三四

貿易—康德四年度貿易

品名	單位	康德二	康德三	康德四
各種衣服	千	...	...	...
毛織物	千	...	...	...
棉織物	千	...	...	...
鐵器	千	...	...	...
銅器	千	...	...	...
五金	千	...	...	...
金銀	千	...	...	...
珠寶	千	...	...	...
玉器	千	...	...	...
其他	千	...	...	...

對中國貿易主要品 (單位國幣千元)

品名	單位	康德二	康德三	康德四
大豆	千	...	...	...
黃豆	千	...	...	...
黑豆	千	...	...	...
綠豆	千	...	...	...
芝麻	千	...	...	...
花生	千	...	...	...
其他	千	...	...	...

對香港貿易主要品 (單位國幣千元)

品名	單位	康德二	康德三	康德四
小麥	千	...	...	...
大米	千	...	...	...
油類	千	...	...	...
糖類	千	...	...	...
茶葉	千	...	...	...
其他	千	...	...	...

對英領印度貿易主要品 (單位國幣千元)

品名	單位	康德二	康德三	康德四
棉布	千	...	...	...
絲綢	千	...	...	...
呢絨	千	...	...	...
皮貨	千	...	...	...
香料	千	...	...	...
其他	千	...	...	...

對獨逸貿易主要品 (單位國幣千元)

品名	單位	康德二	康德三	康德四
鐵器	千	...	...	...
銅器	千	...	...	...
五金	千	...	...	...
其他	千	...	...	...

貿易—康德四年度貿易

貿易—康徳四年度貿易

品名	数量	金額
大豆	...	...
花生油	...	...
...	...	...

對伊貿易主要品 (單位圓幣千円)

品名	数量	金額
大豆	...	...
花生油	...	...
...	...	...

對英吉利貿易主要品 (單位圓幣千円)

品名	数量	金額
大豆	...	...
花生油	...	...
...	...	...

對和蘭貿易主要品 (單位圓幣千円)

品名	数量	金額
大豆	...	...
花生油	...	...
...	...	...

對米國貿易主要品 (單位圓幣千円)

品名	数量	金額
大豆	...	...
花生油	...	...
...	...	...

昭和十二年度 關東州貿易

茲に關東州貿易と稱するのは滿洲國と接する關東州の船舶に依る輸入貿易の慣て

貿易—昭和十二年(康徳四年度)關東州貿易

あつて陸路(鐵道)に依るもの及び關東州内各港相互間の移出入貿易は含まない。關東州は滿洲國の門戸を爲し、而も東洋一と稱される大連港を擁してゐる事情より背後地滿洲國の建設工作の進捗を反映し又一面關東州を伸縮として行はれる對支再輸出貿易

易の殷盛より年々躍進又躍進の一途を辿り昭和十二年(康徳四年度)は輸出四億五千二百萬圓、輸入六億八千萬圓、輸出入總額十一億三千二百萬圓と前年の記録を更に一段と更新する活況を呈した。即ち前年に比し輸出は一千九百七十萬圓(四・七%)、輸入は

一億五千九百萬圓(三〇・五%)、輸出入總額は一億七千八百七十萬圓(一八・八%)を各々増加し、貿易は輸入の増勢特に顯著であつた。前年の入超額八千九百萬圓に對し、十二年は實に二億二千八百萬圓と空前の入超額を示現した。以て如何に輸入貿易の活況を呈せしかを知り得よう。昭和六年以降の輸出入貿易額を表示すれば左表の通り。

關東州貿易年比較表(單位千円)

Table with columns for Year (年次), Output (輸出), Input (輸入), and Total (合計). Rows list years from 昭和六年 to 昭和十二年.

關東州主要貿易品(單位千円)

Table of main exports from the Kanto region, listing items like rice, wheat, and various oils, with columns for quantity and value for 昭和十一年 and 昭和十二年.

主要輸入品

Table of main imports to the Kanto region, listing items like cotton, wool, and various machinery, with columns for quantity and value for 昭和十一年 and 昭和十二年.

農業—主要作物

増大せしめようと云ふ着大な計畫で實施要項。

- 一、面積増加は主として滿洲に依りて作付の増加を圖り、移民入植地外に存在する比較的小面積の二荒畑約四十五萬坪の内十三萬坪の増加をなす。

Table showing agricultural statistics for 高梁 (Sorghum) from 昭和四年 to 昭和八年, including area and yield.

高梁は滿洲農家の主要食糧として重要な作物で用途は更に飼料として良く、又高粱酒と云ふ農家唯一の飲料酒の醸造に當てられる。...

粟

粟は高粱に次ぐ重要な常食食品で農家では比較的高級な食料品として扱つてゐる。...

玉蜀黍

滿洲は玉蜀黍の産地として有名で、支那では「包米」と謂ひ高粱粟、に次ぐ重要な食料である。...

小麦

南滿地方の大豆と同じく、北滿地方の重要な作物として知られ北滿一帯殊に濱北沿線に多い。...

一億五千九百萬圓(三〇・五%)、輸出入總額は一億七千八百七十萬圓(一八・八%)を各々増加し、貿易は輸入の増勢に顯著であつたため、前年の入超額八千九百萬圓に對し、十二年は實に二億二千八百萬圓と空前の入超額を示現した。以て如何に輸入貿易の活況を呈せしかを知り得よう。昭和六年以降の輸出入貿易額を表示すれば左表の通り。

關東州貿易年比較表 (單位千円)

年次	輸出	輸入	合計	差引
昭和六年	一、五〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
七年	一、六〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
八年	一、七〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	二、九〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
九年	一、八〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
十年	一、九〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
十一年	二、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
十二年	二、一〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇

關東州主要貿易品 (單位千円)

主要輸出品

品名	昭和十一年		昭和十二年	
	數量	金額	數量	金額
大豆	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
高粱	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
花生	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
芝麻	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
小麥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
棉花	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
生絲	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
羊毛	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鐵礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
銅礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
錫礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鉛礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鋅礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
煤	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
石油	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
木材	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
皮革	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
布匹	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
雜貨	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

主要輸入品

品名	昭和十一年		昭和十二年	
	數量	金額	數量	金額
米	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
小麥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
高粱	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
花生	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
芝麻	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
棉花	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
生絲	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
羊毛	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鐵礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
銅礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
錫礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鉛礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鋅礦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
煤	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
石油	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
木材	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
皮革	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
布匹	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
雜貨	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

本店 新京特別市大同大街二〇二號

# 株式會社大興公司

支店 奉天、錦州、新京、吉林、哈爾濱  
營業所 國內重要地點三百箇所

國務院法制處編纂滿洲國法令輯覽  
滿洲國各部編纂法令法規書  
滿洲國各省例規警察例規各省市例規書

出版販賣

新京特別市興安大路二一六號

## 株式會社滿洲行政學會

取締役社長 大谷仁兵衛

電話 (2) 四二二二 四二二九 四二〇六 番番番

年	月	大工		左官		鍛冶職		鉄力職		石工		木挽職		人夫	
		満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人
昭和三年	平均	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
昭和二年	平均	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
昭和三年	平均	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

年	月	大連		奉天		哈爾濱		吉林		齊齊哈爾		營口		安東		大連	
		満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人
昭和三年	三月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和三年	六月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和三年	九月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和三年	十二月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和四年	三月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和四年	六月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和四年	九月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和四年	十二月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	一月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	二月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	三月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	四月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	五月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	六月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	七月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	八月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	九月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	十月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	十一月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	十二月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

年	月	飲食		衣服		住居		光熱		雑費		平均	
		満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人	満人	日人
昭和三年	平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和四年	平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和五年	平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

商業—物價・賃銀・諸相場

一五九

新京を基準とせる主要都市小賣物價指數

(滿洲國經濟調查會新京を基準とす)

新京生計費指數 (滿洲中央銀行調査)

(昭和三年平均を基準)

# DIAM

## ダイヤモンド タイヤチェーン

品質絶対保証

**營業科目**

- ダイヤモンドタイヤチェーン
- 自動車部分品及附屬品
- 航空機部分品
- D・M・D金剛硬度計



◎當工場は設備精良技術其他凡ゆる點に於て東洋一を誇るダイヤモンドチェーンの工場であります

◎當工場の製品は國內一流の自動車會社で採用され、裝備せる自動車は内地は勿論、滿洲、北支等各地に盛んに活躍し常に使用者各位より品質優良にして耐久力絶大なりとの稱賛を賜つて居ります

◎當工場製品は一流自動車材料業者の手を通じ全國各地に販賣されて居りますが、尙ほチェーン御購入につき御不便を感じて居らるゝ御方は御遠慮なく一應當社に御通知下されば代理店の御照會なり又は當社直接取引なり御希望に叶ふ様至急御宜の方法を探ります

◎當工場の製品は各方面に亘り物凄く需要の増進を示して居りますが、當社は之に對處し愈々品質の改善に努め、御社一致不斷の努力を拂ひ御使用各位の御期待に副ふべく勵心して居ります

株式会社  
**大塚製作所**

東京市浦野川區西ヶ原町一三八八

電話 王子 三三八六  
三三九一  
一四〇〇  
番番番

年	月	大豆		豆油		石工		木料	
		最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
昭和四年	一月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	二月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	三月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	四月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	五月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	六月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	七月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	八月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	九月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	十月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	十一月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	十二月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
五年平均		1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
昭和三年平均		1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
昭和二年平均		1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
昭和三年平均		1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95

新京勞働賃銀 (滿洲中央銀行調査)

年	月	大豆	豆油	石工	木料
昭和四年	一月	1.00	0.95	1.00	0.95
	二月	1.00	0.95	1.00	0.95
	三月	1.00	0.95	1.00	0.95
	四月	1.00	0.95	1.00	0.95
	五月	1.00	0.95	1.00	0.95
	六月	1.00	0.95	1.00	0.95
	七月	1.00	0.95	1.00	0.95
	八月	1.00	0.95	1.00	0.95
	九月	1.00	0.95	1.00	0.95
	十月	1.00	0.95	1.00	0.95
	十一月	1.00	0.95	1.00	0.95
	十二月	1.00	0.95	1.00	0.95
五年平均		1.00	0.95	1.00	0.95
昭和三年平均		1.00	0.95	1.00	0.95
昭和二年平均		1.00	0.95	1.00	0.95
昭和三年平均		1.00	0.95	1.00	0.95

大連特産三品現物相場 (滿洲中央銀行調査)

年	月	大豆		豆油		石工		木料	
		最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
昭和四年	一月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	二月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	三月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	四月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	五月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	六月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	七月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	八月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	九月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	十月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	十一月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
	十二月	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
五年平均		1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
昭和三年平均		1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
昭和二年平均		1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95
昭和三年平均		1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95	1.00	0.95

商業—物價·貨銀·諸相場



商業 物價・貨銀・諸相場

Table of market prices for various goods, including cotton and wool, with columns for dates and prices.

大連市場綿絲布現物相場

Table of cotton thread and fabric prices in Dalian, showing prices for different grades and quantities.

大連五品主要株式延取引相場

Table of stock market prices for five major commodities in Dalian, listing company names and prices.

農業

概説

Text describing the general agricultural conditions in Manchuria, including land area, population, and crop types.



Text discussing the climate and seasonal variations in Manchuria, particularly the winter and summer conditions.

耕地

Text detailing the agricultural land in Manchuria, including the Heilong River basin and other regions.

二七、二%餘にあたり、既耕地面積は一四、九六四千陌である。即ち既耕地面積は總面積に對しては一七、二%、可耕地面積に對しては、四五三であり未耕地は可耕地面積に對

して五四・三%に當る。滿洲國竝に滿鐵ではこの未耕地の開拓に大膽であると同時に邦人移民政策の實現のために可耕地の再調査竝に濕地干拓事業確立の調査計畫に努

力し、また治安回復に伴ふ荒廢地の再耕作をも圖つて極力可耕地に既耕地の増加を計つてゐる。

滿洲國耕地統計 (康徳四年度單位千陌)

Table with columns for province names (e.g., 吉林, 遼寧, 熱河), land types (e.g., 可耕地, 不可耕地), and area measurements.

耕地累年比較表 (單位千陌)

Table comparing land area over years (e.g., 大同元年, 康徳元年) for various provinces like 興安, 西省, 察北.

關東州耕作面積 (昭和十二年末現在)

Table showing cultivation area for 關東州 (Kanto) in 昭和十二年末, including sub-regions like 大田, 青田, 金田.

興安四省耕地統計 (康徳四年度單位千陌)

Table summarizing land statistics for 興安四省 (Xing'an provinces) in 康徳四年度.

農家戸數

滿洲の農家戸數及び農家人口に就いては正確な調査を缺くが、實業部(現在産業部)農務司調査によれば康徳元年度に於て農家戸數四、〇〇八、〇五三戸、農家人口合計二

五、六六七千人であつて總戸數に對する農家戸數の比率は八五・二%、總人口に對する農家人口の比率は八四・七%である。なほ統計處調査による、康徳二年十二月末現在の全滿日鮮の滿人産業別人口統計によれば純粹なる農牧林業有業者は滿人九、一五四

千人、日本内地人四千餘人、朝鮮人三九六千人であつた。なほ自作農及小作農の割合は滿洲國第一次年報に依れば自作農四九%、自作兼小作農一八%小作農一八%の比率を示してゐる。

滿洲農家戸數及農家人口 (康徳四年度)

Table listing the number of households and population for various provinces in Manchuria (e.g., 吉林, 遼寧, 熱河).

滿洲國人種別農牧林業従事者人口 (千人)

Table showing the population of agricultural, pastoral, and forestry workers by race (Japanese, Korean, etc.) in Manchuria.

作物一般

農作物種類 滿洲に於ける栽培作物の種類は四〇餘種類である。大豆、小豆、綠豆、粟、玉蜀黍、小麦、大麦、燕麥、蕎麥、稗、水稻、陸稻及特用作物としての棉花、葉煙

草、青麻、荏(蘇子)、洋麻、蓖麻、落花生、胡菜、瓜子兒、向日葵、藥用人參、苜蓿等を主なるものとする。而して大豆、粟、高粱、玉蜀黍、小麦の五種は全產額の七、八割を占め、殊に大豆は滿洲特産の大宗となし世界市場に滿洲大豆としての名を噴いまゝ

分布状態 農作物の分布は、自然的制約に従つて明確な地理的區劃をなしてゐる。大豆、高粱、玉蜀黍、小麦、棉花等は主要農耕地帯に包含され、大豆は吉林、濱江、

農業—作物一般

龍江、三江の所謂穀倉地帯と、奉天、安東の各省が大部分を占め、高粱は奉天、吉林の兩省が中心をなし、粟は熱河省以外の各省農耕地の殆ど全部に均分され、玉蜀黍の中心地は龍江、奉天、安東の農耕地で、小麦は龍江、三江、龍江省地方に主として分布し、北滿の小麥地帯を形成してゐる。棉花は遼中、海城を中心とする一帯の南部地方

に分布し、中部地域では洮南を中心とする諸縣に栽培されてゐる。果樹は奉天以南鐵道沿線及關東州に限られてゐる。なほ滿洲國の農業政策の遂行、農業五箇年計畫の具體化に伴ひ、ルーサン、ケナフ、荏等の新作物が、農業の多角的經營化の趣旨に伴つて大豆代作として奨励され漸く試作の域を脱し普及化しつつある。

主要農作物累年作付面積 (單位千頃)

大豆	其他	高粱	粟	玉蜀黍	小麦	水稻	其他	合計
1933	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1934	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1935	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1936	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1937	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1938	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1939	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1940	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131

主要農作物累年生産高 (單位千石)

大豆	其他	高粱	粟	玉蜀黍	小麦	水稻	其他	合計
1933	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1934	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1935	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1936	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1937	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1938	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1939	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1940	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131

關東州農産作付別及收穫高 (昭和十二年)

作物	作付面積 (千頃)	收穫高 (千石)
大豆	1,131	1,131
其他	1,131	1,131
高粱	1,131	1,131
粟	1,131	1,131
玉蜀黍	1,131	1,131
小麦	1,131	1,131
水稻	1,131	1,131
其他	1,131	1,131
合計	1,131	1,131

農作物收穫豫想調査

滿洲農作物の收穫豫想調査は從來滿鐵が單獨で行つて來たが、昭和九年よりは滿洲國及滿鐵(總局を含む)が全滿洲農作物收穫豫想調査聯合會を組織し「主要農産物の當該年度に於ける收穫量を實際作付面積及作柄に依る適當收穫量を基準として調査し、且出產物の需給に關聯し各種變動的對策を考究すべき指針たらしめ、實收量を調査し農業資源に關する基本統計資料を作成する」もので一年を三回に分ち調査を實施してゐる第一回は七月一日、第二回は九月一日、第三回は十一月一日現在である。康徳五年第一回收穫豫想調査は滿洲國産業部に依つて八月十二日例年の例を破つて計數的發表を廢止し簡單な抽象的方法に依つて發表されたが更に十六日左の如く補足的發表がなされた。

本年度主要農産物收穫高 (單位千石)

大豆	其他	高粱	粟	玉蜀黍	小麦	水稻	其他	合計
1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131
1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131

主要作物

大豆

大豆は滿洲農家の主要な作物で、其の品質生産高共に世界第一とされるが、最優良品種は主として南滿から産するものである。品種は主として二百餘種を數へられるが、大別して黃豆、青豆、黑豆と稱せられ、滿洲大豆として市場に送られるものは大抵「黃豆」である。黃豆は一名元豆とも稱せられ含油量極めて豊富で、食用搾油用共に適してゐる。古くから農家の食料、家畜の飼料又は搾油料として使用されてゐたが、日露戰役後日本商人の手によつて、歐洲市場に紹介されて以來騰貴を擡げ、販路が擴大され、それと同時に生産高も増大し、年額四百萬石乃至五百萬石を生産し、全世界大豆生産高の六〇%を占めてゐる。大豆の國內消費は、大體生産額の二の内外で殘餘のうち六〇%は海外へ輸出され、四〇%は搾油用に向けられ、實に滿洲大豆は滿洲の輸出貿易の大宗をなしてゐるもので、滿洲の特産物たる名に背かない。大豆は滿洲の各地に栽培されるが、特に南滿では遼河流域、北滿では松花江下流地方から濱北、齊北線地方が多い。栽培法は連作不適にして三年乃至五年の輪作とし租耕法で充

分である。その用途は極めて廣汎にして大別して食料、飼料、製油原料として、製油原料の分は豆油として食料、燈油他の他の工業材料となり、豆粕として肥料、飼料となり、更にレシチンとして各種工業原料となる一方その滓は最近燃料以外にバルブ原料となること認められ、豆餅バルブ工業會社が既に新京に設けられ、開原、公主嶺に工場を建設中である。尙ほ最近豆粕から絹毛を製出する方法が發見され目下昭和産業、大豆工業などで實驗中でありその前途と期待がかけられてゐる。

改良増産計畫 優良種大豆の生産、海外輸出の目的をもつて早くより滿鐵では品種の改良に留意し、改良大豆の普及につとめて來たが、滿洲國政府では農業開發五箇年計畫の一端として康徳四年より各省別に大豆改良増産五箇年計畫を樹立したが、この計畫は一面積當りの増收を目指した消極的増産計畫に過ぎず耕地面積の擴張を伴ふ積極的増産計畫でなかつたので、支那事變後の環境急變に依り輸出促進に依る外貨獲得が滿洲國の最大欲求事となるに及んでその誤謬を確認、第二年度より左の如く増産計畫を修正擴大實行に移すこととなつた、即ち修正増産五箇年計畫に依ると年次増産を續け五箇年日康徳八年度には五百萬石に

農業—主要作物

農業—主要作物

増大せしめよう」と云ふ甚大な計畫で實施要項。

- 一、面積増加は主として満洲に依り作物の増加を期し、移民入植確定地外に存在する比較的小面積の二地帯約四十五萬坪の内十三萬坪の増加をなす。
一、増加作物面積に對しては農事合作社(又は縣民)を通じて金庫合作社(又は縣民)より大豆増殖資金三百三十萬圓(相當り約二十四萬圓)の貸與をなす。
一、右資金は滿洲中央銀行より借入れ金庫合作社(又は縣民)に對して轉貸し利率は日歩三錢とす。
一、計畫實行上入滿苦力の制限緩和に關し特に考慮す。
一、計畫遂行上移民の入植確定地に支障を生ぜざるやう現地に於て充分なる措置を講ぜしめる。
尙ほ收穫豫定數量は左の如くである。
康徳四年(實測) 四、二二五噸
同 五年 四、五〇〇噸
同 六年 四、五五〇噸
同 七年 四、八〇〇噸
同 八年 五、〇〇〇噸

高粱

高粱は滿洲農家の主要食糧として重要な作物で用途は更に飼料として良く、又高粱酒と云ふ農家唯一の飲料酒の醸造に當てられる。尙ほ燃料、アンペラ原料、建築材料に用ひられる。輸出高は生産高の三%に過ぎない。高粱の主要地は南滿で、奉天以南奉山線地方が最も多い。平均年産額は五百萬石乃至四百萬石で康徳五年度は作付面積

三、三七一千石、收穫高四、五六六千石(第一回豫想)であつた。

粟

粟は高粱に次ぐ重要な常食品で農家では比較的高級の食料品として扱つてゐる。穀子又は谷子と呼ばれ、食料の外に「黃酒」と云ふ支那銘酒の唯一の原料とされる外、飼料として珍重されるが、生産高の約五%は輸出される。康徳四年度作付面積三、一四四千石(收穫高三、四九千石)であつた。(第一回豫想)

五 蜀黍

滿洲は玉蜀黍の産地として有名で、支那では「包米」と謂ひ高粱粟、に次ぐ重要な食料である。主として南滿洲南部に産し、北部は栽培僅少である。北滿では酒の醸造にも使ふが、豆類の原料にも混用される。粟は燃料とし葉は家畜飼料とする。年産額は百四十萬石から二百三、四十萬石で、康徳四年度は作付面積一、四一八千石、收穫量二、二六、千石(第三回豫想)であつた。尙ほ本品は高粱と共に對日飼料原料として年間合計四十萬石を供給することとなり、これがため滿洲國産粟部では増殖計畫を樹立低利資金百四十萬圓、相當り二十圓を貸

小 麥

與して康徳五年度八十萬石、二十萬石を増殖することとし目下施行中である。

南滿地方の大豆と同じく、北滿地方の重要な作物として知られ北滿一帯殊に濱北沿線に多い。生産額は近年の平均は七、八十萬石で康徳四年度は百萬石を突破したが往年の豐作年たりし昭和六年(滿洲建國前一年)の百五十八萬石には及ばない。その用途は製粉工場に於て麥粉に再生産され、風味佳く他國品に較べて粘り強く、パンの製造には無二の名譽を博してゐるが、温度、虫害等の被害に弱く收穫の目先が極めて不安定で豐凶常なき有様に現狀を匡正すべく滿洲國では康徳元年度に克山に農事試驗場を開設小麥改良試驗に着手し、滿鐵でも公主嶺農事試驗場で大正十四年度以來品種の改良に着手してゐる。
増殖計畫 小麥の需給は逐年増加の傾向にあるので、滿洲國では食料自給化國策上小麥増殖は不可缺とし且つ國內製粉業の振興に對する原料基礎の強化をはかる意味をも含めて康徳四年度より増殖計畫に着手した康徳五年度の作付面積は一、一四三千石收穫高九五三千石(第一回豫想)であつた。

Table with multiple columns: 主要輸出國 (Japan, Korea, etc.), 主要輸入國 (Japan, Korea, etc.), 南滿三港出入船舶國籍別 (Inland, Coastal, Foreign). Includes data for years 1911, 1912, 1913, 1914.

貿易—昭和十二年度(康徳四年度)關東州貿易

Table showing trade statistics for Manchuria (南滿三港) from 1911 to 1914. Columns include country of origin/destination, quantity, and value.

大連港陸量貿易年表

Table showing trade statistics for Dalian Port, including categories like 大豆 (Soybeans), 小麦 (Wheat), and 其他 (Others), with columns for years 康德二年, 康德三年, 康德四年, and 康德五年.

康德五年(上期)貿易

産業五箇年計費費二年を迎へて康德五年上半期對外貿易が前年に引續き益々好調を辿りつゝある。即ち輸出三億九千二百五十

萬圓、輸入五億四千三百五十萬圓、輸出入總額九億三千六百萬圓の巨額を示し、貿易

最近三箇年上期貿易比較

Table comparing trade statistics for the first half of the years 康德三年, 康德四年, and 康德五年, listing categories like 大豆, 小麦, etc.

並に綿製品が依然重要地位を占めることは謂ふまでもない。然し乍ら五年度貿易は統

更に五年上半期貿易につき對日本貿易の地位を見るに輸出は二億二千七百萬圓、輸入は四億一千五百萬圓、輸出入總額六億四

貿易—康德五年(上期)貿易

主要貿易品 (單位千円)

品名	康德三年	康德四年	康德五年
大豆	三、三三一	三、三〇〇	三、三〇〇
其他ノ豆	七、七〇七	六、六〇六	七、七〇七
高粱	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
玉蜀黍	六、六〇六	六、六〇六	六、六〇六
蕎麥	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
花生	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
芝麻	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
棉花	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
大豆油	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
菜油	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
石炭	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
鐵	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
鋼	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
銅	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
錫	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
鉛	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
鋅	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
錳	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
鉻	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
鎳	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
鈷	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
銀	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
金	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
毛織物	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
絹織物	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
紙	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
木材	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
糖	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
茶	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
咖啡	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
胡椒	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
香料	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
染料	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
藥品	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
農具	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
機械	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
電機	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
其他	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇

重要國別貿易額 (單位千円)

品名	康德四年上期		康德五年上期	
	金額	對出入率	金額	對出入率
日本	三、三〇〇	...	三、三〇〇	...
中國	三、三〇〇	...	三、三〇〇	...
英國	三、三〇〇	...	三、三〇〇	...
美國	三、三〇〇	...	三、三〇〇	...
法國	三、三〇〇	...	三、三〇〇	...
德國	三、三〇〇	...	三、三〇〇	...
蘇俄	三、三〇〇	...	三、三〇〇	...
其他	三、三〇〇	...	三、三〇〇	...

商業



商業機關

滿洲國會社法

滿洲國では從來民國十八年に制定された公司法を大同元年教令第三號により援用してゐたが、大體この法律は日本の銀行商法中の會社編を母體とするものであつた。立

法技術上相當缺陷があり、且つ解釋上疑義が多かつたので滿洲國司法部當局では新會社法の立法審議に着手、幾多の進歩的改正を盛り康德四年六月二十日公布同年十二月一日より施行を見た。同法は五章四百四十八條よりなり大體によつて日本商法の會社編改正案に倣つて立案されてゐる。

全滿商事會社一覽 (單位千円)

法人別	社數	公積資金	株式資本	市場
滿洲國法人	...	...	...	...
日本法人	...	...	...	...
合資會社	...	...	...	...
株式會社	...	...	...	...
合名會社	...	...	...	...
合資會社	...	...	...	...
合名會社	...	...	...	...
合資會社	...	...	...	...
合名會社	...	...	...	...

商工公會

商工業の改善發達を目的とし商工業に關する連絡調整、調停仲裁、通報、指導、仲介斡旋、説明、鑑定、調査その他の業務を行ふことを目的とし、その組織は法律により定められた資格該當者を洩れなく加入せしめ、それ等會員によつて組織される。會の指導運用機關は參事會と事務職員で、參事は政府から選任せる人と政府の委嘱せる銓衡委員の選任せる人々によつて組織され、會務職員は政府の任命する會長、副會長及び理事から成つてゐる。而して右機關は康德四年十二月公布を見た商工公會法によるもので、從來の日商會、商工會議所、實業會、商工會及び滿洲國の公議會、商務會は何れも康德五年十月末日迄に新機構下に合併せられ、現在までに全國百十一の設立を見た。

各省別商工公會數

省	數
奉天	...
吉林	...
遼寧	...
山東	...
河南	...
湖北	...
湖南	...
四川	...
廣東	...
廣西	...
雲南	...
貴州	...
陝西	...
甘肅	...
寧夏	...
青海	...
新疆	...
察哈爾	...
綏遠	...
熱河	...
遼北	...
遼東	...

商業—商業機關

Table with columns for province (省), city (市), and list of commercial organizations (商工公會).

各省別商工公會一覽表

(續前表) (昭和五年十月末現在)

Table listing commercial organizations in various provinces, including names and addresses.

Table listing commercial organizations, including names, addresses, and branch locations.

Table listing commercial organizations in various provinces, including names and addresses.

Table listing commercial organizations in various provinces, including names and addresses.

Table listing commercial organizations, including names, addresses, and branch locations.

△興安北省 滿洲里商工公會 李維朝 海拉爾正街二七號
△興安東省 扎蘭屯商工公會 同年 滿洲里市
△興安南省 博克圖商工公會 同年 滿洲里市
△興安西省 滿洲里商工公會 同年 滿洲里市

滿洲入組合 昭和二年先づ奉天に創立され、現在全滿十七都市に設立を見、これが統一機關として、昭和三年八月大連に滿洲輸入組合聯合會が設立された。最初資金五百萬圓を限度として、滿鐵より無利息で借受けたが、昭和八年より年賦償還を行







し、前者は普通の寄託營業で後者は寄託貨物の重要な地位を占むる大豆及び其製品が其の品質の不統一其他に依り取引上不便不利あるを顧慮し之等を銘柄取引すべく混合保管制度を設け、以て之等商品の對外信用を高むると共に併せて鐵道輸送の圓滑を期してゐる。混合保管の主なる利益は(イ)分置保管に比し倉庫の保管能力を高む(ロ)入出庫作業の簡易化(ハ)従て倉敷料其他料率の低減を來す(ニ)銘柄商品となり商品流通上の利益大等。

倉庫營業

(昭和十三年九月二十日現在)

Table with columns for '分置保管' (Separate Storage) and '混合保管' (Mixed Storage). It lists various commodities like '大豆取扱' (Soybean handling), '大豆貯取扱', and '大豆油取扱' with their respective storage capacities and locations.

保稅倉庫 滿洲國では十數年來の懸案で

あつた同制度を昭和十一年十二月一日より實施所在を奉天、新京、哈爾濱八區の三箇所とし外に保稅貨場を安東、山海關、龍井村、滿洲里、綏芬河、營口の七箇所を設定した。これが經營に當る滿鐵會社は十一月十七日保稅輸送規程並に保稅倉庫規程を發表したが、倉庫面積は奉天七千五百六十六平方、新京三千三十七平方、哈爾濱八區一千六百八平方、從來の開港地通關制度に見る不利不便を除去し、商取引の圓滑を期するを主眼としてゐる。

滿鐵以外主要倉庫業者

Table listing major warehouse operators outside the Manchurian Railway. Columns include '所在地' (Location), '倉庫名' (Warehouse Name), '設立組織' (Establishment Organization), '資本' (Capital), and '面積' (Area).

物價・貨銀・諸相場

最近物價の動向

概説 建國後の滿洲國の物價の動きを顧みれば大體に於て世界物價の動向と歩調を一にして騰落し、特に日本とはその經濟

Table showing price trends for various commodities in Manchuria. Columns include '品名' (Commodity Name), '單位' (Unit), and '價格' (Price). Items listed include '鞍山日滿倉庫', '大連日滿倉庫', etc.

關係が年と共に緊密化し來つた結果日本(東京)の物價動向には最も敏感であつた。別表「内外卸賣物指數」に就て見ればこの關係は一目瞭然たるものがある。

康徳元年世界的不況が漸く底を觸き農産物價の恢復が特に顯著となるや特産雜穀等滿洲の農産物は一齊に昂騰を辿り物價指數上向の先驅を爲し殊に特産の如き大同元年基準康徳二年平均指數は一七九(新京)に躍進し、同三年平均は一八六と高値に保合ひ、四年に至つては輸出最盛期特に強調を量し、年間平均二〇二と大同二年の二倍に昂騰した雜穀類も騰率は特産に稍劣るとは謂へ特産高に隨伴して可成り顯著な騰勢を示してゐる。世界的農産物價の立直りが與へて力あつた。

特に康徳三年秋以來の世界物價高の波瀾は滿洲國の岸をも襲ひ、康徳三年十二月以降特産雜穀等のみならず金物、一般食料品等も俄かに昂勢を早め來つた。鐵鋼類其他金物類、一般國產要品の顯著な騰勢は日本に於ける爲替管理強化、關稅引上等に伴ふ先高の思惑人氣に左右された點も少くはなかつた。四月以降世界物價が反動期に入るや滿洲の騰勢も挫折し、指數は六月以降横道ひ状態に入つたが、これとて全面的反落を呈した譯ではなく、特産類が出過期を過

ぎて季節的に低下し或は精製品等が稍類化した程度で、金物類は土産界が季節的に活況を呈し來り、需要増加するに對し供給圓滑を欠くなど需給不均衡から尙ほ騰勢を演じたのであつた。

日滿物價の特殊關係 康徳四年七月、支那事變勃發するや再び思惑人氣を誘發し金物類は騰勢に拍車を加へ食料品も果然反騰に轉じた。この間世界物價水準は農産物の崩落や英、米株式場、商品市場の暴落を眺めて低落の前途に急を加へ、恢復の兆更になく越年し、康徳五年に入るも依然低落の一途を辿つてゐる。

日本物價が事變による輸入管理の強化と在庫等の結果、政府の抑制策も利かず、世界物價の動向に反して康徳四年初冬來、再び騰勢に轉ずるや、滿洲の物價も世界的物價の動きとは全く遊離し略日本の物價と同様な歩みを辿るに至つた。世界經濟の動向よりも多分に日滿の特殊事情に左右された譯である。日滿經濟の一體不可分を經濟建設の最高指標とし、事變の勃發を見るや右の指導原理に基き凡ゆる部門に互つて本の戰時體制に對應した諸對策の樹立を見た結果蓋し當然の成行と謂はねばならぬ。そして康徳五年に入るも滿洲の物價は世界的物價の動きを他所に略日本の動きと歩調を

共にし來つたのであるが、康徳五年春以來滿洲の物價は急激に騰勢を早め、その騰勢は日本を遙かに凌いだ。即ち康徳五年三月の東京卸賣物價指數(日銀)一三九・七は四月反落の後五月又騰勢に向ひ七月は指數一四と三月と六月に於て殆んど變化がなかつたに對し、新京の卸賣物價指數(中銀)は三月の一三〇・一より七月一六一・七となつてゐる。日本に於ては各種の統制が微に入り細を穿つて行はれ、却つて公定價格制により引下げさへ見たものも數ある中に滿洲では日本ほど手強い統制が加へられず、却つて一般の思惑人氣が白熱化し換物運動を誘致する形勢となつたことが、かくも日滿間の物價遊離を招來したものと謂へやう。

支那事變の影響 支那事變勃發前の康徳四年六月を基準として同五年六月に至る一箇年間の卸賣物價の動きを見るに東京は僅か六分七厘の騰貴に止まるに對し新京は實に三割〇分四厘の暴騰下ある。これも五年四月以降の騰勢により招來された開きで四年三月迄は東京五分五厘に對し新京は四分八厘の騰貴に止まり、それまでは東京に追隨の形であつたのである。今中銀の指數によれば康徳五年三月迄は騰勢も比較的後發漫で食料品が一割一厘、金物が九分四厘、諸雜品に於て一割五分一厘といふ程度

であつたが、四月以降各別を通じて一齊に奔騰、就中紡織品、金物等に於て特に顯著であつた。紡織品は圓ブロッツクへの純綿輸出禁止、國內綿紡への棉花統制料徴收が強く響いたもの、また金物類は日本の使用制限による需給の不均衡を挙げ得やう。

最近一年間の推移

Table showing price index trends from 1924 to 1925 for various categories like food, clothing, and raw materials.

内外卸賣物價指數 (滿洲中央銀行調査)

Table of domestic and foreign trade price indices from 1924 to 1925, including categories like food, clothing, and raw materials.

新京卸賣物價類別指數 (滿洲中央銀行調査)

Table of price indices for various goods in新京 (Changchun) from 1924 to 1925.

(その二) 價格の國際關係並に農民の輸入或は賣却商品別によるもの

Table showing international price relationships and farmer-related price indices from 1924 to 1925.

(その三) 商品の生産過程を標準とするもの

Table showing price indices based on standard production processes for various goods from 1924 to 1925.

商業—物價・貨銀・諸相場

Table with multiple columns showing commodity prices for various months from 1914 to 1915. Includes items like rice, oil, and other goods.

(その四) 商品の生産組合別によるもの

Table showing commodity prices categorized by production group (e.g., agriculture, industry, domestic products).

新京重要商品卸賣物價指數

Table of indices for major commodities in the new capital, including items like soybeans, cotton, and various oils.

支那事變を契機とせる新京主要商

品卸賣物價指數の動向

Table showing the movement of commodity price indices in response to the Sino-Japanese conflict, covering various goods and time periods.

大連卸賣物價指數

Table of indices for commodities in Dalian, including various foodstuffs and raw materials.

商業—物價・貨銀・諸相場

昭和五年 六月 七 八 九 十 十一月 十二月 平均 一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月 平均

大連小賣物價指數 (大連商工會議所調査)

品名	昭和五年六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
穀類	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
豆類	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
肉類	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
魚類	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
調味料	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
嗜好品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食料	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
衣料品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
雜品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
總平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

昭和元年 二月 三月 六月 九月 十二月 平均 一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月 平均

滿洲主要都市小賣物價指數 (滿洲國經濟部調査)

都市	昭和元年二月	三月	六月	九月	十二月	平均
新京	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
奉天	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
哈爾濱	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
吉林	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
齊齊哈爾	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
營口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
安東	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

# 滿洲鐵油膏組台御用

## プッスバ

浴精 家庭温泉

求めよ健康

ペップ(元氣)は招く

保健と體位向上に

本品の誇る點は、得も云はれぬ心地よい陶酔境の中に薬効が迅速に皮下に滲透直達してシンから暖まり秀れた効力を發揮する事!

推奨

- 醫學博士 井上壽次郎先生 (内科)
  - 醫學博士 太田正雄先生 (泌尿科)
  - 醫學博士 加藤基七先生 (得疾科)
  - 醫學博士 福島東作先生 (神經學)
  - 醫學博士 片平重次先生 (細菌學)
  - 醫學博士 雨宮保衛先生 (神經科)
- 世界的權威醫學博士三浦謙之助先生も實驗奏効を首肯され患者に使用を推奨せらる

主効  
感冒豫防  
神經痛  
婦人病  
冷え性  
痔疾  
皮膚病



會商プッスバ 東京

土木建築請負業  
設計監督並勞力供給



福井高梨組

大連市東公園町三十九番地

事務用 二二三五四九番

技術用 二二四二一六番

幹部用 二二八七四七番

支店 奉天、新京、北京、鞍山、哈爾濱、大石橋、營口、宮原、安東、阜新、北票、牡丹江、佳木斯、天津、濟南、張家口

目種業營

青島工內石煇  
性業學外驗燭  
曹藥藥油原原  
灰達品品脂料料  
耐礦ア附機麥一  
火油酸製隨械  
煉原料類品類  
瓦類



株式會社 北澤商店大連支店

出張所 東京日本橋區堀留町一丁目四ノ一、名古屋市西區茶屋町二丁目二〇、奉天法租界七號路新華大樓三〇七號、天津法租界七號路新華大樓三〇七號、上海九江路二〇號

本社 大連市東區北濱三丁目七番地、大連市山縣通二番地東拓ビル、電話(三)二四三二番(三)一六九〇番(三)六九四四番

製氷、冷蔵、凍菓 (アイスクリーム各種)  
新京住吉町九丁目四番地



新京製氷所

工場 新京住吉町九丁目 電話(3)三八三五番  
同 長春大街 第一工場  
同 蓬萊町一丁目 第二工場  
販賣所 同 長春大街 電話(3)六五〇五、六五〇六  
同 同 電話(2)三三七一、三四六九  
凍菓部 新京長春大街 電話(2)二五三一

新築家屋  
各室電話  
設備完備  
客室四十五室

滿蒙ホテル

新京中央通(郵便局前)  
電話代表(3)三五一一番

奉天大和區浪速通り(大和ホテル隣)

### 寺嶋寫眞館本館

電話三三三二七七番

奉天大和區琴平町(奉天神社前)

### 寺嶋寫眞館別館

婚禮専門

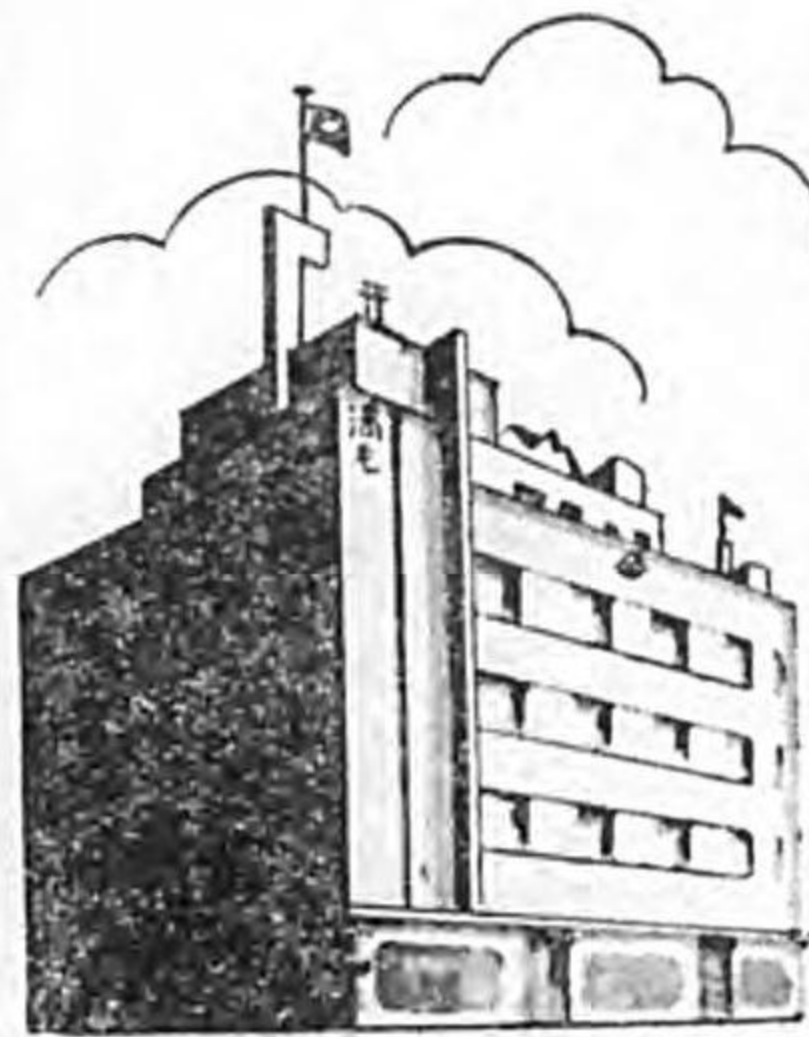
電話三三三九七二番

奉天

### 瀋陽館

館主 田實大次郎

電話代表三三三二七七番(五)



一等入選 買物上手・滿毛

奉天 滿毛 百貨店

滿洲國隨一遠心力應用特許コンクリート製品



### 新進コンクリート工業株式會社

奉天	鞍山	錦州	齊齊哈爾	阜新	吉林	佳木斯
鐵道	鐵道	鐵道	鐵道	鐵道	鐵道	鐵道
③③③	③③③	③③③	③③③	③③③	③③③	③③③
二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
四四四	四四四	四四四	四四四	四四四	四四四	四四四
五五五	五五五	五五五	五五五	五五五	五五五	五五五

本社 奉天 淺間町三番地

電話 ③③③ ③③③ ③③③ ③③③

鐵管に代るヒューム管



### 日本ヒューム管株式會社奉天支店

奉天市浪速通り二四  
工場 奉天市大西邊門外十里碼頭  
電話三三三六六五番  
電話二二二五五四番

大連市若狹町二番地



義昌無線電氣株式會社

出張所 電話  
 奉天 振口座大連 一一二二  
 新京 宇治町 二二二二  
 興安 大街 二二二二  
 安大 街 二二二二  
 二百六十番地  
 十番地  
 番地

大連市常盤町三番地(永喜ビル三階)



日本紙業株式會社 大連出張所

本社 東京  
 支店 大阪、京城、高知  
 工場 東京龜有、藝防、土佐伊野、大連  
 電話 國③一ニ二四番  
 受信略語(タイレンカミマルイチ)  
 電信略號(〇二)又ハ(〇)

W. NIGGEMANN & CO.

營業課目

輸出部 滿洲特產物一切  
 輸入部 鐵鋼材  
 重化學用品  
 農具金物類一切  
 トラクタ  
 鑛山用機械類一切



萬豐洋行

支店、出張所  
 大連、奉天、新京、哈爾濱  
 大連市山縣通十八番地  
 電話二一七九八四番

滿洲日本毛織株式會社代理店



株式會社 竹馬商店大連支店

大連市大山路八十三番地  
 電話 四二二九三番  
 振替口座 大連一三三三番  
 支店  
 神戶市神戶區元町三丁目三五番  
 東京市東區安土町四丁目三五番  
 大阪市東區區安土町四丁目三五番  
 京都市中區區安土町四丁目三五番  
 奉天市千代田街一〇〇番  
 哈爾濱市道里街一〇〇番  
 新京新道里街一〇〇番



資本金 國幣貳百貳拾萬圓  
 創立 康德元年十月



奉天商工銀行

預金貸金爲替其他  
 一般銀行業務

本行支店：奉天、哈爾濱、商埠、十間、平山、鞍山、通支店  
 奉天支店：奉天、哈爾濱、商埠、十間、平山、鞍山、通支店  
 奉天支店：奉天、哈爾濱、商埠、十間、平山、鞍山、通支店

營業  
 種目

一般銀行業務

奉天銀行

頭取 石田武亥  
 本店 奉天大和區琴平町十番地  
 支店 鐵嶺

滿洲唯一



東亞鉛筆株式會社

◎ハト印鉛筆  
 ◎獨逸規格レコードインキ

奉天市鐵西區南一路二十一番地  
 電話 三三五五八番

營業  
 品目

各種ペイント・各種ワニス・各種ボイルド油・ヒマシ油  
 亞鉛華・光明丹・リトホン・人造樹脂・ラツカ



日本ペイント株式會社

奉天市鐵西區南三路  
 電話 三二二六五・三三〇二・三三〇三  
 本社 大阪支店 東京支店 奉天

營業科目  
 一、書籍雜誌及各種帳表  
 二、類ノ印刷並裝釘  
 三、平版印刷、鉛版、凸版、寫真製版、原色製版、諸帳簿類  
 四、寫真製版、原色製版、諸帳簿類



大日本印刷株式會社滿洲總代理店

興亞印刷株式會社

本社 奉天市鐵西區中央路二二・二四番地  
 私書函 奉天中央郵政局私書函十九號  
 電話① 國五九八五・國五九八六  
 電話② 五七四九・五七六〇・五九八四  
 支店 新京興安大路五二〇番地  
 私書函 新京郵政局私書函四十三號  
 電話② 一九九〇・一七五五

奉天市大和區信濃町十三番地



協和オフセット印刷株式會社

振替口座奉天一五〇番

電話 三二五四三五  
 三二七九五八  
 三三三七七四

出張所

大連吉野町三四・松浦屋印刷所内  
 電話(二) 九四四三  
 新京老松町二四番地  
 電話(三) 三六八六  
 哈爾濱道裡工廠街四〇  
 電話(五) 一三三七

水 稻

満洲の水稲はその歴史浅く四、五十年の過去を持つに過ぎないが、地味は概して好適し、安東米の如きは越後米に劣らない、穀價を博してゐる。水田適地は遼河、松花江、牡丹江、穆稜河、嫩江、鴨綠江、太子河、運河等の各流域に亘り、極めて廣大な可耕地が展開されてゐるが現在のところ二一〇万、約五〇萬石の收穫量に過ぎない。水田は主として鮮農によつて開發され、新京、奉天、撫順、安東、開島、松崗、海城、營口等の南部地方や、北部海林地方、東部間島省一圓に水田が展けてゐる。而して今後本邦滿洲移民の増進、鮮農移民の進出に伴ひ水稲栽培は益々普及されるものと見られ滿洲國及府でも積極的の増産計畫に乗出すこととなつてゐる。

陸 稻

陸稻は滿洲名で粟子と稱し大部分は滿洲人の食物用で、一部製菓原料にも充てられる。水稲に比べ品質は著しく劣り、價格低廉ながら、早生にして滿洲の氣候風土に適してゐるので廣く滿洲農家に栽培されてゐる。康德四年度の豫想收穫高は十四萬石であるが産量は漸次増大の傾向にある。

特 用 作 物

棉花、烟草、麻類、甜菜は特用作物として滿洲農家の副生産品となつてゐるが、穀類が全耕地の八〇%を占め殘餘の二〇%中大部分は特用作物の栽培に當てられる。農業開發五箇年計畫はこの特用作物類の自給自足主義確立を中心として行はれるわけに今後に於ける特用作物の増産は刮目すべきものがある。

棉 花

滿洲の棉花は北緯四三度半以南に栽培され、奉天省錦州省、熱河省、一帶は棉作適地とされて古くから在來棉が栽培されてゐた。即ち奉天省(瀋陽、海城、蓋平、復遼中、新民、營口)錦州省(黑山、北鎮、錦中、錦西、興城、綏中、義、朝陽、阜新、遼寧、彰武)熱河省(凌源、凌南、平原各縣)等が主産地で在來棉栽培され、この在來棉は四、五種あり、大部分は纖維太く、彈力強く、中人綿、湘團綿に供され、中には紡出可能の良品もある。なほ米棉は遼東州内に栽培され好成績を挙げつゝある。滿洲棉は昭和九年多初めて内地市場に紹介されて非常な好評を博し、棉業原料の滿洲よりの一部供給が叫ばれ、滿洲國成立と共に三十萬町歩

一億五千萬斤生産の二十箇年計畫が先づ樹立され、實行機關として昭和八年四月滿洲棉花協會が設置され改良陸地棉アメリカ原種圃、採種圃の經營、種子の配付指導技術員の地方駐在棉花組合の輔導等に當らしめる一方、棉花の買入保證、農民の福利増進を圖る見地から特殊會社法により昭和九年四月資本金二百萬圓の滿洲棉花股份有限公司が設立され、棉作振興に當つてゐる。

増産五箇年計畫 以上の如く改良増産計畫が樹立されたが、商業五箇年計畫の具體化は日滿經濟プロツクの強化上一日もおろそかにすべきでなく、棉花と雖も二十箇年間の長日月を標るのでは遺憾の點が多いので滿洲國政府では棉花栽培二十箇年計畫を變更して新しい五箇年計畫を樹立する。棉花栽培を行ふことになつた。康德四年を起點にした新計畫は五箇年後に作付面積八十萬町、實收收穫高約二億五千萬斤を目標とし、品種は在來棉より陸地棉(アメリカ種)の栽培に主力を注ぐ方針で陸地棉の收穫は極に在來棉を凌ぐことになる。これには棉花協會、棉花公司とも協力、南滿農民の棉花栽培への轉換を圓滑に進捗せしむべく努力することになつてゐる。なほ兩機關の現況は左の如くである。

▲滿洲棉花協會

農 業——主要作物



計	五三三、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇
計	三〇〇、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇
計	二〇〇、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇
計	一〇〇、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇
計	一〇〇、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇
計	一〇〇、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇
計	一〇〇、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇
計	一〇〇、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇
計	一〇〇、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇
計	一〇〇、〇〇〇	支那	一、八〇〇、〇〇〇

**炸露** 炸露は東洋就中朝鮮及日本の一部に飼畜せらる。他は殆ど支那山東省及び滿洲の特産にして、滿洲では百年前から飼育されてきたが、産地は遼平、岫巖、寬甸、安東西豊の各縣が代表的である。露場は山腹の炸露林で農民の副業であるが天候不順、病害等により豊凶の度が高い。ため滿洲國政府では病害豫防の研究中である。生産額は大體平均十七六億粒、價格一千五百萬圓内外で約三割は安東附近から輸出される集散市場の主なるものは安東、遼平、岫巖、松山、等である。

炸露は存続と秋飼とあるが、秋飼を主としその糸は絹の代用品ともなり羊毛に混織されて、支那絹として織られるが、滿洲國並に滿鐵では品種の改良に奮力し殊に滿洲國畜産部では康徳二年に安東、海城、遼平に炸露検査所を設け、又康徳三年に西豊に炸露種蠶を設立する一方、當業者をして炸露同業公會を組織せしめ、斯業の發展に奮力して来たが、更に産業開發計畫が國

農業政策

際收支適合の新観察から再検討されるに到り、本品と新計畫に編入することになり新たに炸露絲増産五箇年計畫を立案して康徳五年度より積極的開發に乗り出すこととなつた。當り現行の「全炸露絲業公會聯合會」を廢止し新に「全炸露絲業公會聯合會」を制定し國立検査所」を設置することとなつてゐる。尚ほ本年度收穫豫想高は左の如くである。(單位千粒)

遼	四五〇、〇〇〇
平	四〇〇、〇〇〇
西	三〇〇、〇〇〇
東	三五〇、〇〇〇
安	二八〇、〇〇〇
岫	八〇〇、〇〇〇
海	一、七〇〇
遼	一、七〇〇
全	一、七〇〇
計	七、六三、七〇〇

ちに國富を増進する。それだけに農事施設が行はれ特に滿鐵では農務課を中樞機關として農業の助長行政を行ひ、現場機關として各地方事務所、農事試験場、試作場、苗圃其他各機關をして改良増殖計畫に力を注いでゐた。滿洲國成立後政府は舊政權當時省みられなかつた農業政策、農村問題に留意し、滿洲國實業部では先づ穀物の種子改良による増收を計畫し大豆、小麦の優良種子配付に次いで棉花の増産を計り、炸露の増收を計つた。又穀物の共同販賣制度を試験的に行ひ、農産物の豫想調査をなし、農事指導員を各縣に派遣し、農事試験場、氣象観測所等を設ける等の事項が急速に實施されたのみならず、金融組合の設立を急ぎた。春耕資金の貸付及特産の投資を防止するための貸付をなす等、建國當初より意を農業政策に注いだ。一方滿鐵でも農務課は勿論國有鐵道の委託經營により設置を見た鐵路總局に附設科を設け沿線農村の開發振興に努力し、(康徳三年昭和十一年)十月滿洲鐵道經營の一元化と共に鐵道總局内に産業課を設け本社の産業部農務課と協力して沿線農村の發達に滿洲國と協力全滿鐵村の開發に力を注いだ。

**農政機關** 滿洲國建國と同時に實業部内に農務司が置かれ、實業部外局として設け

られた臨時産業調查局並に民政部農政部と共に諸般の農政に奮力、康徳四年七月第二次經濟設計畫の具體化に對應して行はれた政府機構の一元化により實業部は産業部と改稱、依然として農務司が設置され、農政、農商、特産、水産の各科によつて一元的な農業政策、農事改良施設が着々と行はれてゐる。なほこの農務司の外に移民事業に對しては別に拓政司が設置されてゐる。滿鐵の畜産部農務課同鐵道總局畜産課も別の意味で農政機關とも云へる。

**指定農村振興方針** 滿洲國では農村對策として各種農作物の改良、増殖、農村蘇化、農村金融の改善、保甲制度等を実施し農村振興に邁進してゐるが、廣汎に亙る地域と農業知識淺薄なる全滿洲農村にこれ等諸對策を普及徹底せしめるため、各縣毎に適當の農村を指定し、是等指定農村に對して農村振興上必要な政府の諸施設獎勵及び指導を綜合的組織的に集中實施し、農村振興上自立自救の權限的農村たらしめようとし、年次別計畫を樹立康徳三年度より實施した。

**農業關係調査** (一)農村實態調査、臨時産業調查局を主體にして農村に於ける社會經濟的關係の基礎的事項を闡明し土地制度、小作關係、農業勞働關係に對する諸對

策、農業經營、農村金融、物資配給方法の改善、農民負擔の合理化等農業政策樹立の資に供せん爲め康徳二年度より實施された。(二)農産物生産量調査、滿洲國畜産部農務課(總局を含む)よりなる滿洲農産物收穫高豫想調査聯合會が組織され年三四回河北省並に興安全省を除く全滿の農作物を調査してゐる。(三)農業上の土地利用調査、土性調査も着々と實施されてゐる。

**滿洲國農業政策委員會** 滿洲に於ける農業農民問題に不易の綱領を樹立せんがため康徳四年春日滿洲界の權威を網羅して組織されたが、同年五月十日から十五日迄の六日間委員長小平關東軍顧問始め東條參謀長、滿洲國神戶總務局長、關東局武部總長、滿鐵佐藤農林課長、日本側那須、橋本其他各博士等委員幹事七十名集集の上層議會を開催滿洲國農業政策の基調を左の如く規定した。

凡百の農業政策は農本立國の主旨に則り盟邦日本との經濟ブロックの強化、農民生活の安定、向上、移住農民の發達を促進するを任務とし、そのゆるぎなき遂行のために精良なる農民を養成し農村發達を圖り以て農業資源を劃期的に開發し國民經濟を充足發達せしめる。

以上の根本規定に準據して左の如き對策

を作成、滿洲國政府に答申した。

**農政方針**

- 一、農務課を設立すると共に對地的第一時代の價値から農民を指導し、土地は實際的使用者の權利を確保するために使用放修權を確立し、以て農業經營の安定を期す。
- 二、更に進而相當革新的なる土殖制度を確立する。
- 三、農民負擔に對する政策
- 四、農村金融に對する政策
- 五、農村改良に對する政策
- 六、滿洲國畜産開發計畫により小麦、米、棉花、ケナ



農業—農業團體

の金利を賤下程度)の割合に達するまで配當をなすものとする。

輸出原料統制事項

一、日本の原料統制會社が輸入する本邦産原料は...

農業團體

滿洲農產團體中央會(康德二年昭和十年)...

九月設立滿洲國、關東局及び滿鐵の援助下...

もつて組織し、事務所を大連に置き、農業...

經營の合理化、農産生産品の販賣發旋農業...

用品の共同購入等の事業を行つてゐる。

滿洲農事信用組合 在滿邦農に對する短...

期農業資金の調達を圓滑ならしむるため滿...

滿洲農產團體中央會と協力し康德三年...

八月創立されたもので組合員は農業者中...

央會に加盟の農業者は一萬二千六百六十...

四年七月末の出資口數は一萬二千六百六十...

出資金五十一萬八千圓拂込六千九百餘圓で...

ある。

滿洲特産中央會 滿洲農産物の大宗をな...

す大豆並にその製品たる豆粕、豆油其他滿...

洲特産物の品質、輸出販賣、取引の諸問題...

は滿洲國の經濟建設上重大關係を有するの...

と協議、滿洲國政府は關東局、滿鐵民間業者...

目的とする「滿洲特産中央會」を康德二年六...

月設立した。會員は特産輸出業者其他の...

特産關係業者及其他の團體よりなり、本部を...

新京に支部を大連に置き、内外重要都市に...



概説

滿洲に於ける畜産は其の廣大なる地域と...

家畜概説

つゝあり年々多少の家畜及畜産物を支那、...

駐在員を派してゐる。事業の主なるものは...

主要農業團體一覽表

- 滿洲農產團體中央會所屬團體 關東局農...

畜産—家畜概説

に努めてきたが、馬政局を畜産局に改組後  
も同様に鋭意奮闘せしめて来た。  
主として南滿地方に畜し南下するに  
随ひて多く、奉天、錦州、熱河各省の南部  
は殊に多く、良質のものを産する。種には大  
種と小種との二種ありて大種は體高一二〇  
—一五〇釐で山東、直隸地方より輸入され  
種として、東部の生産に使用される。一般に  
使役されるものは小種であつて體高八八—  
一一〇釐位である。

ハルビン以南の南滿に畜し、新京を中心  
として最も多く且つ良質のものを産す  
る。一般に舊製地帯に多く新製地帯に少く  
蒙古人は繁殖力のない種は生産使役しな  
い。體高は蒙古馬より大きく(體高普通一三  
〇—一六〇釐)粗食使役に堪へ得る勞役家  
畜である。種類は頭排驢子及び二排驢子の  
二種あり、前者は牝馬に大體を配し、後者  
は牝馬に小體を配して生産される。  
漢人種の最も愛好する肉畜で、分布  
頭數頗る廣大で漢人の居住する地方には到  
る處飼養されてをり頭數も六百萬頭に及ん  
で居るが蒙古の所謂純牧地帯に現在に於て  
も豚は皆無の状態である。滿洲における豚  
は支那本部より漢人の移住と共に輸入され  
たもので大型(二箇年牛で四百斤に成長)中  
型(二箇年で三百斤内外)、小型(一箇年牛  
で百七十斤)の三種がある。普通毛色は黒  
色であるが、滿洲豚は繁殖力強く、一年二  
産又は二年に五産し、一腹より七、八頭乃  
至一四、五頭平均九頭内外の仔を産む一產

の仔數は大形種、中形種多く小型種稍少。  
滿洲豚の肉は一般に色濃く濃赤色を呈  
し、筋維粗く肉質稍硬けれども風味富  
み、特に小型種の肉は味良好である。滿洲  
豚の改良に關しては關東州及び滿鐵沿線に  
於てハイクシャー種を使用し顯著な成績を  
挙げつゝある。  
種 國內で飼養される在來種羊は蒙  
古種で、普通體量壯三五—六〇位、牝  
二五—四五内外で、體高は幅廣く、四肢  
細く、筋肉は發育して強健、尾は特殊の形  
状を呈し脂肪を有するものが多し、蒙古  
羊は肉用を目的として飼養されて来たた  
め、肉質良好であるが脂肪分の多い欠點が

ある。毛用としては産毛最少のみでなく  
毛質も不良であり、毛用を主目標とする改  
良事業が國策的見地から進められて来た。  
滿鐵では夙に大正二年より農事試験場  
於て蒙古羊の改良試験に着手した。即ち蒙  
古羊の毛質を改良し毛量を増加すると共に  
肉質及肉量に於ても在來種に劣らざるもの  
を得べく、「メリノウール種」「ニュージー  
ランド種」(又サウスダウン種)を使用し蒙  
古在來種との間に交配種を生産し、順次試  
験の結果メリノウール種、雜種よりも優れて居  
り、羊毛改良の有望、可能なことが明か  
になった。  
多種類綿羊の産毛量に關する滿鐵農事試  
験場の試験成績は次のやうである。

種	種類	統計年數	別毛月	尾	平均
古在種	種	十八年間			
	種	同			
	種	同			
	種	同			
	種	同			
ラムブレッド種	種	十四年間			
	種	同			
	種	同			
	種	同			
	種	同			
メリノウール種	種	十三年間			
	種	同			
	種	同			
	種	同			
	種	同			

山 羊 山羊は綿羊よりも體質強健、粗  
食に堪え、礮礮の山地にも飼養し得、繁殖  
率も旺盛である。體格は綿羊よりも稍小さ  
く生體量牝二〇—四〇磅、牡三〇—五〇磅  
内外で、肉用の外に毛皮用又は製革原料と  
なり、山羊毛は主として毯子等に用ひられ  
る。

其 他 鴨は滿洲國內至る所の農家に飼  
養されその型態は種日頗多で一定の型を有  
しない。鴨は蒙古與安省西北並に熱河省  
に産し大蒙古支那支那支那支那支那支那  
は滿蒙の毛皮として有名である。

疫 滿洲畜産の缺陷は家畜資源の劣  
悪なると各種防疫の流行猖獗甚しきこと  
之が爲各地に年々多數の被害を見て居る。  
建國前は住民の衛生に關する無智識と  
官憲の防疫防退に關する無施設の爲め、罹  
病畜の損害莫大なるものがあつたが滿洲  
國では防疫醫官の配備、獸醫養成所の設置  
其の他家畜衛生智識の普及向上に努力しつ  
つあつた。康德四年十二月家畜傳染病預防  
法の公布を以て法定家畜傳染病を鼻疽、炭  
疽、牛疫、牛肺疫、口蹄疫、羊痘、豚疫、  
豚コレラ、牛結核、犬病並に馬及綿羊の疥  
癬の十二種と定められ茲に統制ある防疫處  
置を容易ならしむるに至り家畜の改良増産  
と相應し、愈々各種防疫に邁進中である。

畜産—畜産品

畜種	産出量
牛	...
馬	...
羊	...
猪	...
山羊	...
鴨	...

なり又商品として販賣或は輸出される。  
毛皮及毛製品 羊は従來肉及毛皮用とし  
て飼養され羊毛は副産物として取扱はれて  
る爲め外國産羊毛に比較して著しく遜色あ  
り、主として下等雜紗、下等毛布、フェル  
ト、絨氈等の原料とされ、毛皮は防寒服  
用して用ひられて居る。  
豚毛は刷毛原料として用ひられ其の中心  
市場は奉天で、出廻期は豚の屠殺が冬季に  
多く且つこの季節には豚毛もよく密生する  
ため毎年二、三、四、五月を出廻最盛期と  
する。輸出先は大部分歐米にて支那に次  
ぎ康德元年度二百四十四萬五千圓、康德二年  
度二百七十九萬六千圓、康德三年度、四百  
四十萬四千圓、康德四年度六百五十四萬圓  
にて滿洲主要輸出品の中に擧げられて居  
る。此の外馬毛、駱駝毛、牛毛等の産があ  
り、毛製品の主なるものは毯子、氈帽子、  
毛襪、毡襪子、嚮子等がある。



皮革の原料は豊富なるに拘らず、一般に満洲産皮革は品質劣等であるが、最近に於ける日本製革技術の進出は今後の満洲皮革界に貢献するものと見られる。主要集散地は哈爾濱、奉天で輸出先は歐洲、天津方面である。

獸骨及乳製品 牛、馬、羊、豚、豚等の骨の産額相当あり骨粉製造業と其の製品輸出は將來有望視されてゐる。乳及乳製品は蒙古人の常食であり又日本人及びロシア人により消費される。

畜産加工工業 現在のところ未発達であるが滿洲では北滿において畜産よりの加工工業（先ず豚肉牛肉の罐詰、バター、乳製品）を勃興さすべく、昭和十一年六月獨人カーレル、レイマンを招聘、哈爾濱に工場を新設せしめてゐる。

### 畜産施設

康徳四年度より着手された畜産開發五箇年計畫に於ても家畜の改良増殖は重要な一部門をなし、殊に種羊、首匹の増殖、品種改良に主力を注がれてゐるが、同四年七月の滿洲國行政機構改革により畜政局及び畜産部と畜政部の畜産科は統合せられ、畜産局が開設せられ、この一元の機構の指導下に畜産關係の事業及び施設が著々整備されつつある。また康徳四年度より各縣單位に農業者を構成員として結成される

農事合作社でも一般農事々業と共に畜産事業をも併せ行ふ筈である。

目下の諸施設とその所在を示せば次の如し  
一 養馬場  
國立養馬場は哈爾濱、奉天、新京の三箇所あり、法人養馬場は安東、遼寧、鞍山、營口の四箇所にある。

二 國立種馬場  
海拉爾、遼寧、哈爾濱、遼東、克山、新京。

三 國立種羊改良場  
朝陽、赤峰、哈爾濱、扎拉木特、王爺廟、三江口、林西。

四 國立種羊改良場  
大同二年奉天に設置し、日滿人を養成し、卒業後是国内取組の指導又は畜産の改良増殖に従事してゐる。

五 試驗研究場  
康徳四年滿洲より滿洲國に移置せられ、恩恵以外の研究に關する研究員に職位及血清清液の製造に非常なる貢獻をなしてゐる。

六 畜主講習試驗場  
康徳四年滿洲より滿洲國に移置せられ、農務村の外の畜産の改良増殖に關する講習調査に偉大なる功績を示しつつある。又其の分場を興安省樟木營子に設け牛馬試験場をなしてゐる。

七 改良研究場  
現在奉天、錦州、吉林、龍江、三江、開通、熱河、黑河に設置し、種羊、種牛を以て改良増殖に努めてゐる。

十 養馬組合  
滿洲國は康徳三年度以降部落を單位とする實行組合を結成せしめてゐる。養馬場を中心とする組合三十九組、遼寧及指定種馬場を中心とする組合四十八組に達してゐる。

十一 種羊合作社  
政府は一般民間に對し改良用種羊を貸付け、康徳二年、一九五五、同三年、同四年、同五年、一八〇七、七、遼寧、奉天、熱河、龍江、遼江各省及興安四省に貸付けてゐる。而して興安省以外各省の種羊用貸付各縣には種羊合作社を組織せしめ、之を中心として指導する。

十二 種羊合作社  
尙屬東州廳内務部にも畜産課があり、各民政廳管内に畜産組合又は農會を設けて指導し、滿洲に於ても種羊改良、畜産工業等に努力を注いで居り、施設としては

一、種羊場 公主嶺、龍興、林西、中、種羊場 聖安、撫順、撫順  
二、種牛場 王爺廟、五原店  
三、種馬場 奉天  
四、改良研究場 奉天

鐵道總局では白家と白城子に種羊場を、富拉爾基に馬酸乳製造所を持つてゐる。

日滿種羊協會 日滿種羊協會は種羊毛資源開發のため、綿羊牧場の經營を目的とし、東京に事務所を置き、滿洲國林口、龍爪出張所を設けて康徳四年度より用地を選定し羊舍地を建設すると共に遼寧、西滿より種羊を輸入したが、同年九月龍爪牧場開場式を舉行し、事業の緒に入つた。

## 林業

### 森林の概況

滿洲の森林は印度支那地方より東支那海岸を經て河北省山海關を越えシベリアに連綿した大孤狀の森林帶の殘存と稱せらる。この地は清朝發祥の地として乾隆の頃から伐木開墾を禁ぜられ、古來、砂金、毛皮等の産地として知られ種々密獵者の侵入が行はれ、農耕地の林野は野火に害はれたが古來の美林は今なほ部分的に存在しツングース族の所謂森林の海の面影を止めてゐる。

自然的條件 滿洲森林の自然的條件は四季の中夏の雨季長く、雨量は滿鐵本線に於て平均六百ミリ日本内地の約三分の一で沿線以西は漸減以東は漸増して舊北鐵沿線は平均五百ミリである。五月より十月迄の植物生成期は極めて温度高く、且つこの期間に於て年降雨量の大部分を占め湿度は高い。即ち森林の成育の好條件に恵まれてゐる。



森林地帯として、遼東、吉林、熱河、龍江、牡丹江、鴨綠江右岸並にその支流、遼河上流、瀋北沿線の一部、大小興安嶺圏内、奉天省北部ホンバイル西南錦州熱河の一帶乃至蒙古は森林と稱すべきもの極めて稀で草原砂丘岩山が連続するに過ぎない。

### 林野面積及立木蓄積量

Table with columns for region (e.g., 吉林, 龍江, 熱河), standing wood area (立木地), total standing wood volume (立木蓄積量), and total volume (合計). Includes a small table for '針葉樹' (Coniferous trees).

### 森林面積及立木蓄積量

滿洲國林野局の概況による全滿洲林野面積總計は約八千八百萬(二)一〇〇八三(三)町歩。その中立木地面積は約二千二百萬(二)四〇〇六千六百萬(三)一〇〇〇〇町歩の無立木地域がある。立木蓄積量は總計約三十七億(三)七〇〇〇〇〇〇〇立方丈(一)立方丈は二、五九三七石)と推定せられ、その中間葉樹立木蓄積量は約二十二億四千立方丈、針葉樹蓄積量は約十四億七千萬立方丈と推定されてゐる。

林業—森林の概況

林業—木材需給状況

主要樹種

滿洲の森林は之を森林植物帯上より見れば一部温帯北部に属するものの外主要部分

- 日本(1) 針葉樹 闊葉樹
○テウセンマツ 果松(紅松) マツ 闊(紅松)
○テウセンタウヒ 魚鱗松 タウヒ 闊(白松)

木材需給状況

生産状況 建前前數箇年は産出約三百八十餘萬石であつたが、建前當初は森林全部

江村と稱す。康徳元年度に於ける安東省産量数は百一萬石を算し、たると此の地は古くより大規模の伐採

林業—木材需給状況

出されるもので、その生産量は建前四年度に於て六十六萬石に上り紅松の角及び丸太が主なるものである

市場別木材市價

Table with columns for region (e.g., 紅松, 白松, 柞木) and price details.

材の一部である。消費状況 建前前五箇年即ち中華民国十六年(昭和二年)以降五箇年間に於ける木材



○附の特種林場につきても、康徳三年十一月解消した。

國有林野の管理 國有林野の管理經營は林野局の下に各營林署をして擔當せしめ、その經營の中央統制と國有林國營を期して、經營を積極化するには、施業案の編成、林產物處分方法の改善、運材施設の整備、森林保護の施設等も必要とするので、その實現も漸々と圖られつつある。林產物の處分は林場權の設定に見るが如く、從來は單に伐採地域を指定するのみで、伐採量は勿論のこと、出材量さへ制限されなかつたが、建國後は先づ出材量の制限を行ひ、木材の需給關係の統制をなすと共に、更に官行研伐、立木拂下を實施し、伐採量の制限も行ひ、以て木材利用の集約化並に天然更新による林野の保護を圖つてゐる。而して計畫を進める前提條件をなす運材施設はその利用關係を考慮し、政府又は特殊會社滿洲林業股份有限公司に於て設備する筈になつてゐる。

宣行研伐事業 國有林の合理的な經營上、國有林中主要地域に於ける伐採は可及的速に官行に依ることとなり、康徳三年度に於

には運材施設の見るべきものがなく、木材生産の合理化、奥地未利用林の開發には先づ運材施設の整備改善が必要とされ、從來の水運利用一點張りから康徳三年度より森林鐵道の敷設に著手した。

△康徳三年度

- 1 二道河子線(瀋江省賓州縣仙洞より二道河子上流に至る七十三軒)十二月開通
- 2 天德鎮線(遼寧省五清縣三岔口より草皮廟上流に至る四十五軒)十二月開通
- 3 龍安線(閩魯省和德縣龍井村より安國縣王道鎮に至る八十六軒の内六十二軒)完成

△康徳四年度  
1 二道河子線の延長四軒  
2 天德鎮線の延長二十軒  
3 龍安線、八月全線完成開通  
其の他の運材施設として、作業軌道一四三軒、貯木場及工場二〇附、棚場九箇所、碾場三二箇所、車道四八〇軒、電話線八四〇軒等で今年は大興安嶺森林の積極的開發と大増伐に伴ひ著しく進大なる施設を行は建設である。

施業案の編成 全國的林野を通じて合理的且つ集約的な經營管理を行ふ爲、滿洲國では林野配置の状況、地形の關係、產物利用の程度、事業分量の多寡、物產搬出の關係等を參照して林野經營上適當なる地域を劃し、林野經營計畫の單位たる事業區を設定すると共に、康徳三年度以來編成員を

ては延吉林務署管内(古洞河、大廟溝、草皮溝)、牡丹江林務署管内(二道河子)、勃利林務署管内(大青山)、哈爾濱林務署管内(牙不利)の官行研伐を實施した。

集團伐採 康徳二年度より治安關係、林業經營上の見地よりして薪炭材以外の立木拂下には、多年の散伐法を改めて集團伐採制が採用された。この方法では伐採區域を限定し、警察署がその區域内の警備に當るが、警備力を強化すると同時に伐採事業を秩序的に進め得る利あり、當分その繼續を見込まれてゐる。

國有林伐採の警備 林場權の整理によつて國有林の濫伐は防止し得る譯であるが、奥地密林の實情は監督機關の立ち入る餘地殆んどない有様で、森林伐採上からも治安維持工作の上からも、林野に於ける警備の徹底は急務とされる。關東軍では中央治安維持會を設けてその下に當つてゐるが、康徳四年度には左の如き根本方針を確立した。

▲方針

森林伐採區域の決定が治安維持上の要求に合せしめ、其の警備は治安維持會の統制下に於て關係各方の

派遣して人跡未踏の原始林又は匪賊の根據地たる奥地密林を實地踏査せしめその經營案の編成を行つて居る。康徳四年度末までに編成を終了するものは次の事業區である。

- 一、勃利事業區(勃利林務署管内)
- 二、二道河子事業區(牡丹江林務署管内)
- 三、東寧事業區(延吉林務署管内)
- 四、龍安事業區(延吉及安國林務署管内)
- 五、沙河子事業區(敦化林務署管内)
- 六、圖們事業區(吉林林務署管内)
- 七、綏化事業區(綏化林務署管内)
- 八、懷德事業區(懷德林務署管内)

林業會社

概説 大正六、七年を境として勃興した滿蒙の森林事業は大體十企業程あるが、何れも殆んど名稱のみの存在に終り、事實上現在まで事業を繼續して来たものは、明治四十一年に設立された鴨綠江探木公司唯一つと云ふ状態である。滿洲國建國前は東三省國有林發放規則及び同章程に定められた規定によつて、外國人又は外國法人のみによる森林伐採事業は絶対に禁止され、支那人又はその合法的法人に限定されてゐたため、滿蒙に於て外國人が同事業を興すに

警務機關直後其の衝に當り、必要に應じて日滿軍隊之を支援し以て林業に依る開墾増産の基礎を築きしむ。

- 一、森林の伐採は林野局監督の下に林務署其の衝に當るも業務の執行に關しては治安維持會及警務機關との關係を緊密に連絡して以て森林行政と森林警備との關係を緊密に連絡ならしむ。
- 二、森林伐採區域の全般的決定は林野局、治安部、維持會の協議に依りて決定し、各地域内に於ける伐採區域は林務署治安維持會及省警務廳と協議の上之を決定し該區域外の伐採を禁止するものとす。
- 三、伐採區域決定せば省警務廳長は關係省治安維持會委員長との協定に基づき關係縣をして所要の警察官吏を該區域附近に派遣し伐採區域の警備に當らしむ(林業私設の自衛團は之を認めず)。
- (林業私設の自衛團は之を認めず)は治安維持會に任ずべき警察力(森林警察隊と稱す)は治安の状況、森林の状況、伐採區域の大小等に依り決定す。
- 四、關係省治安維持會委員長は治安の状況を考慮し關係日滿軍隊指揮官と協定して日滿軍隊を以て森林警察隊を支援するの義務を負ふ、又日本防衛司令官は必要れば日本軍隊を警備の目的を以て伐採區域附近に駐屯せしむ。
- 五、警備の爲滿洲國軍隊及警察隊同するときは軍隊指揮官、日滿軍隊協同するときは日本軍隊指揮官全體に屬するものとす。
- 六、伐採區域出入する者は凡て關係官署の發給する「通行書」を携行せしむ。
- 七、林業官、伐木夫等にして過期又は盜伐等不正の行爲あるときは嚴重に處分するものとす。

運材施設 從來濱海沿線地方の一部以外

は必ず支那の法律に準據する支那法人として日支合辦の形式によらなければならなかつた。鴨綠江探木公司の如く國際條約に基くものは別として日支合辦の主なるものに中東海林探木有限公司(事業地域、北鐵沿線地方)、中東製材公司(北鐵沿線地方)、華林製材公司、富寧造紙公司(豐材公司)、吉省興林造紙公司等あり、この中最後の四社は吉林省にあつて王子製紙、大倉組の共同會社たる共榮製業會社に統一された。純支那法人としては鐵嶺森林公司、通原林業公司、黃川探木公司、興吉公司等あり、露支合辦には海敏探木公司、日支露三者合辦には札免探木公司がある。

以上のうち日支合辦會社の支那側の出資は概ね日本側からの借款又は立替によつて行はれ、又純支那法人でも黃川探木公司の如きは日本資本によつて設立され、その他も後に至つて日本資本の融通を受け、又露商の經營に對しても日本人の投資するもの多く舊吉林省の林業は殆ど日本資本によつて維持された感がある。現存林業會社の主なるものは、滿洲林業股份有限公司(特殊會社)、鴨綠江探木公司(日滿兩政府合辦)中

林業—林業會社

東海林探木公司(日商、滿官合辦)等であり、この外札免探木公司(政府、滿鐵、露商合辦)、海敏探木公司(政府、舊東支鐵道會社、露商合辦)はたゞ形式的に名を残し、其他個人企業の主なるものに近藤公司、東泰洋行(兩者共日本人經營)等がある。

滿洲林業股份有限公司 康徳三年三月一日設立、資本金五百萬圓(滿洲國二百五十萬圓、滿鐵、共榮起業各百二十五萬圓)の特殊會社。國有林施設の現状より樺甸、額穆、敦化三縣及び齊安縣南部の國有林を開墾し、併せて國內の木材需給を圓滑ならしめる目的を以て設立せらる。その存立期間二十五五年、新京に本店を、吉林に支店を置く。

鴨綠江探木公司 光緒三十一年(明治三十八年)十二月の日清條約附屬協定第十條に基き同三十四年(明治四十一年)九月資本金北洋銀三百萬圓(日清兩政府折半、現在國幣二百八十萬圓)を以て創立され鴨綠江及び渾江地方林業の開墾を使命とした。其の設立が國際條約に基く關係上軍閥、官廳に頼るること多し、鴨綠江上流國有林

の專探權及び渾江地方林業の統制權を保持し得て其の事業も比較的順調であつた。大同二年(昭和八年)營業期間満了したるも日滿兩政府の新協定に依り更に康徳二年(昭和十年)九月二十五日より向ふ五年即ち康徳七年(昭和十五年)九月二十四日迄營業期間を延長することになつた。

中東海林探木公司 大正十三年一月日支合辦中東實業公司の改組に際し同公司の日本側株主(東拓系)と吉林省政府の合辦に依り設立された。資本金三百五十萬圓(兩者折半)存立期間三十五年、事業不振の爲民國十六年(昭和二年)以來營業を中止して居たが、大同二年(昭和八年)秋より事業を開始した。その事業區域は東安縣大海林河流域及牡丹江支流頭道河子流域の國有林である。尙本店は哈爾濱にある。

バルブ工業會社 日本に於けるバルブ不足難とその需要増進の趨勢に鑑み日滿プロツクの見地から滿洲國のバルブ工業の振興は特に必要視されてゐる。滿洲國ではバルブ増産について積極的検討を進めてゐるが、同時に、バルブ工業の經營は認可制と

し、その資材供給關係上即ち森林資源の利用開發狀況並に一般用材の需給關係からして、その生産量を制限し、又資材も政府の指定する探木業者から供給する等種々統制を加へてゐる。木材バルブ工業會社として康徳三年三月許可されたものは次の四會社にして、各社一箇年バルブ生産許可能力一萬五千越づつにて、目下工場建設を急いで居り、康徳五年春には一齊に事業開始が見込まれてゐるが、差當りは各社バルブ年生産高は一萬越づつ、合計年四萬越、所要資材六十八萬石とされてゐる。

- (一) 東滿洲人鋸バルブ公司 資本金七百五十萬圓、工場開山屯、大川系
  - (二) 滿洲バルブ工業公司 資本金五百萬圓、工場穆林、寺田系
  - (三) 東洋バルブ公司 資本金一千萬圓、工場東京、川西系
  - (四) 日滿バルブ製造公司 資本金一千萬圓、工場王字系
- この外設置のバルブ工場としては鴨綠江探木會社(資本金五百萬圓、所在地安東、年産バルブ一萬二千越、紙類八千越)、滿洲製紙工場(資本金五百萬圓、所在地通遼、年産紙類八百越)、鴨綠製紙工場(所在地通遼、年産紙類八百越)等がある。

水産



滿洲國の漁業

概況 滿洲に於ける漁業が營業化して來たのは東支鐵道の敷設後、呼倫水系に於て一九〇四年頃、ロシア人によつて就業を見たのが最初である。滿洲國は河川湖沼に富み、漁業上利用し得る區間として知られてゐるものゝみにても、河川約×××百里、湖沼約百三十八方里に上り、現在判明せる魚種のみにも百數十種の多きに達してゐる。海洋方面は西に遼東海灣を擁し、東は黃海に接し、その間遼東半島により漁場を二分せられ、海岸線は大なる屈曲に乏しく遼東海灣側約×××里、黃海側約×××里に過ぎず、而も冬季凍水する所が多いので魚族の棲息に適せず、漁船の出入にも不便であるため漁業不振を免れない。

水産—滿洲國の漁業

り各種の夥しき淡水魚類を産し、××湖、鏡泊湖、×××等の湖沼も亦豊富なる魚類の棲息を見、到處好漁場を富むが、漁獲物の保藏運搬の關係上、未だ一般に開發されず、特に春秋期漁業にこの感深く、主として沿岸の主要都市を中心に行はれるに過ぎない。

類の集散地たる哈爾濱である。大賣よりは新京に仕向け、新京より更に吉林、奉天等に送られる。取引の行はれる時期は主に十一月以後である。

水産—滿洲國の漁業

る沈積物のため水深浅く、營口、盤山、蓋平地先一帯には廣大な干潟地を形成して...

主要魚種漁期漁場一覽

Table with columns for fish species (e.g., 鮭, 鱈, 鱒), Japanese names, and fishing periods/locations. Includes a list of fishing grounds at the bottom.

つて發展性を多分に有し、この點黃海方面に比べ多大の將來性を有するものと思はれ...

取引状況 沿岸海魚類約二百五十萬圓の大部分は鮮魚として取引せられ、内約二割が鹽乾品に製造される。鮮魚は遠距離輸送に適しないのと、北滿地方には廉價な淡水魚が豊富にあり、これに對抗し得ない等の事情のためその取引範圍は大體新京を限度とする南滿沿線の主要都市に限られ、大部分は地産であつて、沿岸又は産地附近の都邑に消費されてゐる。これに反し鹽乾品は叙上の困難なきと一面國內鹽價高きため大衆に歡迎され、全國殊に農村地方に販路を有してゐる。而して水産物の販賣機構は大體次の三種に分れる。第一は原産地に於ける漁商對漁夫間の取引で、第二は原産地魚商と仲繼地或は消費地の糧棧、雜貨商、代理店、運送店等の間に行はれ、第三は仲介業者對小賣商で極く少數は店舗を有し産地と直取引をなすものもあるが大多數は所謂市場の露店商である。

現網漁業を禁止すること、し康徳二年五月一日よりこれを實施した。從來漁業に關する根據法なく、漁業に關する取扱區々に互るため古來の慣行漁業に就てはその業態を屈出しめ逐次これが整理調節を圖り、新規漁業に就ては許可を受けしめつゝあり、漁業取締法令制定と共に主要漁業は凡て許可を受けしむることとなつてゐる。尙ほ水産物取引機關は水産業の消長に大なる影響を及ぼすので市場設立は許可制としこれを統制することになつてゐる。

国立營口水産試驗場 試驗場は場長一人技佐三人、屬官一人、技士四人から構成されてゐるが、主として水産の試驗調査事務を擔當してゐる。今後の水産指導機關は省及縣當局がその衝に當る、必要な資料は水産試驗場が提供するので、試驗場長は各省の水産專任技佐を兼任し通繋を密にしてゐる。尙ほ北滿河川に對しては哈爾濱に国立水産試驗場を設置することとなつてゐる。

滿洲國漁會 農事合作社に併合して、漁村には縣を單位として漁會を設け、一定漁業地區に居住する漁業者及其の従業員は同地域の漁會に参加せしめ、漁村の自治的組織とし漁業經營を普遍的に發達せしめる方針である。漁會の役割りは大體次の如きものである。一、共同施設に關するもの(漁具の貸付、共同干場)

水産—關東州の漁業

一、經濟向上に關するもの(資金の貸付、漁獲物の共同販賣、必要品の共同購入) 一、精神作興に關するもの(船隻等の救護) 一、精神作興施設に關するもの(従事規則に關し沈溺し來つた漁民に對し救護者としての漁民精神を作用するもの) 一、合法的職能に關するもの(漁業取締改訂上の事情及び下章上節の作用をなす)

關東州の漁業

概説 關東州の海岸線は島嶼を合してXX餘哩に及び、出漁に地の利を占めてゐるので古來漁業の發達を見た。日露戰爭起るや、陸軍省は特に本邦漁業者の海船を許したので九州、中國方面の漁業者は間接に引率されて陸續渡航し、一時六百隻の多きを算するに至つたので、明治三十八年十月關東州水産組合の創立を見、翌年には關東州漁業規則、魚市場規則が施行された。爾來漁業は漸次發達の一途を辿り、大正七年八年の財界好況時には魚類の需要額に増加し當時の漁法たる幼稚な帆船式漁法では到底需要に應じきれなかつたので機船底曳網漁業を開始するもの續出したが、當時の主力漁業たる延繩漁業者より猛烈な妨害壓迫を受け閉居が絶えなかつた。然し延繩漁業は漁獲物の漸減と漁場遷隔化により漸次不振を叩つに至り、關東廳水産試驗場に於いて

水産—關東州の漁業

緩傾斜の分布を見ている。黄河北部にありては鴨綠江より子高沿岸に至る間と朝鮮西海岸とは×として等深線の分布も渤海に類似するも、その他の區域は等深線の區域狭小にして、且つ山東角と大青群島との中間に存する最深部たる×××等線の箇所に向つて急斜面を畫いてゐる。

海水は相俟れる二つの水質とその混淆より成立してゐる。即ち渤海全般と鴨綠江沿岸は鹽分量稀薄なる沿岸水より成り、海洋島南方の中央部沖合には鹽分量濃厚なる沖合水あり、これら二水質の混淆は黄河北部下層に於いては特殊の冷水帯を誘導し、表面にあつては直隸海峡より老嶺山水道にて沖合水の影響を示し、廟島列島、登州水道より山東省沿岸にあつては渤海よりの沿岸水質の影響を現はす場合多く、而もこの兩水質の混合と冷水帯の消長とは海流との因

果關係に置かれ、各種魚族の魚道と漁況並に沿岸海邊の養殖事業等に多大の影響を齎してゐる。

海流は二つの沿岸流と一つの暖流系との存在が認められる。即ち朝鮮の沿岸水より成る沿岸流は常に朝鮮西岸を南流して對馬西水道に至り、又渤海及び黄河北部に起源する支那沿岸流は大津より南支那海に於いて増勢し、支那大陸に沿つて南支那海にまで南下し、他面對馬海流の分派は黄海中北部を北上しつゝ、左右幾つかの分枝を生じつゝ、山東高角沖合に終焉するといはれ、鹽分量に於いては對馬近海のそれに比し幾分稱薄なるものゝ如くである。

關東州を繞る海洋は適當な日照に浴し、淡水の注入、浮遊生物の豊富などのため魚族の××場として適當な場所が多く、且つ氣候の變化多き關係から魚族の未來頗る繁

關東州漁業戶數並従事員 (昭和十二年末)

Table showing fishing households and staff in Kanagawa Prefecture for 1927. Columns include Japanese (日本人), Manchurian (滿洲人), and Total (合計) for various categories like 専業 (Specialized), 兼業 (Part-time), and 兼業 (Part-time).

關東州漁船 (昭和十二年末)

Table showing fishing boats in Kanagawa Prefecture for 1927. Columns include 日本製 (Japanese-made), 付船 (Attached boats), 漁獲物 (Catch), and 合計 (Total).

關東州漁獲高 (昭和十二年)

Table showing fishing catch in Kanagawa Prefecture for 1927. Columns include Japanese (日本人), Manchurian (滿洲人), and Total (合計) for various categories like 魚 (Fish), 貝類 (Shellfish), etc.

關東州漁獲高年表 (數量單位, 金額單位)

Table showing fishing catch in Kanagawa Prefecture from 1922 to 1927. Columns include Japanese (日本人), Manchurian (滿洲人), and Total (合計) for quantity and value.

水産製造業 關東州に於ける水産製造業は餘り振はず、その全製造額の約八割強は滿洲國人の手によつて製造される。滿洲國入製品として日約四十萬圓の鰯乾鮭、約二十萬圓の鰯乾タチウワ、乾エイ、貝柱、クラゲ、乾カレイ等が主なものであるが、専業者がなないので製法粗雑にして品質は各種製

品とも他地製品に比べて劣り三、四割方安値で取引される状態である。日本人側の製品としては蒲鉾が大部分を占め、そのほかフダカナガシラ、グチ等の乾製品並ウニ、コノワタ等が僅少製造されるに過ぎない、これを要するに州内の水産製造業は未だ試験時代を出でず、在來製品は舊套を脱せず、

漸く漁業の進展に伴つてその製造高を増加しつつある状態に過ぎない。然しタラ、タチウワ、グチ、エイ、ナマコ等の製品は滿支人の最も嗜好するところであるから殆んど無限の需要を有する滿蒙北支を手近に控へ製造に好適な條件を早償する點から見ても前途は相當發展を期待される。

關東州水産物製造高 (昭和十二年)

Table showing water product manufacturing in Kanagawa Prefecture for 1927. Columns include Japanese (日本人), Manchurian (滿洲人), and Total (合計) for quantity and value.

關東州地方別水産物製造高年表 (數量單位, 金額單位)

Table showing water product manufacturing in Kanagawa Prefecture by region from 1922 to 1927. Columns include Japanese (日本人), Manchurian (滿洲人), and Total (合計) for quantity and value.

水産—關東州の漁業

水産—關東州の水産

同 九年(数量) 一三,三三三 一〇,七五五 一八,二五五 一〇,一三三 一〇,一三三
同 十年(数量) 一〇,七五五 一〇,七五五 一〇,七五五 一〇,七五五 一〇,七五五

關東州水産會 關東州水産會令に基いて
大正十五年五月、水産業の改善發達を圖る
目的を以て設立された公法人で事務所を州
廳内に置き大連、旅順、金州、普蘭店、盤

魚市場 大連、旅順の兩市場は昭和元年
十二月二十八日附關東廳令關東州水産會魚
市場規則に基き水産會の直營にかゝり、自

一九四

關東州水産會魚市場取扱高 (昭和十二年)
大連 数量 金額 数量 金額
日本産 八,〇〇〇,〇〇〇 九,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 九,〇〇〇,〇〇〇

Table with columns for domestic goods (内地物), imported goods (輸入物), and total (合計) with numerical values.

關東州漁業組合 本組合は昭和七年
七月、關東州漁船底曳網漁業組合を解散し
新たに發動機船當業者を網羅して組織した

關東州漁港問題 關東州に中心的一大漁
港を新築せんとする問題は、大正十三年以來
の懸案にして、當局に於ては鋭意これが調

被克港面西隣を最適地と認め、關東局に於
て一旦豫算計上を見たるも大連港統制上、
結局滿鐵に於て直接築港費豫算二百五十萬

製鹽法は天日鹽法で、滿洲の風土に適し
従つて製鹽費も日本の煎法に比して極めて
低廉である。關東州當局は州内鹽が日本

Table showing production and consumption statistics for salt (鹽) in the Kanto region.

向上、產出額の増加等見るべきものがあつ
たが、州外は舊政權が課税の對象物として
生産費に數十倍する苛税を課したので、そ

關東州鹽生產消費高 (昭和十二年、單位位)
州内消費 食料用 三,三六六 三,三六六
加工用 三,三六六 三,三六六

Table showing salt production and consumption statistics for the Kanto region in 1927.

水産—鹽業



水産—鹽業

關東州塩生産消費高累年表 (單位担)

Table showing production and consumption of salt in the Kanto region from 1907 to 1912. Columns include production (生産高), consumption (消費高), and net change (出高). Rows are categorized by year (昭和七年 to 昭和十二年).

關東州塩移出高累年表 (自昭和元年度至同十一年度單位千斤)

Table showing the cumulative export of salt from the Kanto region from 1900 to 1911. Columns include Japan (日本内地), Korea (朝鮮), and other regions (香港, 州内, 其他). Rows are categorized by year (昭和八年 to 昭和十二年).

關東州の鹽産増進計畫 日本專賣局では激増する工業鹽の需要に對應するため、昭和十一年末の五箇年計畫を放棄して關東州五十年末の五箇年計畫、長廣六十萬担、山東鹽五十萬担、合計二百萬担増産を目標とする近主邊從の新五箇年計畫を倒て國內需要の約八割を自給せんとするが、關東州廳においては昭和十二年九月に入り、更に關東州鹽百萬担増産の大計畫を樹立し

關東州の鹽産増進計畫 日本專賣局では激増する工業鹽の需要に對應するため、昭和十一年末の五箇年計畫を放棄して關東州五十年末の五箇年計畫、長廣六十萬担、山東鹽五十萬担、合計二百萬担増産を目標とする近主邊從の新五箇年計畫を倒て國內需要の約八割を自給せんとするが、關東州廳においては昭和十二年九月に入り、更に關東州鹽百萬担増産の大計畫を樹立し

大日本鹽業株式會社が現に鑿子高の××十町歩、普蘭店の大鹽廠、王家甸子、七頂山等××十町歩の鹽田を開設しつゝあるが、更に普蘭店區において×××百町歩の開發を行ふ筈である。なほ旅順の鹽業者武田政吉氏も雙川村に×××町歩の開發に着手し、濬々盛工を見つゝある。

天日鹽(普通)に原鹽と稱へてゐる(再製鹽、粉碎洗滌鹽、洗滌鹽の四種に分れ、その分析表は左の如くである。なほそのほか木盤鹽と稱へ、鹽で濃縮した鹹水を木製の平盤内に注入して結晶せしむるものあり、色は純白である。

關東州鹽業試驗場 關東州廳は州内鹽業の生産増進、品質改良、鹽產物利用、鹽業の創始、運輸方法の改善等によつて利益を廣く多量に供給し、また鹽田の開發及び企業を指導する目的で大正十五年頃から鹽業の調査及び試驗を開始し、昭和十二年十月鹽業市街に於ける地内千町歩に約三十町歩の試驗鹽田の建設に着手し、昭和十三年末竣工、田來同所各區の試驗調査を行つて來た。然し面積狭小を尙ぐるに至つたので大正十三年からは鹽田を合併し新たに鹽業試驗場として樹立した。試驗鹽田の所管事務は鹽業の増進、鹽業の品質改良、鹽田構造の改善、關生鹽產物の鹽田利用、鹽の貯藏及び生産費低減等に關する試驗研究をなすもので、滿洲鹽業開發上、多大の貢獻をなすつゝある。

滿洲國滿動應表 (康徳四年度)

Table showing the movement of salt in Manchuria for the Kangde 4th year (1914). It includes columns for production (生産高), consumption (消費高), and net change (出高) for various regions like 營口, 錦州, 天橋, etc.

專賣署名	局名	原價	新價
天津	直隸	五.八〇	六.三〇
天津	京漢	五.九〇	六.四〇
天津	津浦	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇

水產—鹽菜

一九九

專賣署名	局名	原價	新價
天津	直隸	五.八〇	六.三〇
天津	京漢	五.九〇	六.四〇
天津	津浦	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇
天津	津石	五.九〇	六.四〇

水產—鹽菜

一九八

水産—鹽業

吉林	七二〇	九〇〇	遼寧	七二〇	一〇〇〇	山東	七二〇	九〇〇	河南	七二〇	九〇〇	湖北	七二〇	九〇〇	湖南	七二〇	九〇〇	四川	七二〇	九〇〇	陝西	七二〇	九〇〇	甘肅	七二〇	九〇〇	山西	七二〇	九〇〇	察哈爾	七二〇	九〇〇	綏遠	七二〇	九〇〇	熱河	七二〇	九〇〇	遼北	七二〇	九〇〇	冀東	七二〇	九〇〇	直隸	七二〇	九〇〇	奉天	七二〇	九〇〇	吉林	七二〇	九〇〇	遼寧	七二〇	九〇〇	山東	七二〇	九〇〇	河南	七二〇	九〇〇	湖北	七二〇	九〇〇	湖南	七二〇	九〇〇	四川	七二〇	九〇〇	陝西	七二〇	九〇〇	甘肅	七二〇	九〇〇	山西	七二〇	九〇〇	察哈爾	七二〇	九〇〇	綏遠	七二〇	九〇〇	熱河	七二〇	九〇〇	遼北	七二〇	九〇〇	冀東	七二〇	九〇〇	直隸	七二〇	九〇〇	奉天	七二〇	九〇〇
----	-----	-----	----	-----	------	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----

（鹽湖）探鹽者は普通一組數人で百輛内外の牛輛を率ゐる日湖邊に野宿して採鹽し全車輛に滿るを待つて目的地に搬出する。×湖は冬季水結せず、四季を通じて採鹽出来るが、冬季は日光弱く春季は降雨多く、採鹽の好適期は夏季である。鹽の結晶は水層を成してゐるが、上層は上製といはれ純白不透明結晶の大粒で降雨期にも液化すること少く主として王府の使用に供する。下層は下製といひ稍灰色で一般民衆の使用品となる。その外觀は悪いが鹽分は非常に強い。×湖の産鹽額は全く探鹽者の多寡に比例するやうで、一箇年の平均採取量は大陸百五十萬貫を下らないと推算される。その供給區域は滿洲國では熱河省、龍江省の洮南を中心とする地方である。その他採取中の鹽湖としては××特旗の西南約十八里の地に周圍約一里に亙る鹽湖があるが、僅かに附近住民の需要を充すに過ぎない。蒙古鹽は従來國內鹽の統制外にあつたため鹽政上種々の缺陷があつたので、この弊を除去し民族協和の見地より蒙古鹽も統制下に置いた。

滿洲國の鹽務機關 滿洲國の鹽務行政は建國以前の制度を踏襲したため國內に二つの相異つた制度が併せ行はれてゐた。即ち舊奉天、熱河兩省の徵稅制度と舊吉林、黑龍江省の吉黑權運署による專賣制度これにして、前者は間接稅として鹽稅を徵收するもの、後者は一定地域を限つて政府の專賣を行ふものである。徵稅機關としては營口に鹽務署を置き財政部管理の下に鹽稅の徵收や鹽務行政に關する事務を管掌し、その下に更に鹽務局（六局）鹽務局（九局）外に熱河省赤峰に鹽務署赤峰支署の機關を統べた。鹽務局下には更に四十六の鹽務署、鹽務局（六局）には百三十九の分局を置き、又赤峰支署にも九分局とその下に二十二分局並に游動緝私隊が置かれた。一方專賣制度の最高機關としては吉黑權運署が新京に置かれ、その下に營口鹽運局、海拉爾權運局と三十六の鹽庫、取捨機關として間島緝私局並に三十の緝私隊が置かれてゐた。滿洲國の鹽務機關はかくの如く複雑多岐を極め而も鹽價は甚だ高率であるため、當局においては地方的に鹽價の引下げ、鹽稅の輕減を行ひ、負擔の衡平と需給の圓滑に邁進する傍ら鹽務行政機構の確立、鹽政の刷新に専念し來つたが、昭和十二年一月一日より鹽專賣法を施行、一舉に國庫收入六百萬圓を犧牲にして全國的に鹽價引下げを斷行し、同時に鹽務機構の合理化と鹽費の節約を圖るため従來の鹽務署及び權運

署を廢止して、專賣總署の下に地方專賣機關を統合し、全國に十四の專賣署と百餘の專賣局を設け石油、阿片、燐寸と共に鹽は凡て專賣機關で取扱ふことになつた。

滿洲國の鹽務行政

大綱左の如くである。  
一、鹽の製造及び輸出入は許可制度となつてゐるが、これは極端に鹽業資源を開發し需給の圓滑なる調節を爲すためである。  
一、政府の賣下げる鹽以外は絕對に市場に出づることを防ぐ見地から、許可を得て製造又は輸入した鹽は一手に政府に收購し、これに對して政府は相當の補償金を交付することになつてゐる。  
一、鹽の賣捌は政府の指定した賣捌人をして行はしめる。即ち鹽の賣捌きは許可營業にして全國百餘箇所的事實官署から指定された鹽店を通じて行ひ、また事實官署を設置しない地方においては特に指定して賣捌かせる。  
一、從來司馬、官秤、釐秤など鹽の計測は區々にして賣捌の不便少かつたので、事實制度實施を以て、凡て滿洲國度量衡法の規定する斤を以て單位とすることに全國的に統一した。  
一、從來一都省境域に實施してゐた私私專賣制度は、其と共に凡て之を廢し、國境及び疆域地帯に集中する制度に改められた。而して鹽の所有又は運送は原則として自由とし、たゞ國境地帯又は特に必要と認められた地域に限り制限を加へ、鹽運又は運轉許可制度に變更することになつてゐる。

滿洲國の鹽務行政

水産—鹽業

業五箇年計畫の一部門として鹽増産計畫を樹立してゐるが、同計畫の中心は鹽産島より山海關附近に至る錦州省海岸二十キロ餘の新鹽田開發に置き、滿洲鹽業會社をしてこれに當らしめ、五箇年後には滿洲國產鹽能力を百五十萬担に飛躍せしめ、中百萬担を日本へ輸出せんとするものである。即ち現在滿洲國に於ては主として滿洲人によつて經營される原始的鹽田が年産三十五萬担を産出するに過ぎないが、此等原始的鹽田も五箇年後には六十萬担に達すべく計畫されてゐる。滿洲鹽業社會では復縣海岸に約四千町歩の鹽を八箇年計畫で開發中であるが昨年これを五箇年に短縮強行することゝなつた。次に錦州省海岸は一萬五千町歩を拓き約七十萬担の產鹽を得る計畫で總計百四十八萬担となるわけである。而して以上の產鹽が完全に能力を發揮するには鹽田を四箇年使用したる後になるから實際產出高は五箇年後百萬担、九箇年後百四十八萬担を見込まれる。

產鹽部の計算によると國內需要は現在の三十萬担で五箇年後には四十萬担に増加し日本への輸出は五箇年後六十萬担、鮮田能力がフルに發揮せられれば百萬担に達するものと見てゐる。

滿洲鹽業會社 遼州より蕪平、營口にかけての海岸は滿洲國鹽業の中心地であるが、舊東北政權の苛政により舊鹽田は荒廢し鹽田好適地を放棄されてゐた。滿洲事變後、關東軍特務部は先づこの地方に着目し、滿鐵經濟調查會をして大體の立案をなさせ、更に具體案を作成するため商工省、滿鐵、東拓、滿洲化學工業、大日本鹽業、日本曹達英工業、旭硝子、晒粉同業の官民關係機關の代表者が實地調査團を組織し踏査の結果、昭和十年四月、日滿合辦の特許會社たる滿洲鹽業會社の設立を見た。

本會社の資本金は國幣五百萬圓、四分の一は（内滿洲國幣二百五十萬圓、滿鐵百萬圓、日本鹽業百六十萬圓、旭硝子、東拓、曹達英白粉同業會、滿洲化學、德山曹達にて預額分擔）にて當初の事業計畫は八箇年間に四百三十一萬二千圓を以て復縣の拉子、望海甸二箇所の鹽田三千六百町歩を開採し、右計畫が完成した時に既設鹽田が鹽田化した時には自社鹽田生産量十四萬三千噸、社外既設鹽田生産量九萬四千噸（本社は滿洲國內餘額鹽の獨占的採下を受ける權利を有してゐる）社外既設鹽田施設改良による増産二萬九千噸、合計二十六萬六千噸の原料の獲得、大部分を日本に供給する目論見であつたが、昭和十二年に入り、滿洲國が本社を擁護として大増産計畫を樹立するに至つたことは前に述べた通りである、尙ほ同社は既に資本を増額増資し一千萬圓とすることを決定目下當局に認可申請中である。

# 鑛業

## 概況

概説 滿洲國の鑛産資源の豊富なることは一般に知られてゐる所で、鑛産種類も十八種に上り、そのうち主要なるものは鐵、石炭、金、アルミニウム、原鑛、鉛、亜鉛、銅等而就中鐵、石炭、金は日本の資源が甚だ貧乏なるため一層重要性を有し、滿洲國の鑛業政策も目下右三者の急速なる開發に向けられてゐる。滿洲國は曩に産業開發五箇年計畫を樹立したがその重點は結局鐵、石炭の開發に置かれたものといふべく、殊に日本の正貨現送による金準備漸減の結果は滿洲の産金増加が必然的に緊急を要することになり、鐵、石炭の増産と共に重要性を帯びるに至つた。

主要鑛産物の産量は今後の精査を俟つても多いが現在判明せる埋藏量は大體次の如くである。

鐵 二、五〇〇、〇〇〇千噸  
 銅 六〇〇千噸

鑛種類	大同三年	大同二年	康德元年	康德二年	康德三年
石炭	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鐵	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
銅	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
鉛	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
鋅	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
錫	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
金	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
銀	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
白金	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
其他	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

滿洲の鑛産物の特徴は種類が少く量が多い點で、日本のそれが種類のみ徒らに多くて量の少いの好個の對象をなしてゐる。而して右に列擧した如きものは何れも重工業の原料であり、しかも日本に於ける鑛業の不足を補ひ得ることは日滿兩國の産業上最も重要な關係を示すもので且つ調査の進行と共に鑛種及び鑛業の増大をみてゐる。

## 鑛區

鑛區に關しては未だ詳細なる調査が行はれないので正確なる數字を示し得ないが鑛業法令發布前(康德二年九月一日まで)に許可された鑛區は次表の通りである。

鑛區名	面積(單位噸)
石炭	1,000,000
鐵	500,000
銅	100,000
鉛	50,000
鋅	50,000
錫	50,000
金	10,000
銀	10,000
白金	10,000
其他	10,000

鑛區數の石炭、金の百以上の外は何れも僅少であるが面積は廣範圍に互つてゐる。

沿 董 滿洲に於ける鑛業は既に一千年以前高麗時代に始まり遼、金時代に至つて各地に鑛山の開發を見たがこれ等は何れも偶然且つ部分的發見に止まり、その探掘も極めて原始的であつた。稍々近代設備を設へて開發さるゝに至つたのは全く露國の侵入以來のことと歸し、露國は其の東方政策に基きて漸次南下し、夙に鑛山の開發に著目して一八九六年「カシニ條約」を始めとして各種鑛業利權に關する條約を締結し遂に鐵道敷設權と共に滿洲に於ける鑛業權を獲得するに至つた。その後日露戰爭の結果は從來露國の保有せる鑛山探掘權は日本の繼承する所となり並に撫順、德惠兩炭礦、鞍山製鐵所、本溪湖煤鐵の諸鑛山の開發成り、滿洲鑛業の名は漸く世界の注目を惹くに至り更に南滿に於ける鑛業は著しく勃興の氣運を見せるに至つたが尙交通の不便、資力の缺乏並に舊政權者の弊政に禍せられ其の發達を阻害せられつゝ遂に滿洲國の建國に及んだ。

## 鑛業—鐵區

鑛區名	面積(單位噸)	鑛區名	面積(單位噸)
石炭	1,000,000	鐵	500,000
鐵	500,000	銅	100,000
銅	100,000	鉛	50,000
鉛	50,000	鋅	50,000
鋅	50,000	錫	50,000
錫	50,000	金	10,000
金	10,000	銀	10,000
銀	10,000	白金	10,000
白金	10,000	其他	10,000
其他	10,000		

Table with 2 columns: 鑛業關係法規 (Mining Relationship Regulations) and 鑛業政策 (Mining Policy). It lists various laws and regulations, their effective dates, and the responsible departments. The right side contains a list of mineral names and their corresponding categories.

鑛業政策

鑛業行政改革 康德四年七月行政機構改革の結果鑛政、鑛業二科を合して産業部鑛丁司の下に鑛務科となり鑛務行政全般を司つてゐる。産業部直屬の地方行政機關として奉天、新京、齊齊々爾、承德の四鑛業監督署を設け鑛業監督並に鑛業關係法令施行に關する諸般の事務に當つてゐる。

Table with 2 columns: 鑛業關係法規 (Mining Relationship Regulations) and 鑛業政策 (Mining Policy). It lists various laws and regulations, their effective dates, and the responsible departments. The right side contains a list of mineral names and their corresponding categories.

Table with 2 columns: 鑛業關係法規 (Mining Relationship Regulations) and 鑛業政策 (Mining Policy). It lists various laws and regulations, their effective dates, and the responsible departments. The right side contains a list of mineral names and their corresponding categories.

鑛業關係特種會社 炭礦、採金、石油及び國防上必要な鑛產資源の關係事業を統制するため産業部に於て直接監督する外に、滿洲炭礦會社、滿洲探金會社、滿洲石油會社、滿洲鑛業開發會社法を制定し、鑛業上の國策遂行機關たる特殊會社を設立しその獨に當つてゐる。

鑛業—石炭

萬國に於ては、昨年より二十五年間の増産を遂げ、...

石炭

滿洲の石炭は二層石炭紀、侏羅紀、第三紀に分たれ、二層石炭紀に屬するものは主として無燧炭で本溪湖、復州、煙臺等、侏羅紀に屬するものは亞無燧炭又は有燧炭で西安、八道溝、北票、阜新、鶴崗等が知られ、第三紀に屬するものは福炭又は蕪青炭で撫順、ジャライノール等である。...

滿鐵附屬炭礦

撫順炭礦 (一) 炭層 略々東西に延び長さ十九軒、巾は最大二・二軒に達する。

本層第三紀に屬し、地層及び上層部に分れてゐる。主要炭層はその上層部中にある。...

煙臺炭礦 滿鐵本線煙臺驛の東方十六軒の地點にある。水炭層は二層石炭紀の出生で舟底狀向斜構造をなし、長軸の延長は南北約六・三軒、東西約八・七〇米乃至一・二軒に達する。炭層は十八層あり、そのうち主なるものは五層、厚さはそれぞれ一・二一、一・〇米である。炭質は半無燧炭から高度無燧炭に及び、不粘結性で耐燒炭の多い缺點はあるが火力強く燧炭として好適である。埋藏量は約四千萬噸である。

牛心嶺炭礦 本層より約十七軒、女子河の右岸にあつて、煤層の終點である。二層石炭紀に屬し、煙臺四枚、主要なるものは第三層で厚さ一丈強である。推定埋藏量は一千萬噸、昭和十一年度出炭は七萬噸である。

滿洲炭礦會社

滿洲石炭の採掘に販賣及石炭鑛業に對する投資等により、滿鐵系炭礦と相成んで全滿炭礦の合理的開發、全滿炭業の一元的統制を計るを目的として、康慶元年五月資本額一千六百萬圓(全額増込、現物出資一千三百萬圓、現金三百萬圓)を以て設立せられ、其の資本の内、滿鐵政府が八百萬圓(現物)滿鐵八百萬圓(現物)五百萬圓、現金三百萬圓)であつたが、需要五箇年計畫を遂げ、千五百萬圓を目途とする増資計畫を遂げるため、康慶四三月一號八千五萬圓に増資した。設立以來、同社は同社の獨立する康慶三四年計畫に従ひ、蕪青、煙臺、撫順、北票、八道溝、復州、尾山、北票の各炭礦に就て

鑛業—石炭

は鋭意整備發展を計ると共に他面獨立、西安、北票の諸炭礦に對しては既に株式の大部分を取得することに由り、其の統制力を強大ならしめてゐる。...

分多し上に風化し易いので品質良好と云ふを得ない。固定炭級五十一%現在在發電所用及び煉煤用とされる。出炭能力は十萬噸。...

籽の地點にある。(一) 礦區は三百六十餘萬坪に及び、少くも一億五千萬噸の埋藏量を有するものと推測される。(二) 炭質は揮發分三十四%、固定炭素五十四%、出炭能力三十五萬噸。...

鑛業—石炭

鑛を有するので、近き將來に於てその程度の出炭は可能とされる。而して遼東、營口に近い地理的好條件を具へるを以て輸出用炭として非常な強味を持つてゐる。

XXライオンX炭(一) 瀋陽線XXライオンX方X粉の地點にある。水XX%、揮發XX%、固定X素XX%を有してXX%で水分のX%のか缺點であるがXX%易く燃及びXX%が少いので家事用炭に適する。

(二) 北はXX河附近より南はXX湖北岸に及び延長XX七軒に互るXXに及び、X層はX層よりなり上部部XX米、中部部XX米、下部部XX米の厚さを有する。XX量はXXな推定を下すまでに行つてゐないがXX千噸は確實とされる。出X力XX。

火石嶺炭 京圖線下九峯驛の北東に在る。侏羅白堊紀に屬し、炭層は四枚の主として上部のみ移行せらる。低度瀝青炭(發熱量五、二〇〇—六、三〇〇カロリー)を産する。出炭能力十五萬噸で鐵道用及び附近の地場消費に當てられてゐる。

XX炭 綏遠下城子驛の北方六十三軒。上部侏羅紀の成生に係り、炭田の基礎は二疊石炭紀の變質岩より成る。走向は大體南北傾斜は西へ平均十三度で、炭層は三

層、その中第一層及び第二層は厚さ薄く炭質不良にて移行に堪へず、現在第三層を採掘中である。炭質は低度瀝青炭、弱粘結性、撫順炭より稍々劣り塊四、粉六の割合で、炭量はX千五百萬噸と推定される。昭和九年度はX九萬五千噸の出炭があつた。

滿洲出炭實績

(自昭和十一年四月 至昭和十二年三月 單位千噸)

滿鐵關係	九、五三七・五
老幼子	三〇九・六
老幼子	二二七・五
老幼子	八九・九
滿鐵關係	一〇、二五一・六
復道	一五三七
八道	八三九
密山	一六・六
密山	六・一三
密山	×××五
密山	三四三・三
密山	八九三・九
密山	二九三・〇
密山	一五・四
密山	二、一九四・六
密山	七三九・三
密山	一〇六・二
密山	四一・七

滿洲石炭販賣實績

(自昭和十一年六月 至昭和十二年七月 單位千噸)

滿鐵關係	九、三七一・九
老幼子	二三一・六
老幼子	二二二・八
老幼子	八五・八
滿鐵關係	一〇、〇〇九・九
復道	一五四・六
八道	八一・四
密山	七三・二
密山	四九・三
密山	一三七・五
密山	四〇五・五
密山	八九一・九
密山	三五二・八
密山	二、二九九・六
密山	七〇一・三
密山	九三・九
密山	四三・六
密山	二七三・三
密山	一一・二
密山	一、一三二・七

五箇年販賣計畫 (單位千噸)

年別	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年
總計	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000
滿鐵關係	9,537.5	3,096	2,275	89.9	10,251.6
老幼子	3,096	2,275	89.9	1,537	839
老幼子	2,275	89.9	1,666	6.13	343.3
老幼子	89.9	1,537	49.3	137.5	405.5
老幼子	1,537	49.3	891.9	293.0	15.4
老幼子	49.3	891.9	15.4	2,194.6	739.3
老幼子	891.9	15.4	1,062	41.7	1,132.7

鐵 鑛

鐵鑛は現在までに発見されたものが總計二十五萬噸に達するといふ豪華ぶりであるが、康徳四年四月より東邊鐵鑛の大々的調査が進められてゐる。

その主なるものは奉天省の鞍山、弓張嶺、一帶、遼東、安奉沿線その他鴨綠江東北部沿岸等南滿を中心に廣く分布し、朝鮮北部にあるものと同様の所謂塊狀鐵鑛と稱へ

る。右のうち從來採行せられたものは鞍山と廟兒溝の二鑛山で弓張嶺は暫らく未着手の儘残されてゐたが大同二年日滿合併として更新し採掘に着手してゐる。

鑛業—鐵鑛

年別	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年
總計	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000
滿鐵關係	9,537.5	3,096	2,275	89.9	10,251.6
老幼子	3,096	2,275	89.9	1,537	839
老幼子	2,275	89.9	1,666	6.13	343.3
老幼子	89.9	1,537	49.3	137.5	405.5
老幼子	1,537	49.3	891.9	293.0	15.4
老幼子	49.3	891.9	15.4	2,194.6	739.3
老幼子	891.9	15.4	1,062	41.7	1,132.7

鑛業—鐵鑛

迄の探掘額八十萬噸、殘存量百三十萬噸と言はれ最近の調査の結果は弓張嶺の富鑛二千萬噸とも言はれて居る。

鞍山鐵鑛の探掘は大正四年日支交渉の結果設立された中日滿合辦鐵鑛公司に依りて開始され、大正五年は鐵鑛の試掘、翌六年探掘の許可を得、大正十年更に三箇月の増鑛區を許可され合計十一箇區を獲得した。大正八年以來鞍山製鐵所(現昭和製鐵所)に對して鐵鑛の供給を爲し初期に於ては櫻桃崗の富鑛部を採掘し、昭和初年以來は大孤山に於て膨大な量の富鑛採掘を開始し今日迄何等の障礙なく原鑛の供給を繼續しつゝある。昭和四年以來は液體煉鐵に因る大量發破に依り、更に選鑛技術の改善と相俟て益原價低下の好状態にある。

品位及び埋藏量 富鑛は含鐵品位三五%富鑛は同五〇一六〇%、鑛寸〇二一〇%である。

これに他の鐵鑛を加へると七億噸を下らないといはれてゐる。

勸兒鐵鑛 本溪湖煤鐵公司の所有にして安奉線南攻驛の北東に位し鐵鑛道八軒にて山麓に達する。南攻、本溪湖間は本線三〇、六軒、鑛區面積は百九十萬坪、地勢急峻にして附近山頂は海拔八百軒に及ぶ。

本溪湖は其の位置偏僻に位し、製品の運搬上稍不便なることを除いては、原鑛石、製鐵、石灰石、耐火材料、用水等凡ゆる原料を地元有して居る點に於て鞍山よりも恵まれる條件を具へて居るとも言はれて居る。清朝初期より本溪湖の鐵鑛を用ひ製鐵業興り成豐、同治年間は土法採掘最も盛であつた。光緒三十年(明治三十七年)露國人試掘を計畫せしむる露露戦争の爲中止し、明治三十八年二月大會組に於て本溪湖探掘に着手し、四十三年日支合辦本溪湖煤鐵公司を設立し更に製鐵業の有力なるに着手し十四年製鐵部合辦となり本溪湖煤鐵公司及改稱したが、我建國に伴ふ日滿兩國間の現状に適應し原契約及附加條款を改定し康徳二年八月三十一日附を以て日滿兩國政府の承認を経て本溪湖煤鐵股份有限公司として新生した。而して勸兒鐵鑛山は該公司經營の製鐵所に對する原料鐵鑛の供給に當つて居るものである。富鑛は含鐵品位平均三三%、富鑛は同六〇一六八%、鑛分〇一〇一五〇・二%で、埋藏量富鑛二億噸、富鑛二

百四十萬噸を有してゐる。

弓張嶺鐵鑛 遼陽の南東約四十八軒の地點に位し鐵道の便がある。大正四年滿鐵地質調査員によりて發見され、鞍山勸兒嶺と共に滿洲三大鐵山をなし莫大な富鑛と相當多量の富鑛を有する。探掘權は舊奉天省政府と飯田延太郎との日支官商合辦弓張嶺鐵鑛有限公司(資本金百萬圓、三現物出資四十萬圓、支那現物出資六十萬圓)が所有し未着手の儘放置されて居たが滿洲事變後昭和製鐵所が設立されることとなり其の舊奉天省政府の持分全部を昭和製鐵所に於て買收し、其の内容を變更して日滿合辦弓張嶺鐵鑛無限公司として鑛業權は昭和製鐵所が買借經營することとなり昭和八年五月より探掘に着手し滿洲鐵業開發會社の成立と共に租鑛權として該所に於て經營することとなつた。品位及び埋藏量富鑛は含鐵品位約四〇%富鑛は同六〇一六八%、埋藏量は

牛頭山鐵鑛 金家堡子(八輪嶺)鐵鑛と共に、何れも本溪湖煤鐵公司所屬の鐵山で、前者は安奉線驛千戶驛の南約二軒に在る。鑛狀鐵鑛で、鑛石は磁鐵鑛である。鑛石の含鐵品位は三五一四五%の富鑛であるが、

金 鑛

量は一億五千萬噸ある、金家堡子鐵鑛は弓張嶺鐵山の北方約二軒にある。鑛床は含鐵品位五〇一六三%で概して良好である。鑛量は富鑛約八萬噸。

滿洲の探金事業は土法採掘と云はれる原始的生産形態をとつてゐるが加ふるに交通の不便、匪賊の跳梁、科學的施設方法の欠如、經營の小規模且つ拙劣等のために不振の状態にあつた。滿洲は砂金及び山金とも全滿に互つて甚だ多く就中北滿の砂金は各河流域の廣い地域に互つて豊富な採金場を

有し、その他熱河省、開魯省、奉天省には山金の鑛産地帯相當廣く分布し將來開發せられれば滿洲探金の大半を占めることにならう。

全金額は大正二年には前年に比し倍額以上の一七、八二一圓、康徳元年は四六三、六三九瓦、康徳二年は八八六、八九五瓦と飛躍してゐるがそのうち九割までは滿洲探金會社の產出によるものである。

Table with columns: 産金量, 金, 円, 康徳二年

Table with columns: 産金量, 金, 円, 康徳三年

Table with columns: 産金量, 金, 円, 康徳四年

鑛業—金鑛

鑛業—金鑛

鑛業—金鑛





# 工業

## 概説

**概況** 滿洲の工業は當初農産生産物を原料とする工業に依つて出發し漸次時代の波と共に近代工業の進出を見るに至つたものであるが、滿人側の工業は未だ微々たるもので建國以前は商業資本を主とし關東州及滿鐵附屬地に於ける日本側の資本以外は殆ど見るべきものがなかつた。滿洲工業の發達過程に最大な力を投じたものは日露戰役前の露西亞の進出と其の後の日本の石炭採掘及世界大戰であり、更に滿洲建國に依る日滿經濟プロッタの確立は日本の重工業を躍進せしめると同時に滿洲における日滿資本提携に依る諸種工業の勃興を醸成した。

滿洲に於ける近代工業の重點は南は大連北は新京迄の關東州及舊滿鐵附屬地に發達し居り、且つ哈爾濱を中心とする區域内に於ても近代的工業の集團があり、其他には舊來の工業即ち燒鍋(燒酎釀造)磨坊(製粉)

小油房があるに過ぎない。  
**工業大別** 近代工業を大別すれば左の如くである。

- ▲農産物に関する工業、大豆工業、豆油、豆粕、製粉
- ▲第一級粉製造業、製麻紡績、榨糖
- ▲林産物に関する工業、製紙及パルプ工業、燐寸工業、製材業
- ▲畜産物に関する工業、皮革、製糖工業、製粉工業、毛織工業
- ▲礦産物に関する工業、石炭加工業—煤炭、焦炭、スライト製油、油母頁岩工業、製鐵工業及其の工業
- ▲金屬工業—アルミニウム、マグネシウム、銅業—普通鋼、耐火煉瓦、硝子、セメント、陶磁器

### 工業施設機關

**滿鐵中央試驗所** 明治四十三年五月關東都府府より引揚を受け主として殖産工業及衛生に関する試験を施行する機關であつたが、現在は無機化學、有機化學、燃料、農學化學、機械研究、車輛研究、電氣研究、土木研究、纖維研究の各研究室に分れ理化工業及一般理化學的試験研究、機械及材料の試験研究、電氣標準器及術器の管理施設上

記各項の附帶業務を施行し尙依頼に依つて分析試験及機器、材料試験等を行つており最近では特に石炭液化工業試験、纖維パルプ工業試験に力を注いでゐる。なほ沙河口の分工場は鐵道方面の諸研究を行つてゐる。

**大陸科學院** 大陸科學院は滿洲に於ける資源の開發利用を目的とする科學的研究を行ふため日本各種機關、滿鐵中央試驗所と別個獨自に研究すべき事項にのみ限り研究する機關として康徳元年度以來日本に於ける權威者たる大河内博士を招聘協賛の結果、康徳二年六月設立業務を開始した。併してこの大陸科學院の上に滿洲國の資源開發利用上科學的研究に関する事項其他重要事項を審議し、且つ政府各部門全般に互り此等科學的研究事項の統制審議を目的とする科學審議委員會が設置された。この審議會に於て年々研究項目を決定、夫々研究が行はれてゐる。

**工業博物館** 社団法人滿洲技術協會の經營に係り、昭和二年大連市に開設した。工業館、滿鐵館、交通館、交通分館に分ちて各種工業學術に関する最新式機械設備及び原料製品等の貴重な資料を一般無料觀覽に供してゐる。

**工業家團體** (大豆工業研究會) 大連附屬内に

滿洲における大豆工業に関する技術的經濟的研究を目的とし、大連の大豆工業家業者及びその關係者を以て組織する。

(滿洲工業會) 昭和九年奉天主産工業團體者により創設された社団法人の工業家代表機關である。事業としては開採、運賃、投資、内國稅、労働等の諸問題を調査研究して意見を發表し同時に内國工業團體と提携し日滿工業界の諸問題ともなつてゐる。

(大連工業會) 大正八年十月創立され大連及びその附近に工場を經營するを以て組織されてゐる。

(南滿工業會) 大正十五年創立し事務所を奉天に置き労働者の救済授産その他の目的を遂行し、會員は南滿各地で職工入夫その他の使用人を備へる工業家又は企業家を以て組織してゐる。

以上の外工業團體として滿洲技術協會、滿洲電氣協會、滿洲土木建築協會、滿洲建築協會、大連油庫聯合會、滿洲發明協會、滿洲木材同業組合聯合會その他がある。

### 工業關係調査

滿洲國實業部臨時産業調査局は康徳元年十二月設立され五箇年調査計畫に基づき事業を進めたが、大體基礎調査を終り且つ滿洲國の第二次五箇年計畫の具現に對應しての政府行政機構の改革と同時に康徳四年七月一日をもつて解消したが、今後は産業部内各司に於て從來の基礎調査に基き更に細密な調査が續行されることになり、資料の保存、各司との調査連絡には官房文書科及資料科が充つてゐる。調査實施事項は左の如

くである。

**全國主要工場調査** 康徳二年より臨時産業行政の各種工業の大勢推移を検討し、工業關係上の必要に應ずるため實施され、紡績金屬及機械、鹽業、化學、食料品、製材及木製品、雜工業の七に分割して調査し、康徳三年七月完了した。

**重要工業特殊調査** 各種工業中生産額の大きなもの、國防上重要なもの、貿易上重要なもの、海外特に日本及支那に競争工業を有するもの、國民の生活維持に重大なる關係を有するもの等、特に重要と認めらるゝ工業を選択し系統的に其の内容を檢討、基本資料を得るために實施された。而も重要産業統制、關稅改正、治外法權撤廢後に於ける對策及工業動員上重要な資料たるべきものとして康徳三、四年度に行はれた重要工業の範圍は左の如くである。

榨糖系及榨糖附屬工業、糖糸紡績業、織物業、染布染色業、メリヤス製造業、織物及輕金屬工業、製油工業、パルプ工業、製紙工業、人造肥料製造業、製粉業、酒類製造業、製鹽業、ソーダ工業、マッチ製造業、煙草製造業。

**發電水力資源調査** 康徳四年度迄に調査を實施したものは左の如くである。

一、鴨綠江水運(通化—桓仁—沙尖子—匯江口)の本埠頭發電機點の測定、地熱、地質、流量、發電、燃料

### 大豆工業

**製油工業** 滿洲に於ける製油工業は在住民の油に對する需要に發生し、豆粕は單に副産物として家畜の飼料に供せられるに過ぎなかつた。然るに日清戰後、日本の關心が滿洲に向けられるに及び日本の土産が窒素分に缺乏してゐるため豆粕の肥料價値の顯著なることが認められ、且つ安價に購入出来る關係上需要は額に急増し、逐年日本への輸出が激増したので茲に滿洲の油房は從前の油と粕との位置が顛倒し、且つ日露戰争後に至り、歐米方面へ豆油の輸出の途が拓けてより、大豆と共に滿洲重要輸出品となり、殊に歐洲大戰中は飛躍的に輸出増加を招來し、一躍世界の舞臺に進出し、近代工業としての第一歩を踏み出した。

この發達の原因は第一に原料大豆が豊富なこと、第二に製油原料としての大豆の品質が優秀であること、第三に豆粕の利用範圍が廣いこと等が數へられる。又豆油は他

油に較べて安価であり、食料用、工業用として用ゐられる上貯蔵に耐へる特性を有してゐる、只日本に於ける農業恐慌に依る購買力の減退、窒素肥料並に硫酸工業の發達に依る化學肥料の豊富、支那に於ける日滿貨物排斥などで、一時不況を啣つたことがあつたが、支那事變に依つて賣らされた事態の急變に依つて豆粕の對日輸出が激増する一方豆油の對支輸出も著しく本工業の重要性が再認識されるに至つた、只、近年合理的經營組織を備へた新式製油工業が發達するに伴つて、舊來の油坊は動もすれば競争場裡から脱落せんとする傾向がある、舊式油坊を適當に整理し合せて新式製油工業の發達を助成し以て製油工業全體の健全なる發達を期せんがため、滿洲特産中央會内に製油工業振興委員會が開設せられ、各方面の權威者を網羅して對策を協議したが近く政府に依つて具體案が提示される筈である、尙ほ阪大研究室並に滿鐵中央試験所に於て本春豆粕からシルクワールの抽出法が發見され、爾來研究が重ねられてゐるが工業化の見通しがつけば大豆工業の新路が開拓されるは勿論一躍して戰時工業の前途には期して待つ可きものがある、

**製油法** 現在滿洲に於ける大豆製油法は舊式を最も舊式とし、螺旋式、水壓式、抽出式と漸次進歩したものである。歐洲特に獨逸の如きは溶劑による抽出式の油房が七、八割を占めてゐるが、滿洲ではベンジン抽出法の豐年製油一軒のみであつたが、アルコール抽出法による滿洲大豆工業會社が設立されたので、抽出法の油房は二軒になつた、他の油房は全部機械力による搾出方法の油房であるが、このうち板締粕と稱するノシ餅様の長方形の粕を使用するのが、ハルピンの「カバルキン工場」と大連の日清製油工場との二軒で、他は丸粕製造の油房である。

式と漸次進歩したものである。歐洲特に獨逸の如きは溶劑による抽出式の油房が七、八割を占めてゐるが、滿洲ではベンジン抽出法の豐年製油一軒のみであつたが、アルコール抽出法による滿洲大豆工業會社が設立されたので、抽出法の油房は二軒になつた、他の油房は全部機械力による搾出方法の油房であるが、このうち板締粕と稱するノシ餅様の長方形の粕を使用するのが、ハルピンの「カバルキン工場」と大連の日清製油工場との二軒で、他は丸粕製造の油房である。

**全滿油坊概況** (康徳四年九月末)

地方別	工場数	資本	生産能力
大連	1	1,000,000	100,000
安東	1	500,000	50,000
哈爾濱	1	1,000,000	100,000
北滿各地	10	10,000,000	1,000,000
合計	14	12,500,000	1,250,000

昭和十年 昭和十一年 昭和十二年

**各地油坊月別豆粕生産高** (昭和十二年)

月	大連	安東	哈爾濱	合計
一月	100	50	200	350
二月	120	60	250	430
三月	150	80	300	530
四月	180	100	350	630
五月	200	120	400	720
六月	220	140	450	810
七月	250	160	500	910
八月	280	180	550	1,010
九月	300	200	600	1,100
十月	320	220	650	1,190
十一月	350	250	700	1,300
十二月	380	280	750	1,410
合計	3,500	1,700	14,000	19,200

**製粉工業** 小麦は北滿の主要農産物の一つで、その製粉工業には磨坊と稱する舊式な土法と火磨と稱する新式な歐法とがある前者は家内工業で全滿各地就中北滿に多く

その總生産額は火磨の三分の一に達し、火磨は近代式工場組織の下に新式機械と動力を用ひてゐる。

小麦は支那人の主食物であるから磨坊は油坊と共に早くより存在したが、火磨が始めて建設されたのは一九〇〇年で北滿に進出したロシア人の手によつた。間もなく日露戰爭が起ると、ロシア軍に對する供給上長足な進歩をなし、更に歐洲大戰によつて一段と促進され一時北滿だけでも十餘の工場が運轉して、その製品は滿洲は勿論ロシア、北支迄に及んだことがある。しかし乍ら大戰後は米國、カナダ、濠洲等の大量生産に押され、滿洲國建設後は優秀なる日本品の壓倒的進出によつて急激に衰微した。殊に數年來北滿大水其他天災に禍されて氣息奄々としてゐたが昭和九年末の關稅改正で漸く活氣を帯び、更に同十一年二月一日より實施を見た遠距離減價法による麥粉運賃の引下げに本格的發展の基礎を與へられ、休業中の工場も續々開業する情勢となり、昭和十二年には康徳(三千八百パレル)東洋(二千パレル)アジア(一千パレル)の新工場が設置されるに至つた。

滿洲に於ける麥粉の需要は一ヶ年大體三千五百萬袋程度と提唱され、年々増加の趨勢にあり、その生産能力は八十四工場、四

千五百萬袋乃至五千萬袋を有するが、生産高は昭和十年一千萬袋、同十一年度一千萬萬袋、同十二年度二千三百七十萬袋で、不足部分は濠洲粉、内地粉で補つてゐたのである。しかし昭和十二年九月より爲替管理強化で濠洲粉輸入は全く禁止された。

**小麦作付面積及收穫高**

年	作付面積	收穫高
昭和二年	1,000,000	100,000
三年	1,200,000	120,000
四年	1,500,000	150,000
五年	1,800,000	180,000
六年	2,000,000	200,000
七年	2,200,000	220,000
八年	2,500,000	250,000
九年	2,800,000	280,000
十年	3,000,000	300,000
十一年	3,200,000	320,000
十二年	3,500,000	350,000

**輸入粉數量累年表**

年	數量
昭和二年	100,000
三年	120,000
四年	150,000
五年	180,000
六年	200,000
七年	220,000
八年	250,000
九年	280,000
十年	300,000
十一年	320,000
十二年	350,000

滿洲國では小麦粉の自

給自足を目標に、曩に小麦増産二十五箇年計畫を樹立したが、これが進展に應じて國內製粉工場能力をも積極的に大擴張を行はしめることとなつたが、その大要は次の如きものである。

(一) 康徳七年末迄に約三萬五千四百パレル、康徳十二年迄に約四萬三千八百パレルに、更に康徳十七年末迄に約五萬二千パレル迄にする豫定であつたが、三萬七千パレルには康徳五年四月には既に達し、資材の供給宜しきを得ば、茲二、三年間に當初の豫定量に達するものと豫想される。

(二) 以上の大擴張計畫を實現せしめる爲に同滿製粉業を重要産業統制法中に含まれる第二級統制企業として生産設備の新設及び老朽設備の淘汰を目標として相當積極的な統制を行ふ。

(三) 以上の積極統制並に援助の具體的内容として次の諸項を實行する。

(1) 日本製粉資本並に技術の滿洲進出に對しては從來既設工場促進の立脚より半ば消滅政策が採られて來たが今後は之を撤廃し適當なる統制下に日本資本による新設工場の開設並に既設工場の買収改造に對しては積極的な補助長策を採る。

(2) 統制の根本方針としては新京、哈市の二大製品を以て南滿の需要に充當し、各地方製粉の製品は寧ろ富饒地方の自足を實現する範圍に止め哈市、新京

工業—食料品工業

兩市の全工場を打つて一九とする相強勢力なるカトルを組織し、之れを中心として全滿洲に製粉業統制の實現を期す。

(3) 國內製粉業の發達助長の見地より適當に二國一〇歳を限度として製粉輸入税を漸進的に引上げる。但しその實施は消費を超過せざる小麥の増産に製粉工場の新設を要するに懸念せしむ。

小麥増産計畫

年	作付面積 (千ヘクタール)	生産量 (千石)
昭和十一年	1,050,000	1,150,000
十二年	1,100,000	1,200,000
十三年	1,150,000	1,250,000
十四年	1,200,000	1,300,000
十五年	1,250,000	1,350,000
十六年	1,300,000	1,400,000
十七年	1,350,000	1,450,000
十八年	1,400,000	1,500,000
十九年	1,450,000	1,550,000
二十年	1,500,000	1,600,000

**製粉業の統制** 長年間相強數量輸入されてきた滿洲製粉の輸入禁止と特殊需要として北支に約八十萬俵の輸出が行はれた爲に、康徳五年二月頃より、供給不足による騰勢は漸く問題となり初め三月五日には左の如き當局談を發表して所信を披瀝して統制の片鱗を表示した。

**經濟部當局談** 最近國內の小麥及小麥粉の市價急騰は昨年七月(昭和十二年)事變勃發當時に比較し小麥は約三分七、小麥粉は二割四分の騰貴を示してあるが右は經濟界談の實情に照し急激騰貴するものと懸念するに由り、これを適當に抑制するたため經濟部としては關係各方面と連絡の上該部の方策を講じ騰貴する方針にして、尙必要とあれば小麥粉の輸入緩和を考慮する意向なり。

越えて三月下旬政府は昂騰抑制の爲に約一千萬圓の滿洲製粉を輸入することとなり、第一回分二十萬俵を三麥、三井に買付せしめることとなつたが、その數量が當初の豫想より僅少であつたので却つて思惑を行つたが、五月十二日公布即日施行した暴利取締令は適用品目の擴大、關稅の強化等によつて幾分抑制された。更に同年五月二十四日には小麥粉の輸入税免除に内地粉の北上を期待することとなつたが、現實の不足は到底斯る樂觀的な對策の處理するところとならず遂に同年七月一日全滿主要都市の小麥粉、小麥相場を公定することとなつた。

六月三十日迄 七月一日より

都市	六月三十日迄	七月一日より
哈爾濱	100.00	100.00
新京	100.00	100.00
天津	100.00	100.00
濟南	100.00	100.00
青島	100.00	100.00
鄭州	100.00	100.00
開封	100.00	100.00
徐州	100.00	100.00
鄭州	100.00	100.00
開封	100.00	100.00
徐州	100.00	100.00

のために不振に陥つた。後新京に分工場を設け北滿小麥を以て社運の挽回を圖らんとしたが、これ又失敗に歸し、邦人の製粉業は全く影を潜めたが、事變後滿洲國の製作助成を得て、昭和九年六月哈爾濱に日滿製粉(資本金二百萬圓)の設立後續々進出を見せた。

○日滿製粉公司 資本金一千萬圓(内六百萬圓は、大津、三井、三井、東洋、日清製粉、日本製粉、工場、哈爾濱、海拉爾、齊齊哈爾等に合計十一、能力一萬トネル)。

○康徳製粉公司 康徳四年二月新京に設立、資本金二百萬圓、牛欄橋、日本製粉、奉天、四平街、工場、能力二、千トネル)。

○日東製粉公司 昭和十一年八月新京に設立、資本金百萬圓、全額日東、滿洲製粉、新京工場を三十八、八百トネル、能力二、千トネル、日東製粉(三三)系)。

**製糖業** 滿洲に製糖業を起したのはワシア人で明治四十二年哈爾濱郊外阿什河に製糖工場が出来、その翌四十二年に哈爾濱の對岸黑龍口に呼蘭製糖廠が設立された。滿鐵でも斯業で有望なるを察し大正三年、公主嶺農事試験場に於いて試作に着手、同四年には新京、鐵嶺、遼陽の各苗圃に擴張、

更に農家にも委託した結果、一坪當り甜菜收穫量二斤乃至四斤、改良品種による時は含有糖率一八%に達することを明かにし、その結果大正六年奉天に資本金二千萬圓の南滿製糖會社が設立された。かくて甜菜の栽培面積は一時十萬畝以上に達したが甜菜間の壓迫甚しく且つ原料不足を補ふため行つたジャワ租界の思惑に失敗したため昭和二年遂に閉鎖するに至つた。北滿に於ては甜菜の運賃政策の保護と良質のため甜菜をみるべきものがあつたが、漸進的に操業する程度で成績不振であつた。しかし滿洲の砂糖消費量は年々増加の一途を辿り、昭和十一年度の輸入額が如き三百六十九萬擔に達する有様で滿洲の製糖業は必ずしも悲觀に値はざるに至つた。先づ昭和九年日本砂糖貿易會社が阿什河工場を買収してポラント人と合同で北滿製糖會社を設立した。

資本金二百萬圓金額増進。

次いで同十年十二月奉天に滿洲製糖會社が(資本金一千萬圓四分の一拂込)設立され、直ちに奉天に滿洲製糖公司(資本金五百萬圓半額拂込)が滿鐵會社の出資で設立された。奉天工場の外に滿洲國から呼蘭糖廠を買収して哈爾濱工場とし鐵嶺工場をも哈爾濱に移轉し、なほ北滿第三工場をも建設する計畫である。その生産能力は

工場名	一日原糖生産能力	一期原糖生産能力
哈爾濱第一工場	100,000	100,000
哈爾濱第二工場	100,000	100,000
呼蘭工場	100,000	100,000
鐵嶺工場	100,000	100,000

**高粱酒醸造業** 高粱酒醸造場即ち燒酎は油房および磨坊と共に土産工業の最大なるものである。如何なる田舎にも存し従つてその生産量は不明だが年産四十萬石見當と推算されて居る。高粱酒は日本の燒酎に相當する酒で無色透明、酒精分六〇乃至六五%を含有して居る。原料は高粱と麴に相當する種で醸造法は半固形醱酵法と稱せられる非科學的ながら一種特有の香味を醸し世界に類のないものである。主要生産地は滿鐵沿線地帯で就中遼陽は滿洲の釀として有名である。

黄酒は日本酒に類似する醸造酒で酒精含量一〇—一三%、夏季貯蔵に適せぬため地元消費に充てられるだけだが、一週間で製造し、飲料に適するため全滿の醸造量は相當大なるものと見られて居る。

老酒は黄酒と同様の方法で醸造される酒であるが、長期貯蔵に堪へる。滿洲では餘り上等品は出来ないので、南支の銘酒たる紹興酒が輸入される。

滿洲酒造會社は資本金五十萬圓、昭和八年設立され、山崎百治博士の特許方法により滿洲國産糯米を原料として紹興酒を醸造するもので將來を期待されて居る。

**日本酒醸造業** 滿洲は水質の關係より日本酒の醸造に適する地多く、邦人々々の増加と共に急速に發達してきたが、その醸造は遠く明治四十三年大連に於て給鹿三郎が着手したものである。滿鐵沿線では大正五年撫順にて大江惟賢氏が始めて醸造し其後次第に醸造に従事する者が増加した。大正十四年關東州には酒造組合は組織され、關東廳は酒質の改善に向つて多大の補助獎勵を行つたので爾來長足の進歩を遂げ、昭和十一年の關東州及び附屬地の造高は四萬七千石を突破し、人口増加につれて年々増加の一途を辿つて居る。殊に關内に於ける工場も續々新設され、奉天、新京、朝陽川、牡丹江、哈爾濱、龍井村、圖們、延吉等に於て盛に醸造を見て居る。しかし乍ら内地品に比して品質劣るために、内地品の進出に備えられ、その需要は内地品に及ばぬ現狀で品質の改善は刻下の急務である。

**麥酒醸造業** 滿洲に於ける麥酒の需要は年々増加し、昭和元年頃は僅に三十萬打、百二十萬圓内外に過ぎなかつたのであるが、滿洲事變以後急速に増加し、昭和十年の輸入高は二百六萬打、三百七十五萬圓、

約七倍の増進として、邦人の増加と共に需要は急増し、昭和十二年の全消費量は二百八十萬打、千百萬圓に達した。

満洲の麥酒醸造業は従来北滿では一面は哈爾濱、南滿では大連に古くより起つたが大連は日本内地麥酒進出に壓倒され早く閉鎖し、事變前までは北滿の二工場のみが残存してゐた。然るに事變後邦人人口の急増に日本人向麥酒の需要が増加し、先づ奉天に滿洲麥酒會社(資本金二百萬圓全額拂込)が昭和九年設立されたが、主として日本の麥酒カルテルの出資にかゝり、年産十萬圓であり、目下供給不足の状態なるに鑑み増産計畫中である。次には哈爾濱に大滿洲麥酒會社(資本金一千萬圓)で設立され、一面は哈爾濱の栽培場を買収事業を開始したか成積豫定の如く擧げられたため、同十年二百五萬圓(全額拂込)に減資した。事業は一面は哈爾濱の栽培場と麥酒醸造を、哈爾濱で清涼飲料水製造販賣を行つてゐる。越えて昭和十年四月には哈爾濱に哈爾濱麥酒公司(資本金二百萬圓(半額拂込))が設立され、大滿洲麥酒公司の買収を行つた。又同年七月には百萬圓全額拂込を以て奉天に亞細亞麥酒公司が設立された。

醤油味噌醸造業 滿洲に於ける南式醤油醸造の鼻祖は官業では奉天野野野、民業で

は大同醬油公司である。滿洲國成立以來邦人の急増に伴ひ、全滿醸造業者も造石高も目覚しい増加を示してゐる。昭和六年の造石高は二〇、九五〇石であるが、爾來漸増して昭和十二年に於ては一一六、七三四石に達し、五倍半に急増した。従來關東州の醸造品は滿洲國內に於ける斯業が旺盛となるに伴ひ、額に減退した。即ち事變前は造石、牛派共に寧々たるもので問題とするに足らざるものであつたが最近では州内造石高と匹敵する様になり、延びては關東州醸造業者を次第に侵蝕せんとする傾向強く、かくて兩者の對立は漸く激化するようになつた。一方内地よりの輸入は尙甲萬、ヒゲタ等一流商品が依然優勢で年額約一萬石に達し、滿洲國業者を脅かし、品質の優秀、大量生産による廉價と、宣傳による普及に滿洲市場に根強い地盤を獲得しつゝある。全滿の主なる商店は左の如くである。

大連 大連醬油會社、德田商店、島善商店  
奉天 奉天醬油會社、伊藤商店  
新京 滿洲醬油會社  
遼陽 同商店

糯米業 滿洲に於ける米は陸稻米、水稻米、外米(ラングーン、サイゴン)、朝鮮米等であるが、この中水稻米と朝鮮米が日本

人の食料となり他は滿人の食料となる。滿洲の陸稻は漸次水稻の増加でそれに代りつゝあるがなほ新京、海龍、新民黑山、地方に多く、水稻は滿洲での歴史極めて淺く發祥は四、五十年前に始まつてゐる鮮農の開拓によるがその有利なことが滿人間に知らるゝに至り、滿人の水田開發に従事するものも多くなつて來た。南滿、北滿、東滿に水田適地が多く、今後日本人移民の増加と共に生産量の増加が期待される。現在の主な水稻地は新京、奉天、撫順、安東、開原、海城、營口、海林、開島地方で將來遼河、松花江、牡丹江、穆稜河、嫩江、鴨綠江、太子河、溧河各流域の開發が期待されてゐる。

以上を産米は北滿では牡丹江、一面は、哈爾濱、齊齊哈爾、南滿では吉林、新京、開原、鐵嶺、奉天、山城子、撫順、營口、安東、松岡、大連等が主要集散市場で、これ等の地にて精白した白米を各地に配給する。従つて右諸地方が糯米事業の主要地となる。

奉天にある全滿米穀同業組合は滿洲米の品質向上のため品質検査を随行規格統一を行つてゐるが、このため糯米方法も漸次進歩し、滿洲國得の無砂搗機械によつて白米粒に糯米を精製してゐる。北滿、東滿方面

の水田開發に伴ひ同方面にても糯米工場の擴出を見てゐる。

尙十二年九月の爲替管理強化に伴ふ外米輸入禁止は開始不圓滑なる事態を惹起せしめたので、企畫處では統制は企圖し特殊會社の設立計畫がある。

製氷事業 滿洲では天然氷を使用する都市もあるが、主要都市には夫々製氷會社があり毎年増加を辿り需要に應じつゝある。各地製氷能力は大連(旅順を含む)二百噸、撫順鞍山各十噸、安東四十噸、營口二十五噸、新京五十噸奉天八十噸である。

織維工業

作蠶系工業 滿洲に於ける作蠶工業は古く山東人が滿洲に移住した當時に傳來したものであるが、清朝時代にドイツ人が山東芝罘が起した製糸が滿洲にも影響し急速な進歩を遂げ安東を第一とし、鳳凰城、海城、蓋平の海岸に近い地帯から西豊、開原にまで製糸工場の設立を見、滿洲の重要産業となつた。然し一般に家内工業を出でず、新式の作蠶紡糸工業としては安東に富士瓦斯紡績安東工場があるのみである。絹織工業も安東を中心と稍々發達し二十數工場を算したが、奉天の純益織造公司を除いては小規模で設備も整備してゐない。過去に於け

る作蠶系製造高は一假に蠶作の年が五萬餘擔、一九〇〇千圓、平年作四萬餘擔一、〇〇〇千圓、出作一萬五千餘擔、五、二五〇千圓である。

滿洲には絹織工業が未發達のため大部分は原糸の儘日本、支那、米國などに輸出される日本に於ては福井、岐阜、京都で製織加工したる後日本絹織の名で印度、南滿その他に輸出されるが、どれも近年は次第に減少を辿つてゐる。即ち輸出を見るに(大回元年を一〇〇とす)

Table with 2 columns: Year (大回元年, 二年, 三年, 四年) and Value (千圓). Values show a general downward trend from 100 to 60.

最近政府の助成宜しきを得て幾分増加の趨勢にあるが、この減少は次の如き諸因にあると見られる。

- 一、作蠶飼育は方法粗放なるため、放棄量に比し收量歩合粗く、また雨量過多に依る病害を受けることが甚しい。
- 二、作蠶飼育地方は限限の果樹となり易く完熟に歸してゐる地域が極めて多い。
- 三、作蠶は蠶糸用として供給充分でなく、十月より翌年四月作業すれば原蠶全部を消化して終ふ有様であるから自然蠶高となり易い、殊に前記の二理由に因り作蠶飼育者の蠶葉相次ぎために蠶々原蠶不足を痛感されるに至つた。
- 四、作蠶糸は低廉なる人絹糸の急激なる發達普及に生糸と同様その販路を侵され勢である。

五、製糸技術が幼稚である。  
六、従来は取引はもとより運送所もなく糸價格共に極めて斯業の利益を逐げた。  
茲に於て滿洲國は糸質統制の爲に康徳元年十一月全滿絲業公會聯合會を新京に組織せしめる、同二年六月には國營の作蠶系検査所を安東に、同分所を海城、蓋平に設ける一方、安東の近傍に飼育試験所を設けて蠶糸の改良に携はらしめ、更に同十一年には初年度經費三萬圓を以て西豊縣に作蠶試験所を設置したのを始め、同四年七月には奉天にて發達獎勵の審議會を開催して増産糸質の改善に盡力するところあつた。

作蠶輸出量

Table with 2 columns: Year (大回元年, 二年, 三年, 四年) and Value (千圓). Values show a general downward trend from 100 to 60.

工業—纖維工業

11111

として重要分野を占めるであらう。  
 綿糸布工業 滿洲國三千萬民衆の約九割以上は綿布の需要者であつて、綿糸布業者の規模は勿論小であつたが古くより發達してゐた。これら業者は木製機の手織による所謂土布であつて現在の如き近代工業としての紡績織布業は大正十年以降發達したものである。即ち歐州大戦に依つて資本、技術共に充實した日本紡績業は上海、青島から進んで滿洲にまで進出し、大正十年遼陽に滿洲紡績會社、同十三年金州に内外綿金州工場、同十四年周水子に滿洲紡績會社の新設と相次ぎ既存の張軍閥を背景とする奉天紡紗廠と相並んで滿洲紡績事業の基礎を固めた。

斯の如く急激に日本紡績業が滿洲に進出するに至つたのは滿洲が大消費地であり、労働力豊富且つ労働の低廉なること、公課租税の低いこと等であつたが、現實に事業に着手して見ると意外の支障多く、これが爲、滿洲紡績は州の内外を問はず滿洲事變前は甚だ不振であつた。その原因は次の如

在滿紡績現勢

社名	設立年	同五年	既許可及計
内外綿紡績	一九一三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
滿洲綿紡績	一九二〇	五,〇〇〇	一五,〇〇〇
計		一五,〇〇〇	二五,〇〇〇

きものである。  
 一、市場に競争性なきこと。即ち關稅關稅で州内品は滿洲内に輸出せず滿洲品は滿洲外に輸出困難であつた。従つて州内品は特別關稅を利用して日本、朝鮮より印度南洋方面に市場を巡ることとなつた。  
 二、原料難。滿洲産棉花は量的にも質的にも甚だ不十分で供給を年々多量外棉に仰ぐ他なかつた。  
 三、労働條件の不良。労働賃は極かに低廉なるも能率著しく劣り而かも健康の體は相當高となり、又監督買が可成り高きので全體としては有利でなかつた。  
 四、機械條件の期待外れ。内地に於ては紡績織造業が機械修繕も簡便であつたが在滿紡績は不便のみならず割高であつた。  
 五、日本紡績の低廉且つ優良なる品物に常に壓迫され勝ちであつた。

次増少せられ、且つ内地に於ける綿業統制の結果は自給自足を余儀なくせしめてゐるが、康徳五年度の擴張計畫十萬四千三百二十八八七鐘の増設完了と計畫中の九萬四千九百八七鐘の増設が完成されるならば大體自給自足は可能である。要は原棉手當にあるも滿洲國の生産計畫により又有望である。  
 又國內に於ける手織業は全滿に一萬三千餘の小織機を算して土布を製し年々略十萬捆の棉花を消化してゐる。これらの土布は低廉な原糸、低廉な生産費で便宜であり、而も品質は粗悪乍ら強靱なる爲に官買を争ふ滿人間に歡迎され、日本より輸入粗布大尺布の一大敵團を形成してゐたが、これに對して日本紡績は滿洲向大尺布を製造して關稅を逃れて壓迫したるも第二次關稅により土布保護され再び大尺布は凋落したが本年初めは特産物の好況に又回復の途、一時現れしも東の間、内地の綿業統制強化に全く禁止されるところとなつた、しかし本年末鐵功を豫想されてゐる東棉紡績業開始の曉は雖、この工場製品たる大尺布が、全滿を席捲するであらう。

然し滿洲事變後は州外に於ては張軍閥の壓迫が無くなつたので情勢は漸次好轉し大同元年には營口紡績會社が新設され、同四年には東棉紡績が増産設備をなし、同四年には東棉紡績が育成されて長足の發達を遂げ別表の如く現在、精紡機二十七萬一千九百八鐘、織機三千三百三十一臺の多數を擁し優に北支那、朝鮮に匹敵する勢力までに發達した。斯くて輸入依存度は漸

社名	設立年	同五年	既許可及計
奉天紡績	一九一三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
營口紡績	一九一四	五,〇〇〇	一五,〇〇〇
計		一五,〇〇〇	二五,〇〇〇

社名	設立年	同五年	既許可及計
滿洲製糸	一九二〇	五,〇〇〇	一五,〇〇〇
計		一五,〇〇〇	二五,〇〇〇

在滿紡績機械設備概況

社名	既設		新設	
	總糸機數	織機數	總糸機數	織機數
内外綿紡績	一、二一五	一、二一五	—	—
滿洲綿紡績	—	—	一、二一五	一、二一五
計	一、二一五	一、二一五	一、二一五	一、二一五

製紙工業

滿洲の製紙工業は他の諸工業に見る如く家内工業的な幼稚なものから近代的な、工業に至る凡ての分野を併存してゐる。

- 紙 膠式の在來の手工業で奉天、吉林、遼陽、新京、鐵嶺等に四十餘の工場を數へ専ら滿洲人向きの支那紙を生産してゐる。
- 松浦製紙 大正七年資本金五十萬圓を以て夏宗河子に設立された滿洲製紙を昭和八年八月一日買収設立、資本金三十萬圓を額滿込機、木質紙料以外の原料を用ひ日本の機械和紙製造工場に相當し、和紙一切及支那人向紙類製造、年産約九百萬一晝夜二萬封度の能力を有す。
- 撫順製紙 昭和六年設立され六〇時シリンダーマシン一臺を有し年産約九百萬噸現在資本金十二萬圓全額拂込済。
- 六合紙廠 大正十二年安東に設立され年産約八百噸而して以上各工場の製品は有光紙、官紙、毛邊紙、製紙の支那紙、その代用品たる下級品で悉く滿人向のものである。昭和十年七月資本金、五十萬圓を額滿込済の滿洲製紙人に改組された。
- 鴨綠江製紙 大正八年安東に設立され資本金は五百

工業—纖維工業

11111

萬圓(傳込四百萬圓)で、九條の抄紙機を有し生産能力はバルブ年産一萬二千噸、紙類八千五百噸に上り木材を原料とし有光紙、ハトロン紙、ロール紙、粘着紙、マツチ紙、包紙等を製造してゐる。張軍閥時代には邦人經營の製紙業は支那紙と競争的地位にあつたため常に壓迫をうけ閉鎖した工場も二三あり鴨綠江製紙も多年後閉鎖を遂げた。然るに滿洲事變後は關稅の獨立により滿洲國內の需要を確保した上に支那方面にも輸出するに至り十二月上旬には五分配當復活し、好調を續けてゐる。

滿洲の製紙工業の將來は電力、運輸、水利及び機械、硫黄、松脂、晒粉、染料等に於いて日本より條件不利なるも日本の製紙原料の価格は年々高まりつゝあるのに對し滿洲は原料豊富にして而も人口増加し文化向上しつゝある等の條件に鑑み將來相當發展するものと思はれる。

毛織工業 滿洲には羊の飼養が盛んであるが肉及皮を主たる目的とするので從來殆んど改良行はれず、従つて羊毛の品質は極めて粗悪であり、各地で家内工業的に紡子

(毛布)を産する程度で殆んど見る可きものがなかつた。然るに大正十年奉天に滿蒙毛織會社が設立されて兎に角近代的方法に依る毛布工業が滿洲に見られる様になつた。

- 滿蒙毛織株式會社 歐州大戦當時の遼洲羊毛の輸入社を數ふ可く大正七年夏、張軍閥、滿鐵、東拓の援助の下に資本金一千萬圓で設立された合辦會社で支那羊毛製毛を原料として毛織布製造に着手したが大正十三年火災にかゝり工場の大半を有に焼失し資本金を三百萬圓に減額したが不況依然たるもあり、昭和六年には四十萬圓にまで減額した。然し滿洲事變後は環境好轉して百萬圓に増資し、更に二百五十萬圓全額拂込に増資したが業次見るべきものあり、天津出張所を設けて北支にも進出するなど益々事業擴充した。昭和十一年七月三百萬圓を増資して五百五十萬圓にし、更に翌十二年六月一千万圓に増資し同時に從來額滿二十圓のもの二枚半を併合して一枚の額滿金額を五十圓に改めた。工場は奉天、名古屋、同陽、北京、鐵嶺の五箇所に有し、天津工場は目下建設中である。
- 滿洲毛織株式會社 昭和十一年三月、新京に於ける日滿有力實業家が發起人となり資本金國幣二百萬圓、四分の一拂込にて設立され毛織及馬毛その他各種の原毛加工業を行つてゐる。

バルブ工業 △木材バルブ、滿洲事變により日滿經濟プロックが成つた上に恰も人絹工業驚異的發展を見てバルブの需要急増せるため國內にバルブ製造事業を企圖するもの踵を援するに至つた。之が認可に關しては利權關係、國有林の處置問題もあり關係軍並に滿洲國實業部に於いて慎重調査研究の結果、康徳二年十月、經營出願三十四件中より東滿人絹バルブ、滿洲バルブ、東洋バルブの三社を認可することゝを決定した。しかし國內林力保存の見地よりバルブ會社に對し

(一)生産計畫は一社第一年度一萬疋、第二年度以降一萬五千疋、(二)許可期限は四箇年として製材有限公司は滿洲國法人として設立す(三)重役及事業計畫の變更は政府の認可を要す(四)原料材は政府にて代償のものを使用せしむ  
等の方針を決定した。されどバルブ事業の經濟的規模は最低三萬疋であり、他方バルブ製材は益々深刻となつて來たので、當局のバルブ政策も漸次増産許可の方針にある尙東滿バルブは康徳四年續勸業の東邦バルブ工業に合併された。

萬圓)に増額され纖維系の會社となつた。  
△滿洲バルブ 康徳元年五月設立され資本一千万圓にて寺田元之助を社長とし、役員は寺田、野村、依藤、方正等の滿洲國北の森林地帯で人絹用及製紙用バルブを目的とする。尙ほ康徳四年四月株式五萬株が三筆によつて増資へされた。  
△東洋バルブ 資本一千万圓(拂込資本五百萬圓)で川西清兵衛を中心に日本及東洋諸國を以て設立された。成蹊は關東一帯で工場所在地である。  
△日滿バルブ 大正六年以來、同島方面に投資してゐた王子製紙の林業會社であつたが、これを基礎として資本一千万圓のバルブ會社を設立した。工場は敦化にある。

△蘆花バルブ バルブ製材の深層は木材バルブのみに依存するを許さざる窮迫せる情勢に立至つた爲に蘆花では代用バルブ資材を夙に研究してゐたが、滿洲蘆花のバルブ資材に適合せるに資し康徳三年十一月營口に資本五百萬圓、拂込資本二百五十萬圓の康徳蘆花バルブ股份有限公司を設立し康徳五年一月より日産二十キロ、年産七千キロを目標に人絹用及び製紙用バルブの生産を開始したが、操業の結果は豫想以上の好成績を擧げる見込があつたので、現在の試験工場を擴大して本格的な増産對策につき考慮中なもの近く年産一萬五千キロに擴張する筈。  
△大豆製バルブ バルブ製材の爲に甚大な生産量を持つ大豆製に資目し、康徳三

年秋以來滿鐵豆製バルブ事業委員會で調査研究されてゐたが、準備完了し、同四年八月資本一千万圓(五百萬圓拂込)にて酒井織維工業、三井物産、滿鐵の共同出資の下に設立された。

製麻工業 滿洲は特産物の輸出であるからその包装用具としての麻袋の需要は夥しき數に上り、大體年間新製麻袋三千五百萬枚、古麻袋二、三千萬枚の消費とされてゐる。世界に於ける麻袋の最大産地は印度であるが、滿洲は氣候風土が麻類の栽培適地なので自給自足に至らぬまでも、ある程度まで自給すべく大正六年大連に滿洲製麻會社が、同八年奉天に滿鐵纖維工業會社が相次いで設立された。斯くて一時は兩社の生産高を合して四百萬枚に及んだが、滿鐵纖維工業の没身たる奉天製麻は大正十二年火災に罹り、加ふるに印度麻袋のダンペンが、銀幕落の打撃を受けて昭和五年三月資本三百萬圓、七十五萬圓拂込を百五十萬圓に減資し遂に工場を一時閉鎖した。然るに滿洲事變後は奉天製麻に滿洲製麻及び三井の資本が注入されて兩社は事實上同一經營主體に歸屬して兩社製麻能力一、〇〇〇萬枚(滿鐵四百萬枚、奉天八百萬枚)をフルに動かすと云ふ好況を呈するに至り康徳元

年十一月の關稅改正により輸入黄麻の舊稅率毎擔一圓十三錢を從價之に改めたので、これを主たる原料とする奉天製麻は著しく有利となつた。斯くて兩社の合併構想は益々熱し、康徳三年一月、滿洲製麻は奉天製麻と合併するため資本金を一倍半増資し二百五十萬圓とし二月には奉天製麻を合併して資本金も五百萬圓(二百三十七萬五千圓拂込)増加し次いで昭和十一年春より増設に着手十二年夏竣工現在年産能力は千六百八十萬袋に達してゐる。尙ほ十二年八月遼陽に神戶の小泉製麻の資本、技術を以て資本金三百萬圓(拂込資本百五十萬圓)の遼陽紡麻股份有限公司が設立され年産能力は六百萬袋である。

遼陽に建設中の工場は、同五年末には竣工の豫定で、遅くも來年初に製品が出廻る筈である。  
斯くて製麻品も自給自足に漸次近づつてゐる。尙ほ製品も自給に並行して同時に原料の自給も計畫されジュート代用品ケナフの増産計畫が滿鐵、滿洲國當局の手に依り進められつゝあり滿洲製麻界の前途には注目すべきものがある。  
次に北滿が亞麻栽培の適地であることは滿鐵や舊北鐵の農事試験により夙に知られてゐたが、これが企業化を目的として昭和

九年四月設立された日滿亞麻紡織會社は資本金六百萬圓、四分の一拂込みで、三井その他の資本を背景とし、幣山に製工場を哈爾濱その他に原料工場を置き、北滿農民に亞麻を請負耕作せしめ、これを原料として麻布、ホース類、雜糸の製造に當りつゝある。

化學工業

頁岩油工業 滿鐵撫順の油頁岩を原料とする採油事業は明治四十二年以來研究されてゐたが近年漸く完成、昭和四年製油工場を設置、その後改良を重ねた結果昭和十年乾餾工場を、同十一年揮發油工場を設立、粗油年産十四萬噸の設備を完了更に燃料油策に順應するため、工場の第二次擴張を行ひ、昭和十一年四月より擴張事業費一千八百萬圓を投じ五ヶ年計畫で粗油年産三十萬噸の完成に向ひ目下工事の進行をみつゝある。現在同工場の能力は粗油十四萬五千噸重油七萬八千噸、硫酸三萬九千噸、揮發油二萬二千噸、粗蠟二百噸その他で將來工事完成の時は人造石油事業として日本最大の工場を誇るものである。  
人造石油工業 滿洲に於ける石炭埋藏の有資鑛區は二十三の多きに達しその生産高も昭和七年七七四萬噸、同八年一、〇一五

萬噸、同九年一、四二萬噸、同十年一、八二萬噸、同十一年一、三九〇萬噸と年々飛躍的に増進し、從つてかゝる豊富なる石炭の液化工業は國防上の見地から極端必要視され昭和八年以來滿鐵撫順工場を始め各地に工場が設置され事業の進捗を見つゝある。即ち撫順石炭液化工場は昭和十一年八月撫順市に設置され一千六百萬圓を投じて直接法による液化を企圖し、現在約年二萬噸を生産しつゝあるが、將來企業化の見通しがつけば年約二十五萬噸の能力とする豫定である。之について同十一年九月新京に資本金五百萬圓(全額拂込)で設立された。滿洲油化學工業會社は工場を四平街に置き原料を西安煤礦炭に採り、黒井式低溫乾溜法により同年末には約一萬五千噸の生産をなし將來十萬噸増産に邁進せんとしてゐる。更に昭和十二年特殊會社として資本金五千萬圓を投じ本社を新京に工場を阜新に設置した滿洲合成燃料會社はフィッシュヤイ法による液化を行ふが昭和十六年末までにはガソリン三十萬噸の生産をまず豫定である。出資内譯は三井が滿洲國各一千七百萬圓、滿鐵八百萬圓、滿鐵五百萬圓、滿石三百萬圓である。この外野ロynchellンによる石炭液化工業會社の設立が企圖されつゝある。

工業—化學工業

石油工業 康徳二年四月滿洲石油專賣...

アルコール工業

現在滿洲にあるアルコール製造工場は大同酒精の三工場を始めて五工場(内關東州に一工場)あり一箇年の全能力は約二萬疋である。

硫酸工業

從來滿洲では遼寧、昭和三十二年九月日本...

製鋼所、南滿瓦斯、本溪湖煤鐵公司等開鑿物として四萬程度...

發にも着手することになり、土民をも合すれば滿洲消費高を差引き工業用として...

來る。大連油脂工業株式會社は滿鐵中央試驗所の研究を基礎として創立同方法によつて特に日本に於ける滿洲の牛脂輸入を防護する目的を以て設立された。

石油工業

滿洲國內に於ける石油需要はその約六割を内地製品に占められ、州内及び滿洲國內の製品は三割餘である。

塗料工業

滿洲には大豆油、蘇子油、小麻子油等の原料油及び重晶石、石灰石等の顔料原料を豊富に産するので、これに着目して大正八年二月大連に滿洲ペイント會社が設立され滿洲事業擴張と共に哈爾濱、青島、天津、石家荘等が主なるもので化學工業、洗滌用を製造してゐる。

の需要に應じたが、同十一年九月日本ペイントに合併同社滿洲工場として經營するやうになつた。年産二百萬圓に達する。

Table with columns: 所在地, 資本, 生産力, 昭和十一年生産高. Lists various industrial companies in Manchuria.

工業—金屬工業(重工業)

金屬工業 (重工業)

支那事業を轉機として強調されるに至つた日滿經濟プロックの強化特に滿洲國に於ける重工業の生産力擴張を基礎とする増産計畫の進捗は從來の相貌を一變、飛躍的進



設の擴充と事業の活況を見るに至つた。日滿財界の二、二六事件と稱される日産の滿洲移殖即ち滿洲重工業株式の設立は滿洲に於ける金屬工業の將來を完全に計畫づけると同時に日滿兩國を一體とする製鋼五ヶ年計畫千二百萬噸の増産計畫は鐵礦資源の豊富する滿洲國の立場をますます重要ならしめた。

**滿洲重工業株式** 滿洲に於ける重工業事業の原動力としてこれが急進なる進捗の國策的使命を帯び日産資本を母體として、康徳四年十二月二十七日資本金四億五千萬圓(拂込三億九千六百七十五萬圓)を以て新京に設立された。  
鐵鋼業、輕金屬工業、自動車製造、航空機製造、石炭礦業を主要事業としその他金、鉛、鋅、銅その他資源の開發を行ふ。而してその傘下の子會社には昭和製鋼所を始め滿洲炭礦、滿洲探金、同和自動車、滿洲輕金屬工業、滿洲鉛礦、滿洲航空機、滿洲鑛山並に東邊開發會社を擁し、昭和康徳五年九月金額拂込を了した。政府、民間持株各四百五十萬株、民間拂込に對しては向ふ十ヶ年間一割配當を政府で保證することになつてゐる。康徳五年五月第一回株主總會を開催純益金一千六百五十萬圓の處分となす。中心事業を滿鐵より譲渡され幹部は

日産、滿鐵等より成る總裁鮎川義介氏。

**昭和製鋼所** 大正六年滿鐵の鐵礦年産百萬噸を目標に鞍山製鐵所の建設に着手したが、歐州大戦のため計畫遂行中止のやむなきに至り、貧鐵處理法の研究に没頭してゐたが、大正十年鞍山式磁化還元焙燒法を完成、十五年鐵業を開始昭和八年、株式會社昭和製鋼所の設立により鞍山製鐵所は買収合併され、昭和十年より滿鐵の鐵礦一貫作業を實現した昭和十二年全額拂込となり滿鐵の設立と同時に滿鐵より譲渡された。同十三年四月日滿製鋼事業一元化に傳ふ増産計畫に基き事業の擴大強化を計ることに決定八月倍額増産を斷行昭和十七年三月までに第六次増産計畫を完成する豫定であるが、所要資金は五億圓といはれてゐる。

現在の生活能力計七十七萬噸、鋼塊五十八萬噸、鋼材五十八萬噸、第五次増産計畫完成後の昭和十五年三月には計七十九萬噸、鋼塊百八萬噸、鋼材五十八萬噸、昭和十七年第三次増産計畫終了後は計九十四萬噸、鋼塊三百五十萬噸、鋼材二百萬噸となる豫定である。取締役會長鮎川義介、社長小日山直孝。

**本溪湖煤鐵公司** 明治四十三年五月(日清合辦)資本金二百萬圓で設立されて以來約三十年の歴史を有してゐる。昭和十年九月滿洲國政府は大倉喜七郎男との合辦經營に改組され、現在公稱資本金一千萬圓(全額拂込) 鐵礦鉄鐵十五萬噸(中約五萬噸低

燒鐵) 増産計畫完成後は鉄鐵五十五萬噸、鋼塊五十萬噸の生産能力を有することとなる。現在持株滿洲國四十六パーセント大倉六十六パーセント滿鐵との間に譲渡問題があつたが大倉側固執製鐵事業のアウトサイダー的立場にあつた。

**滿洲の鐵礦供給状況** 康徳五年度の鐵礦需要約百萬噸この内國內生産約四十萬噸、海外並に内地よりの輸入約六十萬噸なるも對外的には管理強化に上り一部分より輸入を見ず内地よりの輸入は殆んど杜絶の狀態である。従つて不急事業に對する配給は行はれず、専ら産業五箇年計畫遂行を期して國防建設事業方面に配給されてゐるが配給統制は日滿商事が行ひ同商事では昭和十二年九月から國內に於ける産産の潤滑を期して消費統制を行ひつゝある。なほ同商事の輸入する鋼材は十二年八月より輸入税を免除されてゐる。

**昭和製鋼所を繞る鐵鋼工業ブロック** 鞍山製鐵所、昭和九年鐵礦開發會社日本レール會社等の出資で鞍山に設立、新製鐵、一貫中製鋼材の製造を主とし原料年處理能力六萬噸、工場の大擴張も實現した、資本金五百萬圓、拂込百七十五萬圓、製品の販賣を日本鋼業が行つてゐるが鋼材配給統制で滿洲内は日滿商事の手に販賣を委ね、ばならぬ様になつて非常な苦境を嘗めた。  
○滿洲レール製作所 昭和十年七月大倉喜七郎氏、大谷竹太郎氏等の出資で鞍山に設立、鐵礦、鐵鋼に合

金銀各種ローム及び中級紙等その他種々な材料の製造を行つてゐる。昭和十二年十一月資本金五百萬圓を増加して現在一千萬圓金額に達してゐる。

○滿洲住友金業工業會社 昭和九年九月鞍山に設立、鋼管、瓦斯管を主製品とし、資本金一千萬圓、博多四百五十萬圓、青島和十三年開天礦山に對して工場を新設、同年九月下旬一部操業を開始したが、これに補償し鞍山工場を擴張、奉天工場を對稱所と呼稱するこゝとなつた。

○日滿鐵道工業會社 昭和九年四月奉天に東洋鋼材、昭和十年の資本で設立、工場を奉天鐵道に對して建設、用鋼材を主製品とするが、十三年初めには鋼材生産設備下に入れられその製品の販賣は日滿兩事が行ふ、資本金一千萬圓、博多六百十萬圓。

○滿洲鐵道株式會社 昭和十二年五月滿洲商會の出席で新設設立、工場を鞍山奉天に新設計画中で鞍山では洋釘、磁器引線、鑄造用物品等を製造、奉天では主として鋼管を材料とした金鋼鋼等の他、鑄造の豫定である、資本金五百萬圓、牛額博多。

○滿洲電氣會社 古河、住友、倉本等内地主要電氣會社の出席で昭和十二年三月奉天に設立、各種電機、電線、金鋼鋼及びその材料、附屬品の製造を目的として、十二年末操業の豫定、資本金五百萬圓、牛額博多。

○滿洲久保田鐵道會社 昭和十年十二月大連に設立、工場を鞍山に設け昭和十一年三月、附屬品の供給を受けて直營、製造物を製造する、資本金五百萬圓、全額博多、久保田鐵工所、大連鐵道株式會社の出資である。

○滿洲鐵道會社 鞍山鐵道株式會社として資本金五百萬圓で昭和十年五月鞍山に設立、同年九月鐵道の開始し、鋼管、瓦斯管、鋼線鋼材、生産能力十萬圓。

○日滿鐵道會社 昭和十一年四月資本金五百萬圓で創立、同年四月鐵道を開始し、瓦斯コンクリート、チユーブ

工業——金屬工業(重工業)

別に日滿鐵道を製造年七萬噸。

○滿洲鐵道會社 昭和八年五月資本金五百萬圓を以て創立、昭和九年四月鐵道開始、昭和十一年四月鐵道、丸釘、鋼管、鋼板の製造を行ひ現在の生産力四萬三千噸(外に鋼釘五千噸)で更に第三期増産計畫をすゝめてゐる。資本金五百萬圓(七十五萬圓博多)。

東邊道開採株式會社 東邊道に於ける鐵鑛石、石炭の採掘販賣並に純鐵及びその製品の製造販賣を行ふべく昭和十三年九月資本金三千圓を以て新設設立され滿洲の子會社として事業計畫をすゝめる筈であるが、大隈子溝七道江鐵鑛石等を中心とする鐵鑛石炭、錳の開採並に製鐵事業とすゝめる豫定。

撫順臨時製鐵試驗所 日下氏純鐵製造を目標に昭和十年設置されたもので滿鐵の管理下にある試験所として目下工業化の準備をすゝめてゐるが、既に刀鋸類の企業化に成功大體年度二萬噸の生産力を有し、將來約二十萬噸に増産すべく目下設備擴充計畫をすゝめてゐる。

製鐵事業 未だ試験、探礦期にあるが、有望區域として探出量三百萬噸といはれる、開陽省天寶山二百三十萬噸といはれる、錦州省楊家杖子等あり更に最近滿洲鐵山の發見せる青城子を中心とする約四百萬噸の鐵區等の開發の進捗に伴ひ日滿を通じての需要年約十萬噸(内滿洲一萬噸)中約八十八パーセ

ントの需要を海外に仰いでゐる現狀を打開しそのアウタルキー化に拍車をかけるものと期待される。

○滿洲鐵道株式會社 滿鐵株式會社に出資資本金四百萬圓を以て昭和十年六月設立、鞍山鐵道の子會社として現在の生産能力六十萬噸、將來は日産一千百噸の増産を行はんとしてゐる。

○天寶山鐵鑛株式會社 未だ事業着手に至らない、將來資本金七百萬圓を以て一年約六十萬噸の製鐵並に五千噸の鋼管を製造する計畫である。

滿洲鐵山會社 滿洲の子會社として昭和十三年二月資本金五千萬圓を以て新設に設立され、滿鐵、日本鐵業のスタツクを擁し鐵石炭を除く、金、銀、錳、亞鉛等の資源開發並に精鍊計畫をすゝめ、附近鳳城縣青城子を中心として約六百萬噸の含銀鉛亞鉛錳區を發見、探採に着手すると同時にこれか事業計畫をすゝめてゐる。

滿洲金屬製造會社 鑛土頁岩を原料とするアルミニウムを製造せんとするもので昭和八年滿鐵が撫順に臨時試驗工場を設置研究をすゝめてゐたが、同試驗を基礎として昭和十一年十一月資本金二千五百萬圓(六百二十五萬圓博多)を以て設立されたもので現在三千噸生産を目標として操業中で滿洲の成立と同時に滿鐵より譲渡されてものである。

南滿鐵業會社 大正七年四月資本金三百

萬圓を以て大石橋に創立現在資本金三百六十萬圓約五十萬圓を生産する。満洲のマグネサイトは極めて良質で殆んど世界的とされ、これ米への販路大いに開けつゝある現在、満洲よりの株式譲渡に關し滿洲と南滿洲業自體の間に紛糾を生じ解決困難な事態を惹起しつゝある。

**滿洲マグネシウム會社** 滿洲の子會社として六月資本金一千萬圓(三百五十萬圓拂込)で新京に創立菱石土を原料として金屬マグネシウムを製造する。年産一千噸の豫定で營口工場を建設中である。

**滿洲電氣化學工業會社** 滿洲國政府では康徳五年十月滿洲電氣化學工業株式會社法を公布し設立委員の任命並に委嘱、十五日創立總會を開催することとなつた。同社は政府二千萬圓、電業一千萬圓の共同出資(四分一拂込)により康徳八年下期に竣工する第二松花江水力發電所の餘剰電力を利用し國內に豊富に産する石灰、石灰、鹽等の原料を以てカーバイト系電氣化學工業の綜合開發に當りカーバイト製造事業を直營するほか、カーバイトを原料として人造ゴム、石灰、合成樹脂、アセトン、過酸化水素、アンモニウム等電氣化學工業品を製造する事業に對して投資を行ひ各事業相互間に有機的連繫ある企業組織を構成するものである。

機械器具工業

滿洲産業開發五箇年計畫發行上の基礎産業といふべき生産用具の製造を擔ふ機械器具工業は金屬工業と共に急速な發展を見つゝある、その主なものを見れば次の如くである。

**大連機械製作所** 日本車輛、進和商會、相生合名等の出資で大正八年大連に創立滿洲製鐵後進進をつげ現在資本金二千萬圓である。鑄造、鍛造、鐵道車輛、諸機械器具の製造を行ひ最近に於ける車輛の製造能力は機關車約五十輛、客車百五十輛、貨車約二千輛、農用トラクタ一三百臺の外精密機械の製造も行ひつゝある。

**大連製鐵會社** 昭和十二年八月大連汽船トック部を分離獨立せしめ資本金四百五十萬圓を以て創立されたもので車輛の製造を中心事業とし年産能力千五百輛、滿洲車輛會社 昭和十二年八月滿洲生會が五百萬圓を出資し奉天に設立されたもので生産能力各貨車約二百輛別に大連沙河口に増設工場を所有す、將來約一千五百輛に増産決定である。

**滿洲工廠** 昭和五年五月資本金百五十萬圓全額拂込を以て奉天に設立されたが二回の増資で十二年四月資本金一千萬圓拂込六百十萬圓となつた。野村合名その他の出資であるがその事業範圍鑄造、鍛造、鐵道用具その他各種機械、建築鐵材、鐵道用車輛等を製造、車輛能力は年數百輛とされる。

を製造、車輛能力は年數百輛とされる。滿鐵々進工場 大連沙河口に在り明治四十一年設立、機關車、車輛の製造修繕を行ふ滿洲最大の車輛工場である。

**滿洲機械工業公司** 滿洲工廠と池田鐵工所との折半出資で昭和十二年四月奉天に設立、資本金百萬圓半額拂込、機械器具の製造、金屬材料類の加工等精密機械工場として新登場。

**農機具會社** 最近滿洲農業開發用農機具の需要旺盛の爲め地場製造に進出するもの漸く輸出し昭和十二年三月鳥羽鐵工所の出資で資本金五萬圓四分の一拂込を以て「滿洲農機具製造會社」の設立を見、また同六月「滿洲農機具會社」が新たに資本金百萬圓拂込二十七萬圓を以て設立された、いづれも極力農機具の生産を行ふことになつてゐる。

**奉天造兵所** 舊奉天造兵廠を基礎に滿洲國三井、大倉の出資で昭和十一年七月資本金四百六十萬圓全額拂込で××××類製造を主とし、その他機械類の製造をも行ふ。

**滿洲通信機公司** 内地通信機製造業者の共同で昭和十一年十二月資本金百萬圓半額拂込を以て奉天に設立、通信機の製作を主とするが、十三年分約一千萬圓の需要に應ずるべく資本金四百萬圓の増資計畫中である。

滿洲計器公司 牛官平民會社、昭和十一年十月新京に設立、資本金二百萬圓半額拂込、度量衡器の製作並に專賣を行ふ。

年十月新京に設立、資本金二百萬圓半額拂込、度量衡器の製作並に專賣を行ふ。

**滿洲鐵器公司** 昭和十年十一月資本金三百萬圓半額拂込で奉天に設立、内地技術を以て汽機、汽鍋、内燃機及び發電機の製造を行ふ。

**同和自動車會社** 滿洲に於ける唯一の自動車會社として康徳元年三月二十二日資本金六百二十萬圓(拂込三百二十萬圓)を以て日滿合辦滿洲國特殊法人として奉天設立され五月營業を開始したが滿洲の成立と同時に同社の子會社としてその傘下に入つた、康徳三年度約二十一萬圓の純益をあげ今後需要の増加に社業の躍進が期待されてゐる。

窯業

**洋灰工業** 滿洲事業前の洋灰工業は二工場(大連小野田工場、本溪湖鐵道公司窯業工場)、年産能力八百餘萬の微々たる工業に過ぎなかつたが、本國後大規模の經濟開發が遂行されるに及んで急激な發展を辿り九十萬餘の能力を有するに至つた。併し乍ら工業五箇年計畫進捗による需要増加は到底供給し得ず内地よりの輸入また顯著なものがある。

工業—窯業

各社間で激甚な競争が行はれたが、内鮮セメント戰が終焉すると共に滿洲に於ても康徳四年三月滿洲セメント協會が成立して配給部門に於ける自治的統制を確立したが、支那事務變動後後々再検討され、再燃、日滿商事一手販賣案と共販賣會社案とが議題となつたが結局政府の協力の下に共販會社設立に決定し、在滿生産業者八社、販賣業者三菱、三井、淺野、大倉、福島の均等出資

洋灰會社一覽

會社名	所在地	設立年月	資本金	系	生産能力
關東州小野田セメント	大連	昭和九年	千圓	小野田	千圓
滿洲小野田洋灰股份有限公司	大連	昭和九年	千圓	小野田	千圓
哈爾濱洋灰股份有限公司	三棵樹	昭和九年	千圓	三井	千圓
大同洋灰股份有限公司	吉林	昭和九年	千圓	淺野	千圓
本溪湖セメント株式會社	本溪湖	昭和九年	千圓	大倉	千圓
滿洲洋灰股份有限公司	遼陽	昭和九年	千圓	淺野	千圓

以上は、現在工場は八工場で内邦人經營は大華窯業、奥野製陶所、滿洲製陶の三工場は著名であるので大華窯業は滿人向飯食陶磁器並に磚子年産能力四百五十萬圓を有し後者二工場は主として磚子の製造を行つてゐる。

**磚子製造** 現在工場數四十二、資本金

額九十五萬八千圓・九年度生産高九十二萬圓であるが、南滿洲硝子株式會社(資本金三十萬圓)、東京電氣株式會社大連工場(資本金三十九萬圓)の二工場を除けば他四十工場は資本額も微々たるもので、硝子乃至生薬地原料年々使用の管内工業的製造に止まり、生薬地原料使用工場は二三に過ぎない。十年度生産額は百五十萬圓に達した。

硝子製造 昌光硝子株式會社が専業としてゐる。大正十四年四月旭ガラス六分、滿鐵四分の割合で資本金三百萬圓(全額拂込済)を以て創立され逐年能力を擴張して年産能力現在八十萬箱(一箱百平方呎入り)に達してゐる。その製品は滿洲はもとより支那、南洋方面へ輸出されてゐるが、競争會社であつた北支那泰島島の米國系鹽業硝子(資本金百五十萬圓年産能力五十萬箱)の株式を昭和十一年末肩替りして支那市場確保に乗出すに到た。なほ滿洲國內需要に對しては、州内工場生産では不足を感ずるに至つたので、滿洲國法人にて昌光硝子(資本金三百萬圓)を昨秋創立し、奉天に工場を建設中なのも本年末迄には完成の豫定、この結果年産五十萬箱の能力増加となる。

石灰工業 産地近傍に管内工業的規模に生産されてゐるに過ぎず、工場工業として存在しない。

雜工業

煙草工業 元來滿洲の煙草需要は英米トラスト及び支那煙草會社に依つて供給されてゐたが、明治三十九年九月東亞煙草が滿洲に進出し爾來これ等三者間に激烈な競争が演ぜられ來たが東亞煙草が漸次に前者を駆逐し現在英米トラストと對抗の域に進出するに到つた。基礎の薄弱な支那煙草は競争場裡から脱落しその輸入數量は云ふに足らない。

滿洲國建設日滿合辦の滿洲煙草股份有限公司(資本金千二百萬圓、拂込資本三百萬圓)が設立され康徳三年十一月より新工場を運轉開始となつた。

而して支那事變を契機とする國際收支調整は貿易統制法、爲替管理の強化となり英米トラスト防遏を行ひつゝあり、國內産業

業五箇年計畫遂行に基き、需給の圓滑を圖るために一般民需を抑へ滿洲林業會社を中心とする一種のプール制を加味した統制を斷行することとなつた。

- 一、國內重要森林はなるべく領行所役の範圍に編入し原木供給に對する政府の統制を強化する。
二、一般業者に對する伐採許可に際しては許可量の六割を統制價格により滿洲林業會社に賣却せしむ。
三、官廳用材、移民用材、バルブ用材の如き大口の特種用材は統制價格により滿洲林業、中東森林、鴨綠江採木の三社をして優先的に配給せしむ。
四、滿鐵の保有用材は自家用のものを除きこれを滿洲林業に賣却せしむ。
五、製材等は許可制として製材料金に對し統制を加ふ。
六、伐採業者は製材業者を構成員とする地域別配給組合を結成せしめ、政府監督の下に公正價格維持並に配給の圓滑化を圖らしめる。

電氣瓦斯事業

總說 滿洲國の衛生と共に國內電氣事業も一大躍進を遂げるに至つたが、元來電氣事業は産業の開發並に文化の向上に重要な役割を有するのみならず、一般民衆の生活に對し密接なる關係を有する公益事業であるため、滿洲の特殊事情に即し日滿電氣事業の對立並にこれに伴ふ二重投資の弊を排撃して、全滿に亘り低廉豐富なる電力

供給を行ふに最も合理的形態を目標とし、事業を統制を圖ることの緊急事たることが認められ、次の如き經過を以て統制會社が設立された。

而して此合同に包括せられない各地群小電氣事業はこの合同會社よりの投資により統制せらるゝ事になつた。
なほ同統制會社に對する監督方針は大體次の如く定められてゐる。
(一) 本會社の監督に就ては日滿兩國官廳を通じて之を行ふこと。
(二) 日滿兩國政府は電氣事業取締のため可及的同一内容を有する電氣事業法其他の監督法令を發布することにより二重監督の弊無からしむること。
周波數統制 電氣事業の組織的經濟的統制工作と共に電氣周波數の統一は又事業統制の第一階梯として重要な問題であるとし、關東軍から滿洲電氣委員會に對して之が統一方針に對して諮問があり、同委員會では廣汎なる調査を完了し全滿電氣周波數は五〇サイクルに統制するを有利とすべしとの根本方針を具申したるを審議の結果次の如く決定した。

一、全滿電氣工作物の標準周波數を五〇サイクルとしなすこと。
二、將來電氣工作物施設については特殊の事由ある場合の外前記標準周波數に據らしむること。
(イ) 煤山、鞍山、本溪湖等の自家用發電設備に限り之を從來通りするも外部へ供給する電力は五〇サイクルとすること。

額九十五萬八千圓・九年度生産高九十二萬

工業—電氣瓦斯事業

(ロ) 現在五〇サイタルを採用し居らざる地方に於ては...

三、低電圧及高電圧配電設備... 現 狀 滿洲に於ける電氣事業は滿洲電業株式會社の創立以來...

一、特別高電圧配電設備... (ア) 二〇〇、〇〇〇V乃至六、〇〇〇V間に九種の...

全滿發電設備容量 (昭和十三年六月末) 企業種別 設備容量 百分比...

全滿電業需用狀況 (昭和十三年六月末) 企業種別 電力契約 電燈 電力...

Table with columns for location (大連, 奉天, etc.), equipment type, and capacity (KW).

(一) 總機設備より購入製鐵廠市街に供給する設備... (二) 送電設備 (昭和十三年六月末)...

Table with columns for location (大連, 奉天, etc.), equipment type, and capacity (KW).

工業—電氣瓦斯事業

### 地方別電燈需用狀況 (昭和十三年六月末)

區分	從前電燈數	需要電燈數	需要電燈數	需要電燈數
大連	2,140	2,140	2,140	2,140
奉天	2,100	2,100	2,100	2,100
天津	7,200	7,200	7,200	7,200
北京	2,385	2,385	2,385	2,385
漢口	4,750	4,750	4,750	4,750
濟南	2,700	2,700	2,700	2,700
青島	5,400	5,400	5,400	5,400
徐州	3,075	3,075	3,075	3,075
合計	37,000	37,000	37,000	37,000

### 電力需用狀況 (昭和十三年六月末)

電力別	需要口數	契約容量 (KW)
普通電力	8,933	3,300
特約電力	5,511	3,363
合計	14,444	6,663

(備考) 特約電力需用の業種別内容を示せば左表の如し。

業種	需要口數	契約容量 (KW)
電気事業者	2,140	1,000
紡績工業	1,000	500
金剛工業	1,000	500
機械器具工業	1,000	500
食品工業	1,000	500
雑工業	1,000	500
農業及水産業	1,000	500
其他	1,000	500

(六) 電力需用狀況 (昭和十三年六月末) 需要口數 契約容量 (KW) 8,933 3,300 5,511 3,363 14,444 6,663

(七) 工事概要 (昭和十三年六月末) 主要建設工事概要を左の如し。 一、發電設備關係(10,000KW未滿者略) (一) 阜新發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (二) 瀋陽發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (三) 遼河發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (四) 奉天發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (五) 大連發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (六) 鞍山發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (七) 本溪發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (八) 撫順發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (九) 營口發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (十) 錦州發電所新設 二七、〇〇〇KWターボ電機二機及汽機三機新設工事、目下進行中。 (十一) 遼寧省各地方電氣事業 遼寧省各地方電氣事業の推進に資するものとして、省立電氣事業の充実に努むるものとする。 (十二) 北滿鐵道電氣新設 北滿鐵道沿線の電氣事業の充実に努むるものとする。

(一) 奉天北二路電氣新設 奉天北二路電氣事業の充実に努むるものとする。 (二) 瀋陽電氣新設 瀋陽電氣事業の充実に努むるものとする。 (三) 漢口電氣新設 漢口電氣事業の充実に努むるものとする。 (四) 青島電氣新設 青島電氣事業の充実に努むるものとする。 (五) 徐州電氣新設 徐州電氣事業の充実に努むるものとする。 (六) 大連電氣新設 大連電氣事業の充実に努むるものとする。 (七) 奉天北二路電氣新設 奉天北二路電氣事業の充実に努むるものとする。 (八) 瀋陽電氣新設 瀋陽電氣事業の充実に努むるものとする。 (九) 漢口電氣新設 漢口電氣事業の充実に努むるものとする。 (十) 青島電氣新設 青島電氣事業の充実に努むるものとする。 (十一) 徐州電氣新設 徐州電氣事業の充実に努むるものとする。 (十二) 大連電氣新設 大連電氣事業の充実に努むるものとする。

(一) 奉天北二路電氣新設 奉天北二路電氣事業の充実に努むるものとする。 (二) 瀋陽電氣新設 瀋陽電氣事業の充実に努むるものとする。 (三) 漢口電氣新設 漢口電氣事業の充実に努むるものとする。 (四) 青島電氣新設 青島電氣事業の充実に努むるものとする。 (五) 徐州電氣新設 徐州電氣事業の充実に努むるものとする。 (六) 大連電氣新設 大連電氣事業の充実に努むるものとする。 (七) 奉天北二路電氣新設 奉天北二路電氣事業の充実に努むるものとする。 (八) 瀋陽電氣新設 瀋陽電氣事業の充実に努むるものとする。 (九) 漢口電氣新設 漢口電氣事業の充実に努むるものとする。 (十) 青島電氣新設 青島電氣事業の充実に努むるものとする。 (十一) 徐州電氣新設 徐州電氣事業の充実に努むるものとする。 (十二) 大連電氣新設 大連電氣事業の充実に努むるものとする。

### 關係會社投資一覽表 (昭和十三年六月末)

會社名	資本金	株式數	株式持
瓦房店電氣株式會社	100,000	10,000	100%
大石電氣株式會社	100,000	10,000	100%
遼陽電氣株式會社	100,000	10,000	100%
開原電氣株式會社	100,000	10,000	100%
大同電氣株式會社	100,000	10,000	100%
鄭家屯電氣株式會社	100,000	10,000	100%
敦化電氣株式會社	100,000	10,000	100%
延吉電氣株式會社	100,000	10,000	100%
北安電氣株式會社	100,000	10,000	100%
前郭電氣株式會社	100,000	10,000	100%
依蘭電氣株式會社	100,000	10,000	100%
滿洲里電氣株式會社	100,000	10,000	100%
山海關電氣株式會社	100,000	10,000	100%
西豐合同電氣株式會社	100,000	10,000	100%

投資概況 株式投資額は三百五十一萬三千八百六十五圓、貸付金投資額は六百七十八萬三千七百圓である。尙關係會社は左の通り。

瓦斯事業

概況 滿洲に瓦斯事業が開発されたのは後藤新平伯の計畫を嚆矢とし、明治四十三年三月滿鐵がその附帯事業として大連市入船町に於いて瓦斯製造を開始し、次いで鞍山、奉天、安東、新京にそれぞれ開始された。其後大正十四年滿鐵より分離し、現在の南滿洲瓦斯株式會社を創立となつて全滿の瓦斯事業に覇を唱へ來りし、昭和十二年末滿洲國に於ける治外法權撤廢及滿鐵附屬地行政權移讓に伴ひ滿洲國法人たる滿洲瓦斯株式會社が創立され、當社經營の新京、奉天、鞍山及安東各支店に於ける瓦斯事業に譲渡された。この他に撫順には撫順炭礦直營として明治四十二年から開設した工場がある。全般的に瓦斯事業は統制されてゐる。

予社礎を堅實ならしめ、又資産の減價償却に努められ、爾後十數年間に四百萬圓近くがこれに充當された、而して利益配當は分離以來、昭和十二年上半期まで五分、同下半期より一分減の四分、昭和七年下半期に至つて、増配し五分、更に九年上半期に六分、同下半期七分、同十年上半期八分と相次ぎ増配して社運の隆盛を誇つて現在に至つてゐる。

瓦新製造及供給狀況

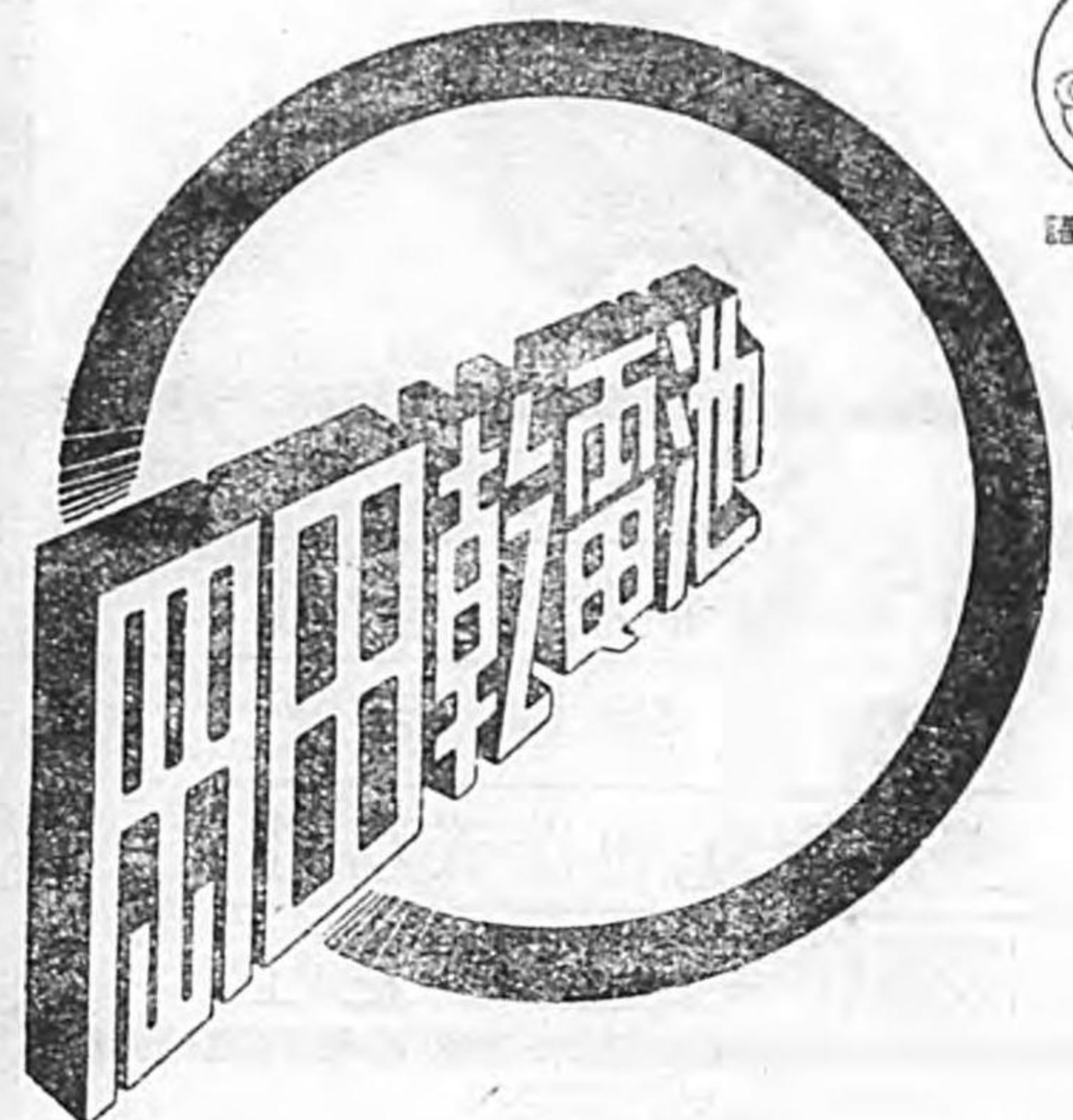
（昭和十二年度末現在）

管	業	所	瓦新製造	供給	貯蓄	備蓄	備蓄	備蓄
管	業	所	（立方尺）	（立方尺）	（立方尺）	（立方尺）	（立方尺）	（立方尺）
大連	昭和十二年	瓦新製造	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鞍山	昭和十二年	瓦新製造	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000
奉天	昭和十二年	瓦新製造	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
新京	昭和十二年	瓦新製造	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
安東	昭和十二年	瓦新製造	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
計	昭和十二年	瓦新製造	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000

内各地の事業發展を圖るべき使命に鑑み、従来の南滿洲瓦斯株式會社經營の新京、奉天、鞍山及安東各支店に於ける瓦斯事業を繼承する目的を以て昭和十二年十一月二十五日南滿洲瓦斯株式會社全株所有の日本國法人たる滿洲國法人設立され、同年十二月一日治外法權撤廢と共に滿洲國法人として存立されることとなり、康徳四年度下半期（康徳四年十一月二十五日より同五年二月二十八日迄）には二十五萬三千七百七十圓の利益を計上した。



諸官省指定工場



滿洲乾電池株式會社

滿洲・奉天市

岡田電氣商會

東京・品川

滑形パツキング



空圧制動用革パツキング



輪形パツキング



槽形パツキング



# 福 堀井商店工場

大連市西通り四八

店主 堀井 福之助

電話長  
振替大連二六三六番  
(2)(2) 六七三五番

東京、本所、濱野商會

大連工場



代理店

日本電氣株式會社

住友電線製造所

屋井乾電池株式會社

阪根金属商工株式會社

營業品目

電話機、交換機、無線機、其他一般通信機器

# 滿洲通信機

本社、奉天支店 大連 新京 出張所 哈爾濱



資本金參千萬圓



# 滿洲房產株式會社

## 營業種目

家屋建築資金と宅地購入資金の融通……金融部  
 宅地建物の賣買貸借及其仲介……管理部  
 貸家賃地の管理……管理部  
 建築設計と監督……技術部  
 宅地建物の鑑定……技術部  
 火災保險の取扱……管理部

本店 新京 大同大街

電話代表(2)五七一六番

支店 哈爾濱道外北三道街

電話道外二二六五番

支店 奉天 城內東華門外

電話(4)二四〇四番

創立 康德三年十月二十三日

資本金 國幣參百萬圓 (滿洲帝國特殊法人)

滿洲國政府特許、關東局特許



# 滿洲計器株式會社

度量衡器、計量器、製作修理賣買及附帶業務

本店 新京特別市豐樂路一〇五號

電話②四六八八

支店 大連市但馬町五拾七番地

電話二一四五〇〇

支店 奉天若松町四〇番地

電話三一七一九〇

支店 哈爾濱道外南馬路二道街二三

電話二〇三〇

理事長 黑岩直溫  
 常務理事 高橋文夫  
 常務理事 相生常三郎  
 理事 胡靖  
 理事 中川增藏  
 理事 王荆山

# 滿洲製麻株式會社

專務取締役 井上輝夫

支店 大連市日吉町一

支店 奉天末廣町四



# 復州鑛業株式會社

本社 奉天省復縣五湖嘴

出張所 大連市山縣通二東拓ビル内



# 滿洲國官吏消費組合

新京特別市興安大路二二〇號

大連市甘井屯



# 滿洲曹達株式會社

社長 西川 庸吉

電話 〔自四一九一八番  
至四一九一八番〕

新京特別市大同大街二〇七號



# 滿洲鑛業開發株式會社

電話代表團二五六一一

新京特別市豐樂路一〇二番



# 滿洲林業株式會社

理事長 田 榛 葉 可 省

營業課目

食料罐詰 洋酒 各種洋乳粉 各種洋菓子ビスケット 洋菓子原料 菓子糖餡料 砂糖水飴製茶 清酒醬油 乾物海産物 物酢

奉天千代田通



株式會社

小杉洋行

電話 〇三二  
一八七二  
三四一三  
八〇九〇  
八番番番番

奉天大和區若松町三十二番地

度量衡器  
測量製圖機

株式會社

水上洋行

電話 (3) 七四三一八番

主要製品

安全硝子、鋼硝子  
ローレックス硝子、硬質硝子  
建築用ブリズム硝子、照明用硝子  
カット・グラス、パイト・ド・ヴェール  
イワギ熔接眼鏡、航空用眼鏡  
寫真用クロス、フィルター  
鐵道信號用レンズ  
船舶信號用レンズ  
航空信號用レンズ  
投光機用反射鏡  
各種精密反射鏡

奉天市鐵西區北二路一



滿洲岩城硝子株式會社

電話 (三) 五一六二番

營業種類

鐵山及重工業用工作諸機械、器具  
車輛及線路用品、輸送及傳導裝置  
鋼製窓枠、其他鋼製建具類一式  
鐵骨橋梁設計製作建方工事請負

日滿鋼材工業株式會社

本社 奉天市加茂町二(三井ビル) 電話 二一六二二番  
工場 奉天市鐵西區南二路二一 電話代表 三六六一七番  
出張所(鞍山) 鞍山北二條五二番地 電話 二八三九番  
出張所(大連) 大連市山縣通一八一番地 三機工業株式會社内 電話 二一五七〇五番  
出張所(新京) 新京大和通三七番地 三機工業株式會社内 電話 三三三六六番  
出張所(撫順) 撫順西九條通一二 電話 二六四〇番

水性塗料 油煉固煉壁塗料

# アゾールガンマー

關西ペイント株式會社製品

アゾール  
カセイン  
ガンマー 壁塗料 滿洲代理店

## 武重商會

大連市伊勢町八七  
電話二五七五五番

KOYO PHOTO GRAPH STUDIO A.SATO.



### 光洋寫眞館

大連市浪速町三丁目 佐藤影良 電話(2)5982番



鞍山市製鐵工場地區  
株式會社 滿洲鑄鋼所  
電話代表團三一五一番



鞍山市製鐵工場地區  
株式會社 滿洲ロール製作所  
電話代表團三一六一番



鞍山市製鐵工場地區  
株式會社 滿洲亞鉛鍍  
電話代表團二五九二番



鞍山市製鐵工場地區  
株式會社 日滿鋼管  
電話代表團三〇五四番

業創年元化文



株式會社

清水

水組

本店

支店

出張所

名古屋市中川區西古渡町字八反田十八番地  
 京都市上京區下立賣通千本西入  
 大阪市西區土佐堀通二丁目二番地  
 福岡市社家町廿一番地  
 京城市表町二丁目十一番地  
 京城市特別市八島通二十一番地  
 東京市東區九胡同八號  
 東京市京橋區寶町二丁目一番地  
 電話 京橋(56) 代表 四一八一(番10)  
 一代表 五一八一(番10)

出張所  
 横濱 熱海 新潟 仙臺 札幌 金澤 神  
 戸 廣島 高松 吳 下關 小倉 長崎 熊  
 本 釜山 大連 奉天 鞍山 營口 牡丹  
 江 天津 濟南 青島 高雄 上海 石家莊

交通・通信



鐵道

滿洲の鐵道

沿 遼 約半世紀以前迄は未開未耕の邊境として近代社會から取殘されてゐた滿洲が、今日の如く國際的産業國家としての確固たる地歩を贏ち得た所以は一に鐵道を基礎とする交通經濟の發展に在る。顧みれば、鐵道こそは滿洲の産業をして世界的水準に押し上げたばかりでなく、各鐵道共に夫々負はされた宿命的な政治的使命が近世滿洲の外交史上に重要な役割を演じた、さて滿洲に鐵道が創設されたのは十九世紀の末期である。明治三十年(一八九七年)山海關を離れて途中に達した京奉鐵道外延長線(現奉天線)が即ち滿洲に於ける鐵道の先驅であり、次で翌三十一年五月起工の東清鐵道は同三十六年(一九〇三年)七月全線の本營業を開始し、更に同年秋關外延長線も新民迄開通するに及んで茲に滿洲の中樞部を

交通・通信——鐵道

貫く産業、文化開發の大動脈が形成せられた。滿洲鐵道史の開卷以來四十有餘年、當初二千八百軒に過ぎなかつた鐵道も現在八千五百餘軒に達し其の飛躍的發展振りは正に驚くべきものがある。其の發達過程は大體次の四期に分つことが出来る。

第一期 東清鐵道並に京奉鐵道の創業とその初期經營時代。  
 第二期 南滿洲鐵道株式會社の創設と其の後に於ける培養線建設時代。  
 第三期 支那側の利權回收並に自國資本及び技術に依る鐵道建設時代。  
 第四期 滿洲國成立以後の鐵道統一及新線建設時代。  
 滿洲に於ける鐵道發達の黎明期たる第一期は帝政露國の軍事的極東侵略機關としての東清鐵道と英國の經濟的滿洲進出機關としての京奉鐵道とが對立した。かくして此の二大鐵道は産業、文化の開拓を第二義とし政治的意圖の下に發足した結果、爾後の滿洲は常に鐵道を中心とする列強の抗争史

を織りなす宿命を荷せられた。殊に露國の東清鐵道に據る南下政策は領土的野心を現はすに至り遂に日露戰爭發生の直接動機となつたのである。

第二期は日露戰爭の結末として露國が東清鐵道南滿支線の一部即ち長春以南の鐵道を日本に譲渡した當時から、大正十三年(一九二四年)奉露協定成立前後に至る期間である。夫れは日露の既得權益に對して西歐列強が代有外交手段を弄して刺込を策した時代であり、反面日本の勢力扶植時代でもあつた。日本は明治四十年四月一日先づ滿鐵會社を創立して大陸政策遂行の基幹となし、英米の觸手を排除しつゝ、鋭意培養線完成に依る大陸進出の基礎建設に邁進した。他方東清鐵道は露國革命の餘波を受けて支那側の喰込む間隙を與へ、遂に奉露協定に依て一營利機關と化し露國勢力の落潮を兆すに至つた。  
 第三期に入ると滿洲は内外共に多事を極めた。歐洲大戰が驚らした弱小民族解放の思潮は大いに支那民衆を刺戟し遂て滿洲に於ける鐵道利權回收運動、自國資本及び技術に依る鐵道敷設となり、北には東支鐵道(舊東清鐵道)の回收に一步を進め、南に於ては滿鐵線包圍政策を採て其の去勢に狂奔した。當時舊東北交通委員會に於て樹立せ

東三省鐵道網五十五線一萬五千五百餘年計... 昭和三十二年度末現在總局員數は次の如し。

Table with 3 columns: 社別 (Company Type), 日人 (Japanese Staff), 滿人 (Manchurian Staff), 計 (Total). Rows include 北支 (North China), 支支 (South China), 支支 (South China), 支支 (South China).

現況 鐵道總局創立當時の滿洲國國有

鐵道は十九線二、九六八・五軒(昭和八年三月末日現在で引續後改正せり)であつた... 昭和三十二年九月一日

私設鐵道營業線

七線適合計 八七六軒三

七線適合計 八七六軒三

七線適合計 八七六軒三

昭和三十二年九月一日... 昭和三十二年九月一日

鐵道總局

滿洲國政府は舊東北政權管下の鐵道並に... 昭和三十二年九月一日

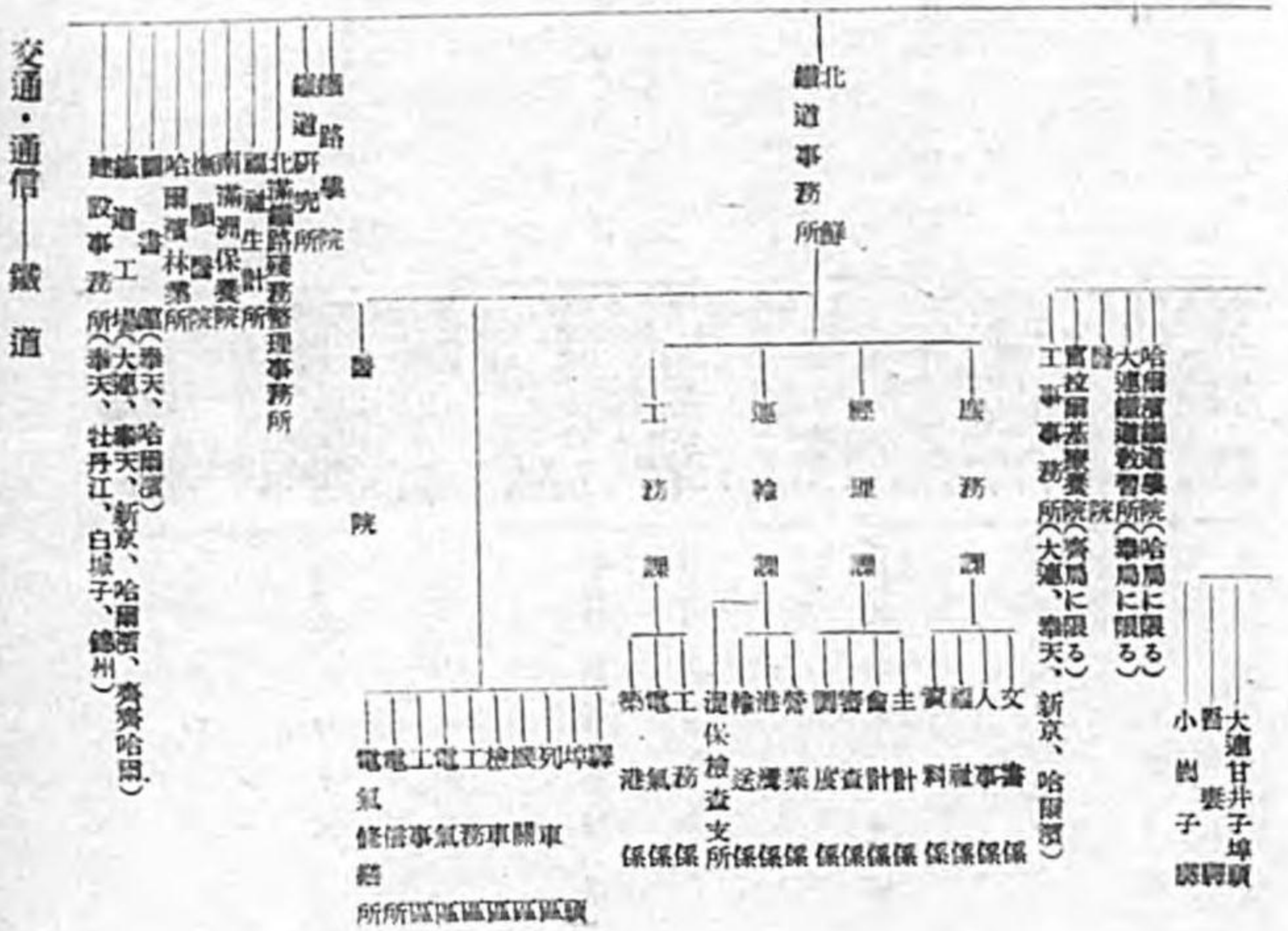
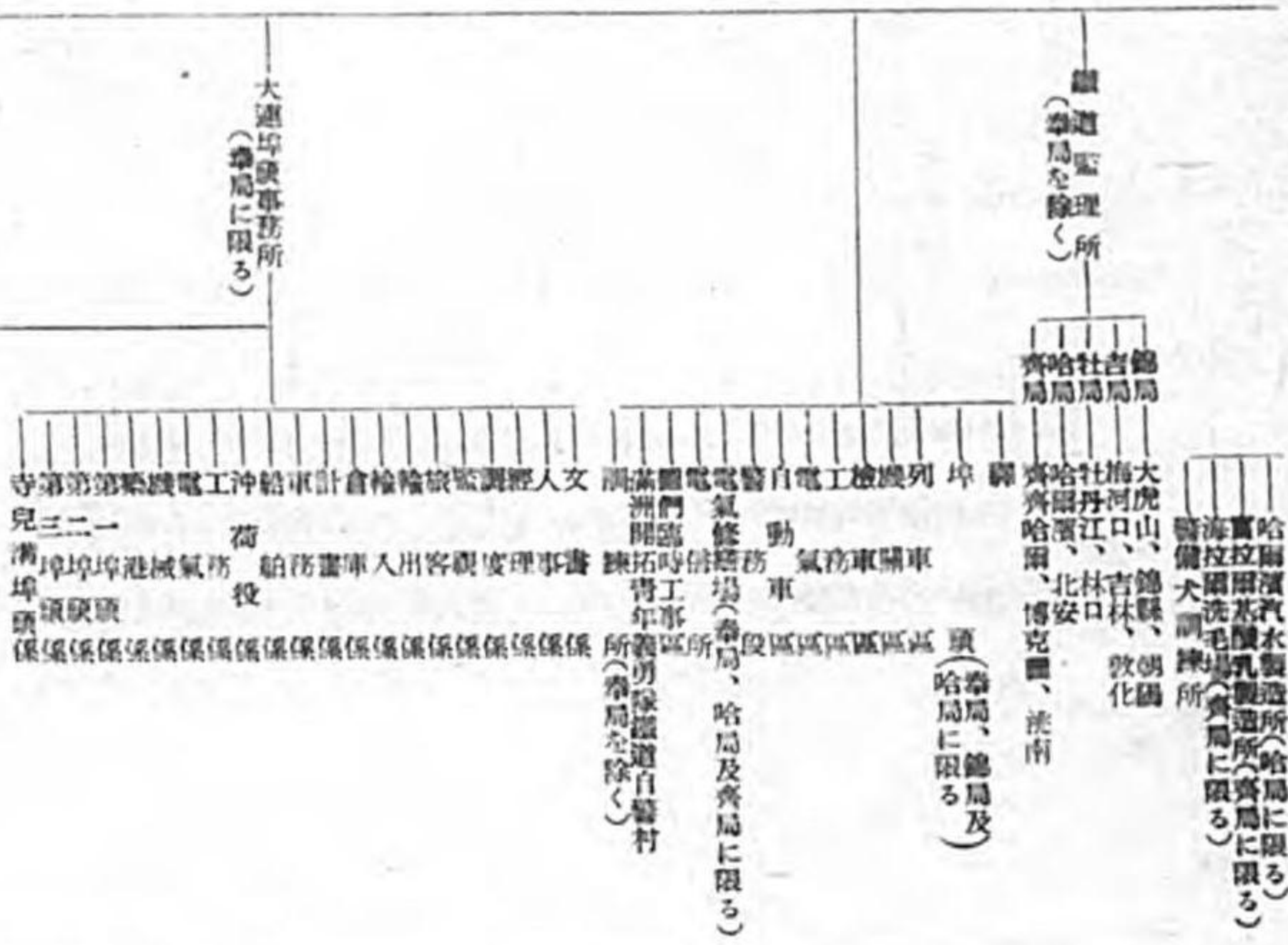
總局所管各線一覽

Table listing railway lines and stations. Columns include line names (e.g., 奉天, 安東, 遼陽) and station names (e.g., 奉天, 安東, 遼陽).

鐵道總局管轄區域及營業軒程

Table showing administrative regions and operating mileage. Columns include region names (e.g., 奉天, 安東, 遼陽) and mileage figures.





鐵道建設

鐵道建設局は鐵道と共に港灣建設にも鋭意努力してゐるが新線工事概況は次の通りである。(港灣建設は別項記載)

Table with columns for railway lines (線名), route (區間), and notes (備考). It lists lines like 敦化、開河、拉哈、牡丹江 and provides construction status details.

Table with columns for railway lines (線名), route (區間), and notes (備考). It lists lines like 牡丹江、拉哈、開河 and provides construction status details.





港灣建設

羅津港 羅津港は北鮮線の終端をなす天然の良港で北滿の吞吐港をなし、日滿連絡最捷ルートの要衝である。滿洲建國後日滿連絡幹線たる京圖線と北鮮鐵道とが接続するに及び(昭和七年八月)滿鐵は本港を正式に終端港と決定したが、之より前同七年五月一日附拓務大臣の指令によつて滿鐵が羅津の築港をなすことに正式決定を見、滿鐵は該港の準備計畫を終るや同八年四月羅津建設事務所を大連に設けて着手し、其の後同事務所を羅津に移して本格的に工事を進め同十一年度迄に殆ど全部を完了し、翌十二年度に第三埠頭其他築港工事全部を完成した。

鐵道建設 羅津港建設に附隨して建設された。北鮮鐵道終端羅津港と羅津港とを結ぶ鐵道で、昭和七年七月先づ開工予定を行ひ、同年八月實測を開始し軌道工事は同九年九月着手翌十年八月完了、一切の附屬施設完成は同年十二月二十日である。同年十一月一日營業開始と同時に北鮮鐵道管理局(現北鮮鐵道事務所)に引續がれた。  
遼東港 渤海灣内に於ける不凍港として日つ水産、風向、氣温其他に於て良港たるべき條件を具備してゐたので、遼東北政

權は抗日鐵道三大幹線の終端港として之を選び、昭和五年一月北東鐵路局長と和蘭築港會社との間に工事契約が成立、米貨六四〇萬弗を以て同年四月から五箇年計畫の下に着手せるも、一年餘にして滿洲事變勃發のため工事は放棄された。其後奉天鐵路局と和蘭築港會社との間に賠償金問題解決し契約解除となつたので滿鐵が工事を請負ひ昭和九、十年年度を通じ事業費五十萬圓を投じて改良施設を竣じ(同十一年五月末日)十二年五月開港したが、之より前既設備を利用する一般船舶にのみ九年六月一日より出入を許可した。

營業狀態

鐵道總局の鐵道運輸收入狀態は逐年異常の好調を擧げつつあるが、社總に於て見ると滿鐵創業の初年度たる明治四十年度の總收入僅か九、七七〇千圓も十年後の大正六年度には其の約三倍半、更に十年後の昭和二年年度には約十倍半の一、三二、二四〇千圓に激増した。昭和五年の世界經濟恐慌、支那側の排日政策等の諸國は社總の興隆氣勢を挫いたが、滿洲事變に因り情勢一變し滿鐵の鐵道營業を正常の軌道に乗せ、事業年度たる昭和六年度を悲運の底とし前後急カーブを描きつつ、激増歩調を辿り昭和十二年

度總收入は創業年度の十六倍弱即ち一億五千萬圓を突破する創業以來の最高記録を現出した。國線も亦建國以來鐵道本來の使命に立ち滿洲産業の開發に飛躍的推進力を示し總局創立以來僅々五年後の昭和十二年度には其の總收入に於て社總を凌駕するの著増を來した。北鮮線も北鮮三港灣の充實に滿洲に於ける背後地鐵道の發達に伴ひ著々發展を示しつつある。

旅客關係 總局は開業以來銳意旅客運輸の改善に努め、過渡的沈滞狀態に在つた各鐵路の營業狀態も事變後の沿線治安の恢復、總局運用機構の整備に伴ひ逐日好轉し來つた。即ち鐵道運送の必須條件に基き車輛設備の改良、運輸速度の増大、旅客待遇の向上、列車運轉ダイヤの合理化等に努力した結果之等諸點に於ては優秀なる外國鐵道に比するも遜色なきのみならず寧ろ優越せる地位にまで向上發達した。  
昭和九年四月鐵路旅客及手小荷物運送規程を制定して取敢へず滿鐵を同一經營主體とする全滿及北鮮の鐵道プロック内の全面的直通運送取扱を實施した。社總、國線の連絡運轉に就ては總局創立前早くも奉天、齊齊哈爾間直通列車運轉を開始(昭和七年十二月)、次で奉天、吉林間直通運轉(同八年十一月)を實施、更に北鐵接收後實施の

高麗線がシ變更に依て特急あしあを大連・哈爾濱間に直通運轉(同十年九月)せしめた。このほか長距離旅客の便の爲に朝鮮鐵道局との協定に依り釜山・新京間及び釜山・奉天間直通急行列車を運轉し、一方滿洲事變以來付屬してゐた、北支との聯絡運轉も同九年六月山海關に設定された東方旅行社に依て復活し、其翌月より奉天・北平間直通旅客列車の運轉並手小荷物の直通取扱を行ひ、北鮮鐵路運送に關し十一年十月からは京圖線經由新京、清津間急行列車運轉も開始された。又地方的旅客の爲には區間列車の増設、輕油動車、重油動車を運轉してゐる。

交通・通信—鐵道

總局所管鐵道は歐亞を繋ぐ世界交通の一幹線に當るので歐亞聯絡、日中聯絡、日滿聯絡等國際連絡旅客運輸に協力し來り、朝鮮鐵道局線、鐵道省線、臺灣總督府交通局線、金福線等の諸鐵道線及び大阪商船、大連汽船、近海郵船、朝鮮郵船、北日本汽船、日本海汽船等の間に連絡旅客の取扱を實施した。日滿國際連絡運送は九年八月から開始、又同年十一月より社總經由總局線と大連汽船の上海、天津、臺灣三航路連絡の三線連絡運送も開始された。十年三月北鐵に日滿連絡旅客及手小荷物運輸に關して北鐵

- 加のため奉天・天津間直通列車も一往復運轉のこと(十月二十一日)
- △日本政府計畫滿洲農業移民に對する旅客手荷物運賃割引(十一月一日)
- △日滿移民團體協会の見地より設計畫の滿洲甲種農業移民者對其の家裏に對して旅客運賃割引を行ふもの(會社鐵道運送規程改正(十一月十八日))
- △會社鐵道運送規程旅客運送規程、同取扱手續制定(十三年一月一日)
- △從來社總各別に制定しありしを(北鮮線は朝鮮鐵道運送規程)左の方針に基き之を統一す。  
一、地方的法令との調和。二、他國鐵道間との協調。三、既存制度の尊重。四、取扱上の改善其他。
- △昭和十二年一月一日以降の附屬地行政權移讓後に於ける對策、郵便物運送協定改正其他。
- △內務省滿洲旅客運送取扱手續制定(十三年一月一日)
- △滿鐵所管鐵道旅客及荷物運送規程同取扱手續制定(同日)
- △公務旅客取扱手續制定(同日)
- △滿鐵所管鐵道營業規程、假營業規程、自動車運送規程同取扱手續制定(同日)
- △從來社總新規程には客貨直通運送を社、國、新線自動車線間には新聞紙雜誌の直通運送を實施し來つたが最近自動車運送の向上に伴ひ自動車線利用旅客が著しく増え、其の便宜を圖り併せて與進産業、文化の開發に資すべく本規程を制定。
- △附屬地四九四一〇、列車の奉天・天津間運送規程(十二年十二月二十七日)
- △年末臨時列車(鮮滿直通)運轉及營業。
- △奉天及五龍間運送規程引致復業車運送手續制定し從來區別のものを統一す。

交通・通信—鐵道

△支那事變に因る邦人避難者の支那復讐に對し會社所管管内運賃割引實施。  
 △シベリヤ經由歐亞旅客及手小荷物運賃特種規則制定(四月一日)  
 △日滿旅客及手小荷物運賃特種規定取扱手續制定(四月一日)  
 △滿鐵所管線及北支那鐵路管理局管線間旅客及手小荷物運賃特種規定取扱手續制定(四月一日)  
 △支那事變後支那各省、遼寧省所及各省管内所に於て鐵路船舶又は聯合自動車(朝鮮及南滿州を除く)乗車船の旅客に對し乘車船券を發賣する場合、一定の通行費を徴すること、なりたるに依るものにして之に對する取扱手續を制定。  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月一日)  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月十日)  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月十日)  
 △支那事變後支那各省、遼寧省所及各省管内所に於て鐵路船舶又は聯合自動車(朝鮮及南滿州を除く)乗車船の旅客に對し乘車船券を發賣する場合、一定の通行費を徴すること、なりたるに依るものにして之に對する取扱手續を制定。  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月一日)  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月十日)  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月十日)

社 線	旅 客	
	輸送人員	客車收入
國 線	二,五七,八六八 三,六八,六八八	(客車收入) 三,三三,三三三 三,三三,三三三 三,三三,三三三 三,三三,三三三
北 線	二,五七,八六八 三,六八,六八八	(客車收入) 三,三三,三三三 三,三三,三三三 三,三三,三三三 三,三三,三三三
鮮 線	二,五七,八六八 三,六八,六八八	(客車收入) 三,三三,三三三 三,三三,三三三 三,三三,三三三 三,三三,三三三
昭和八年年度	八,八八,八八八	一,二二,二二二
昭和九年年度	一,一三,一三三	一,一三,一三三
昭和十年年度	一,一三,一三三	一,一三,一三三
昭和十一年度	一,一三,一三三	一,一三,一三三
昭和十二年度	一,一三,一三三	一,一三,一三三

し昭和十二年度には貨物取扱輸送数量約二五、三〇千噸貨車收入一、二五、五六〇千圓に達し飛躍的發展を遂げた。  
 十三年度に入つても産業五箇年計畫に伴ふ國內賦存の重要資源の開發促進、支那事變の進展に伴ふ軍事工業の躍進、或は重工業の發達、日滿經濟プロック強化を目標とする滿洲重要物產の出貨繁忙、滿鐵貿易協定の好材料等の諸因に依り、輸送貨物は激増し、建設新線による背後地擴大、奥地人口の増加及治安確立は益々前途の好調を示してゐる。  
 總局實施の主要事項を簡れば昭和九年四月一日から鐵路總局運送規程を制定し、省線其他主要聯絡運輸機關との間に本格的聯絡運送を開始した。其他鐵路總局としては混合保管制度を採用し、又鐵路總局倉庫營業規定を制定した。尙貨物運賃率に於ては、總局開設當時の四地帶制を三地帶制に改正した後、更に遠距離運賃の強化と、與地開設特定運賃率の制定を斷行した。昭和十一年十月一日鐵道總局の設立に依り茲に全滿鐵道の一元制運賃が實現せられた。十三年一月には客貨運送規程の改正を行ひ、更に同年十月より全滿鐵道一元經營の成果を收め又臨時產業開發國策の轉に當り、全滿開拓鐵道として新使命の遂行を開始すべく、内

外情勢に適應する調期的な運賃改正を斷行した。

社 線	貨 物
國 線	輸送数量
北 線	輸送数量
鮮 線	輸送数量
昭和八年年度	八,八八,八八八
昭和九年年度	一,一三,一三三
昭和十年年度	一,一三,一三三
昭和十一年度	一,一三,一三三
昭和十二年度	一,一三,一三三

貨物取扱數量を以て之に對する取扱手續を制定。  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月一日)  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月十日)  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月十日)  
 △支那事變後支那各省、遼寧省所及各省管内所に於て鐵路船舶又は聯合自動車(朝鮮及南滿州を除く)乗車船の旅客に對し乘車船券を發賣する場合、一定の通行費を徴すること、なりたるに依るものにして之に對する取扱手續を制定。  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月一日)  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月十日)  
 △古北口經由滿支間旅客及手小荷物運賃特種規定實施(四月十日)

事務所を置いたこともあつた。昭和十一年十月鐵道一元化の實現に依り總局に新設せられた旅館課が全直營旅館並に其附屬業務一切を統轄し、食車車業務は旅客課に譲られたのである。旅館課所管の社國線旅館は次の如くで、此の内、筑紫館は十二年十二月、旅順ヤマトホテルは十三年三月廢止され、新たに牡丹江ヤマトホテルは同年十二月、麗津ヤマトホテルは十四年春夫々開業の豫定である。尚ほ關ホテルは旅客課の所管に屬してゐる。  
 昭和十二年度

社 線	旅 館 課 業 績				
社 名	宿泊客人員	食事客數	餐會客數	旅館收入	同支出
大連ヤマトホテル	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇
旅順ヤマトホテル	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇
奉天ヤマトホテル	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇
新京ヤマトホテル	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇
五道	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇
北 線	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇
國 線	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇
前年	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇
本年	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇
合計	三,一三三	二,八三三	三,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇

交通・通信—鐵道







時代であつた。

滿洲は世界屈指の養蜂適地なるを以て昭和十三年春より全滿第一の蜂害生産地たる吉林鐵道局管内をはじめ牡丹江、哈爾濱、齊齊哈爾局管内の獎勵對象に蜜蜂の配布を開始した。

養蜂は滿洲農家經營組織中に有機的に包含せられてゐるが冬季寒氣に對する豫防対策と飼料問題及病疫對策等の不備のため未だ振はざるも錦州鐵道局管は相當好成績を挙げつゝあり吉林局管内も有望視されてゐる。養蜂は哈爾濱局に從業員副業養蜂組合へ設立され、養豚は錦州、哈爾濱兩局從業員間に普及されつゝある。此の外、運根、扇浦(干鰯の原料)、草毒、炸燵其他各種副業獎勵が進められてゐる。

土地に市街經營 總局所管の土地面積は次表の如くで、之等の土地の經營如何は鐵道沿線の開發に至大の影響を及ぼすものであるから深く之を考慮し、總局自體の事業及諸官衙に關する特殊用地を除き他の事業及諸官衙に關する特殊用地を除き他の餘剩土地は確實な事業の經營者、住宅建設者等に對して最も公平な貸付料徴收方針の下に貸付てゐる。

鐵道局別所管土地面積

(昭和十三年三月末日現在)

錦州鐵道局	八六、九六五、七六一
吉林鐵道局	三八、二六九、九七九
哈爾濱鐵道局	三八、九二七、一六二
齊齊哈爾鐵道局	七六、四七六、一六四
牡丹江鐵道局	三七〇、〇一六、四六七
奉天鐵道局	二〇、九八四、二六七
(元鐵道局所管用地)	七三一、六三九、八〇〇

此の外に  
北滿より移住  
地方部より移住  
計  
一、二九一、八〇五、六二一  
となつてゐる。

市街施設に於ては治安の恢復と鐵道新線の建設に伴ひ國內各地に續々建設される新興市街地及び既設市街地の内鐵道用地に對しては總局に於て夫々關係官衙と協同し道路、水道、公園、橋梁、護岸等の施設を計畫實行中である。

厚生施設

滿鐵厚生施設の目的は日滿從事員に對し和衷協同相互扶助の精神を涵養し更に環境風土に順應する生活に資するに在つて、社、團、寮には慰安列車、自動車路には慰安自動車、松花江、黑龍江岸には慰安船を毎年一回巡回し、又巡映、巡演を實施し浴場、ラヂオを配置し、僻地無聊の社員居住者

鐵道愛護施設

鐵道愛護團 鐵道愛護團(烏魯木齊)を昭和十三年一月一日改稱)は鐵道總局附屬局愛護課の管掌に屬してゐる。總局は初め國

有鐵道の受託經營に當り附隨的に行使し得べき警察權執行のため舊鐵路滿人警務從事員の引繼を受け總局に鐵道警務局を置いてゐるが、同十二年十二月三十一日を以て之を解消し、其所管業務の中鐵道愛護課及び鐵道自警村に關する事項を除く一般鐵道警察業務を擧げて滿洲國政府に移管し治安部管下に新たに鐵道警務總隊が設置された。

併して愛護團の鐵道警備に關してのみは

愛護團現況一覽表 (昭和十三年七月末現在)

局別	所管線別	愛護團員數		愛護團少年團員數	
		總數	團員數	總數	團員數
奉天	自働車線	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
錦州	自働車線	一、八六六	一、八六六	一、八六六	一、八六六
吉林	自働車線	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
哈爾濱	自働車線	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
齊齊哈爾	自働車線	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
牡丹江	自働車線	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
奉天	自働車線	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
計		九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇

關東軍司令官の實質的統制を受け、團員の教育、社會施設其他特に定むる以外の一般行政的事項は滿洲國行政機關の指導に委ねることとなつた。鐵道總局は愛護團に對して鐵道愛護思想の普及宣傳其他愛護團の宣傳工作、鐵道保守の爲の技術的教育、或は鐵道愛護工作として特に必要な産業上の福利増進の諸工作に専任することとなつた。尙ほ愛護團の設定區域は線路兩側各五軒の地帯にある村落と規定されてゐる。

鐵道自警村 日本政府の移民國策に順應し所管鐵道沿線に於ける治安維持と産業開發の目的の下に昭和十年四月六月に互り駐滿軍隊除隊兵或は内地農村より人員を選抜採用して第一期鐵道自警村を設置した。其後第二期(十一年度)第三期(十二年度)の自警村設置を見たが、總局警務機構の滿洲國

移管に依り治安維持に關する指導は日滿軍警及び鐵道警務總隊が之に當り、自警村員は總局附屬局産業課の所管下に鐵道警備に關する傍ら其の家族と共に農耕牧畜に従事し鐵道永遠の護衛を築きつゝある。自警村設立の趣旨は邦人集團農業移民を鐵道沿線に配置し我が對滿國策に順應すると共に併

省の委嘱による財團法人滿洲移住協會が全  
國より十六歳より二十歳迄の少年を募集し  
先づ同協會經營の訓練所(在茨城縣)に於て  
約三箇月間の訓練を修了したるものにして  
て、滿鐵經營の本訓練所に入所する外に滿  
洲拓殖公社經營の青年義勇隊に入所せしむ  
るものもある。

本訓練所員に對しては農業教練の指導員  
をして鐵道警備訓練、軍事訓練、武道、建  
築、農耕、牧畜等に至る訓練を施すが、之  
等所員にして其の課程を修了し兵役に服し  
たる者は除隊後鐵道自警村に入れしむるか  
或は自由移民、集團移民としての道を與へ  
る本訓練所の現状左の如し。

Table with 2 columns: 鐵道局別 (Railway Station by Station) and 訓練所名 (Training Center Name). Rows include 瀋陽、長春、哈爾濱, etc.

滿洲に於ける私設鐵道は昭和十年九月四

日公布の私設鐵道法に依て統制せられて  
るが、滿洲國政府では同年十一月交通部令  
を以て私設鐵道法施行規則を公布、更に私  
設鐵道補助法並に同法施行規則を勅令第二  
六七號を以て昭和十二年九月二日公布し  
た。滿洲國に於て私設鐵道法に依り新たに  
特許せられたるものは鴨北鐵道、東滿洲鐵道  
の二線で、従来より存続の鐵道は穆稜鐵道、  
鶴立鐵道、開原鐵道及び哈爾濱濱洲鐵道の  
四線である。また關東州には金福鐵道があ  
る、尚ほ漢城鐵道(本溪湖—牛心寨間二四  
軒、軌幅二呎六時の輕便鐵道にして大正三  
年二月開通)は滿鐵が買収が上標準軌條に  
改築を竣し昭和十三年九月一日假營業を  
開始した。又、穆稜鐵道(六一・五軒)も滿鐵  
が漢城線と同時に受託經營を開始した。



穆稜鐵道 濱線小坡子驛より分岐して  
梨樹鎮に至る鐵道で現在(昭和十三年十一  
月)滿鐵の受託經營鐵道である。一九二四  
年春露交合辦穆稜炭礦會社(資本金六〇〇  
萬圓、露商スキデルスキーと吉林省との合  
辦)の手に依り鐵道敷設工事に着手、翌一  
九二五年三月竣工した。本線は一二六年前  
り一般客貨の輸送取扱を開始し逐年客貨の  
増加を見今日に至った。  
開原鐵道 舊名開拓鐵道、開原から西豊  
に至る六三軒七、軌幅一米の輕便鐵道で滿  
洲國商開拓火車公司の經營に係り大正十五  
年五月營業を開始し現在相當の業績を擧げ  
てゐる。  
鶴立鐵道 本鐵道は松花江の下流佳木斯  
の對岸蘆花口を基點とし、鶴立鎮を経て所  
謂鶴崗炭礦の所在地たる興山鎮に至る延長  
五五軒六の探炭鐵道であるが、外に約十二



軒の引込線がある。經營主體は鶴立炭礦公  
司(資本金三百萬元)で敷設費は百二十萬元  
であつたといふ。敷設工事着手は一九二六  
年夏期にして、同年十一月竣工運輸を開始  
した軌幅は五呎であるが、これは敷設材料  
及び車輛等を北鐵より購入したためであ  
る。なほ本線は運炭を目的としその専用線  
として敷設せられたものであるが、一般客  
貨の輸送をも取扱つてゐる。なほ鶴立炭礦  
公司の資本金のうち八五パーセント迄は滿  
洲建國前までは廣信公司及吳俊陞の所有  
となつてゐたが、建國後廣信公司持株は中  
國銀行、吳俊陞の持株は政府のそれの  
所有となつたので、現在では大體滿洲國政  
府の手に收まつた形である。年約二十萬噸  
の石炭を輸送してゐる。

Table with 2 columns: 昭和三十二年度損益計算書 (Income Statement for 1937). Rows include 營業收入 (Operating Income), 營業費用 (Operating Expenses), 營業利益 (Operating Profit), etc.

Table with 2 columns: 昭和三十二年度損益計算書 (Income Statement for 1937). Rows include 營業收入 (Operating Income), 營業費用 (Operating Expenses), 營業利益 (Operating Profit), etc.



間を等しし一線数十軒より百軒餘に及べるものがあつた。其他の滿洲森林の開發事業は吉林を中心とする松花江流域、開島方面及牡丹江流域に於て廣く行はれ日本企業者の進出せるもの少からず、其の投資數千萬圓を超過したと謂はれるが、之等は支那式釋放の集材事業に終始し且つ支那官廳の壓迫に依り森林鐵道の敷設を見ず又其事業も失敗に歸した。併し滿洲事變以後は國有鐵道の建設と共に森林開發事業は俄かに活況を呈し、森林鐵道の新設されたもの二五〇軒を超へる有様であつた。

森林鐵道一覽表 (昭和十三年)

Table with 3 columns: 分岐又は接続點, 路線, 軒程. Lists railway lines and their lengths in kilometers.

自動車

Table with 4 columns: 概説, 路線, 軒程, 備考. Lists automobile routes and statistics.

の増加を見るに至つたが、業者の資力不足と免許取捨規則の不備に起因し、十數人の業者が數臺の車輛を以て同一路線で競争營業を行ふなど、業績額に振はず加之に昭和六年滿洲事變の勃發により大多數は營業を停止してしまつた。然るに滿洲國建國後は治安の急進的恢復と地方道路の新設並に改修の進捗及び政府の積極的整備擴充によつて事變前とは比較の出來ぬ急激な發達を遂げ、滿洲國政府は大同二年五月三十一日敕令第四十三號により交通部をして自動車運輸事業の監視統制を主管せしむると共に、國策的見地から重要路線は國營線に指定し、國有鐵道の滿鐵委任經營に伴ひ附帶事業として齊しく滿鐵の經營下に置き、爾來滿鐵は鐵道總局をして經營に當らしめてゐる。

一、國有鐵道に代るべき幹線、假令國有鐵道に併行又は並走する路線、國有鐵道指定に當る路線、その他國策上必要とする路線はこれを國營とし、その他の路線を民有とする。

鐵道總局自動車營業

滿洲國政府は前項の理由から國防、産業開發上の重要幹線たるべき國營線の自動車營業を悉く滿鐵に委託し、尙既往に於ける世界各國の鐵道と自動車との競争の弊に鑑み委託經營に影響を及ぼすべき自動車路線は又之を國營路線として國有鐵道との兼營

國營自動車線路 (康徳五年八月末現在)

Table with 3 columns: 區, 路線, 軒程. Lists national automobile routes and their lengths.

交通・通信—自動車

を爲さしむる方針を採つたのである。斯くて滿鐵鐵道總局では從來營業局に置かれてゐた自動車課を、獨立して自動車局に改め、各鐵道局には從前通り自動車係を存置し之が運管に當つてゐる。尙ほ從來の自動車營業所は廢止となつた。

鐵道局別自動車路線

Table with 4 columns: 所屬局名, 路線, 軒程, 備考. Lists routes by railway bureau.

交通·通信—自動車

Table with multiple columns listing locations and their corresponding values. Includes entries like 大石橋, 通化, 通化, 通化, etc., with values such as 130.0, 130.0, 130.0, etc.

Table titled '自動車營業收支 (單位元)' showing financial data for various locations. Includes entries like 伊通, 雙陽, 錦州, etc., with values such as 70.0, 70.0, 70.0, etc.

交通·通信—自動車

Table showing financial data for various locations. Includes entries like 伊通, 雙陽, 錦州, etc., with values such as 130.0, 130.0, 130.0, etc.

Table titled '自動車旅客送人員 (單位人)' showing passenger data for various locations. Includes entries like 伊通, 雙陽, 錦州, etc., with values such as 130.0, 130.0, 130.0, etc.

交通・通信——自動車

Table showing the number of motor vehicles (自動車の台数) from 1912 to 1925. It includes columns for year (年度別), type (種類), and total count (合計).

民營自動車運轉事業一覽表

Table listing private motor vehicle operations (民營自動車運轉事業一覽表) with columns for company name (公司名), route (運轉區間), and start date (特許期日 運行開始日).

前記の如く從來開設した自動車路線中には鐵道開通によつて不必要となつたものも相當あり、その都度運行を休止してあるが概ね開拓的意義と治安確保の意義を併有してゐる關係上、犠牲的に運行し交通量からみて採算のとれぬものも少なくない、又道路氣候等の不良に起因して車輛の壽命も短く加之経費は人件費も物件費も日本内地の二倍以上を要し、更に整備費も加はつて當分收支のバランスをとれないが、治安の確保と産業開發の進展に伴ひ業績も漸次向上し

滿洲國民營自動車

滿洲國民營自動車は主として地方的連絡の交通機關として營業されてゐるものであるが、康徳五年八月末現在滿洲國交通部の特許を得て營業中のものは次の如く、總延長實に六、九二二、二三軒に達し、康徳四年度に於ける業績をみるに旅客七二、八二一、三八八人収入五、九九六、八四六圓に上つてゐる。

Table listing specific motor vehicle routes and companies in Manchuria (滿洲國民營自動車), including route names and company names.

交通・通信——自動車

Table listing motor vehicle routes and companies in the northern region (北長途汽車公司等), including route names and company names.

Table listing motor vehicle routes and companies in the southern region (哈爾濱交通株式會社, 哈爾濱商協和長途汽車公司等), including route names and company names.



船舶旅客数 (康徳四年度)

船名	乗客人員	乗客人員
...	...	...

北滿洲川貨物運搬量 (康徳四年度)

品名	数量	品名	数量
...	...	...	...

本運路... 滿洲省廳前の松花江水運(當時松花江以外に汽船航路を見ず)の營業狀態は官民業者抗争を續け其の經營は亂れを極めてゐたが、滿洲國成立後官營水運機關は擧げて國有となり、哈爾濱航政局及江防艦隊の他は盡く鐵路總局に移管せられ、昭

南滿の水運

遼河 西安縣に源を發する遼河及び興安嶺支脈の左麓に源を發する西遼河より成り、兩河は三河口上流に合して遼河の本流となる。可航水路は支流を合して約一、〇一五哩で、中流以下及び支流は南滿の平野地帯を貫流しその流域は三十五萬方里に達する。舟便は本流の營口、鄭家屯間及び支流の太子河に於ける鄭家屯子一三雙河間、同じく渾河の長蘆三双河子である。結氷期日十二月三十一日、同終日三月十六日、結氷期間七十六日である。

鴨綠江 長白山の南麓に源を發し七百九十軒の長流をなしてゐる。河底に急勾配の箇所が多く岩礁が多いため激流をなす部分が多分にあり加ふるに、秋の減水に航行は非常に不便であるが、急峻な地域を利用して上流碧蘆には滿鮮合辦で鴨綠江水力發電會社が康徳四年七月資本金一億圓を以て設立された。

鴨綠江は峽流の性質があり、水流不良である上、毎年冬季十二月から翌年三月まづ四箇月は結氷し、その間海路貿易及び船舶の出入が杜絶する。解氷の前夜から、の出入が盛んになるが、夏季七、八月は洪水の虞れが、秋十一月は凌

交通・通信—水運

航業聯合會加入船舶数は次の如し。(昭和十三年九月現在)

船種	汽船	駁船	計
...	...	...	...

交通・通信—海運

あつて、一年の過半は水運利用の途が少いのである。因に、河川工事官署として行はれ、下流域、江口域では制水堤が築造され、安東には滿鐵會社の護岸施設がある。安東より江口に至る滿洲國側江岸は安東の港をなしてゐるが潮流干満の影響を受ける上に水深浅く船舶の往來には不便な點が多い。その結果安東の貿易は多く陸上貿易で海路貿易は營口にも劣る状態である。かゝる不便を補ふため多額島間三八軒を結ぶ多額島鐵道會社が王子系資本を以て昭和十年七月創立された。

海運

概説 滿洲に於ける海運の歴史は相當に古く、渤海灣の沿岸航路に終始した時代と、遼河口の營口を中心として英國系統の海運力が活躍した時代もあつたが、日露戰役の結果、滿鐵が大連港の經營に當り爾後施設の完備は近代港大連の出現となり大連港中心の海運市場が結成された。海岸線の貧弱な滿洲では良港少く、海運市場も大連、安東、營口の南滿三港と滿洲國の建國後急速に發達した北鮮三港の四つに大別し得るが安東、營口は既に中心的海運市場とは云ひ難く、北鮮三港また未完成港であり且つ背後地との輸送關係が敏速とは云ひ難

く、結局滿洲に於ける海運市場王座は依然大連によつて占められてゐると云へよう。なほ以上において判る如く、滿洲國を自體においては領土面積廣大なるに比し海岸線尠弱なるため良港なく、僅に營口、安東の二港に止めを刺すが、これがため海運を發達せしめ貿易を伸張するため滿洲國經濟建設網要に於て左の如き政策を明示してゐる。(イ) 我國經濟開發を促進し生産増進と海港を最も經濟的に擴張するため我國海港の外、滿洲國の海港を有効に利用す。(ロ) 營口、安東の兩港に所要の改修を加ふ。(ハ) 遼東島の建設工事は將來經濟上の要求切實を加ふる時に完成す。(ニ) 海運は重要なり近海航路の充實を圖り外洋航路に付てもなるべく速にその發展を期す。而して産業五箇年計畫遂行に基く建設資材の輸入と開發に伴ふ一般消費資材の増増は大連埠頭を稀有の混亂と化せしめ、その打開策は各方面より研究されつつあるが、切實なる問題としては北鮮三港の活用南滿諸港の利用が採り上げられつつある。

滿洲國置籍船

(昭和五年七月現在(二十噸以上))  
所管別  
安東 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數  
哈爾濱 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數  
營口 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數  
安東 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數

關東州置籍船一覽

Table with 2 columns: Ship Name (船名), Tonnage (噸數). Lists various ships and their capacities.

海運市場 滿洲の海運市場は大連港が代表的なものであるが、結局は阪神市場に左右される傾向が強い。而して大連市場の中心となるものは石炭、大豆、豆粕、豆油の大連—阪神、大連—京濱、大連—上海の近海輸送と大連—歐洲の遠洋輸送の二つである。

昭和十二年度は世界海運界一般の好調と日本海運界の特殊のブームに依つて期初より運賃強調を持し來たが、下半期支那事變勃發によつて記録的高値を示したので、當市場も數年來の繁榮を呈し、大連—瀋陽間石炭運賃は五圓五十錢の高値を實現するに

大連港積出運賃累年表

Table showing freight rates for various goods (e.g., coal, soybeans) from 1917 to 1937. Columns include year (年), month (月), and rate (最高, 最低).

大連港

概説 東洋一の設備を有する大連港も三十餘年前は青泥窪(タルニー)と稱する一漁村に過ぎなかつた。大連港が大連と稱されたのは明治二十五年李鴻章が柳屯に砲臺及棧橋を築造し水雷營を置いた時で、同二十七年五月調印になる露支間の旅順、大連灣租借に依つて露國はこれを支那より租借して經營する事となつたが、明治三十八年九月ポーツマス條約により日本が露國より租借權を繼承するに及んで、滿鐵が鐵道と共に經營、爾後三十年に互に改増築を重ね今日に至つてゐる。滿鐵が經營を引受けながら大連港への投資額は僅に九千萬圓を突破して一億圓に垂々とするもので、施設の完備は東洋一とすら稱せられて來た。なほ對岸甘井子には石炭積込みのため専用の埠頭が築造されてあるが、ここからはその他鐵鐵、疏安滿洲輸出物資の輸出も行はれてゐる。

各港との距離

Table showing distances between ports: 小樽 (125km), 横濱 (1,135km), 神戶 (1,235km), 長崎 (1,702km).

交通・通信—海運



交通・通信—海運

Table of shipping routes and companies. Includes destinations like 高麗仁川 (Korea Incheon), 朝鮮長崎 (Korea Nagasaki), 大連 (Dalian), and shipping companies like 朝鮮郵船 (Korean Mail Ship) and 阿波商船 (Awa Merchant Ship).

國別輸出入貨物累年表 (最近五年)

Table showing annual foreign trade statistics from 1928 to 1932. Columns include year (昭和十二年 to 昭和八年), trade type (輸出, 輸入), and various commodity categories like 日方 (Japanese), 滿洲及中國 (Manchuria and China), 歐洲 (Europe), etc.

輸出入貨物累年表 (昭和六年以前)

Table showing historical foreign trade statistics from 1931 to 1932. Columns include year (昭和十二年 to 昭和六年), trade type (輸出, 輸入), and commodity categories like 大豆 (Soybeans), 棉花 (Cotton), 石油 (Petroleum), etc.

大連港輸入主要貨物別騰数

Table of major import goods to Dalian port. Columns include year (昭和十二年 to 昭和八年), commodity names (大豆, 棉花, etc.), and quantities.

著埠船舶國籍別隻數及噸數年別 (最近四箇年)

Table of ship statistics by port and nationality. Columns include year (昭和十二年 to 昭和八年), nationality (日本, 中國, 其他), and ship count/tonnage.

大連埠頭乘船人員年別

Table of annual passenger statistics for Dalian pier. Columns include year (昭和十二年 to 昭和八年) and nationality (日本人, 中國人, 其他).

大連埠頭上陸人員年別

Table of annual landings at Dalian pier. Columns include year (昭和十二年 to 昭和八年) and nationality (日本人, 中國人, 其他).

交通・通信—海運

旅順港

Text describing the history and current status of Lüshun Port, mentioning its strategic importance and development over time.

輸出入貨物累年表

Table of annual foreign trade statistics for the port. Columns include year (昭和十二年 to 昭和八年) and trade type (輸出, 輸入).

安東港

Text describing the development and strategic importance of Andong Port, particularly its connection to the Bohai Sea and the Yellow Sea.



朝鮮沿岸、日本との商取引密接なるも水深と水路の變化は運航を阻碍して、大體航行汽船は吃水十呎を限度としてゐる。従つて本港に入埠する汽船は満潮時に於ては七、八百呎限度で、三浦浪頭では一千二、三百呎更に大なるものは門白若くは多脚島に碇泊する。朝鮮總督府では鴨綠江航行に對し左の告示を出し注意してゐる。

本航路を航行せんとする船舶の吃水、左に掲ぐるものを超へざるを可とする。  
(一) 安東港に至る間 高潮時 十呎  
(二) 龍岩港 同 十三呎  
(三) 第三浮標より多脚島 同 十五呎  
(四) 大東港 同 十六呎  
なほ安東航務局が滿洲國港務行政を掌つてゐる。

港務設備 安東港出入船に對する施設は概ね新義州側、即ち朝鮮總督府で行はれてゐる。鎮地は朝鮮側は新義州、龍岩浦、莊島、多脚島の四箇所、滿洲側は安東、三浦浪頭、大東港の三箇所、安東港は江岸に護岸工事を施して之に棧橋を架設、滿鐵の經營となつてゐる。

各港との距離

Table with 2 columns: Port Name (e.g., 上海, 天津, 漢口) and Distance (e.g., 1,000, 1,200).

安東港主要輸出入貨物数量

Table showing cargo statistics for Anandong Port from 1918 to 1922, categorized by year and type of goods.

概説 營口港は一八六一年英國領事館開設、一八六四年海關の設置等あり、一九二二年の輸出入貨物数量は前年度對比増進あり。

各港との距離

Table with 2 columns: Port Name (e.g., 大連, 安東, 龍岩) and Distance (e.g., 1,500, 1,800).

輸出入貨物量年表 (最近七箇年)

Table showing annual cargo volume statistics from 1915 to 1922, with columns for year and volume.

著洋船國別年表

Table showing foreign ship statistics by country (Japan, Korea, etc.) from 1915 to 1922.

北鮮三港

概況 北鮮には雄基、清津の既成港と新に築港の羅津港の三港があり、昭和八年九月京圖線の開通、北鮮鐵道と連絡、東滿、北滿に於ける新線の開通等によりこれ等三港は裏日本諸港との日滿最捷路として開拓され、滿洲五箇年計畫遂行に基く輸入貨物の激増、東邊道の開發に従ひ、その將來は曠目され、北鮮三港を中心とする海運界の發達は大いに期待されてゐる。今後の北鮮三港を中心とする海運界は活況を呈するものと見られる。

日本各港との距離

Table showing distances from various Japanese ports (e.g., 出先港, 津浦線) to Anandong.

なほ羅津港を經由して北滿ハルビンより東京への距離を示せば左の如く大連經由より一、二六五軒、浦鹽經由より二四九軒、北鮮港の方が近距離にある。  
東京—下關—大連—哈爾濱 三、二〇八・九軒  
東京—敦賀—浦鹽—哈爾濱 二、一九四・八軒  
東京—新島—羅津—哈爾濱 一、九四六・二軒

北鮮の配船關係

Table detailing shipping routes and companies for the three ports of North Korea, including destinations like 雄基, 大連, and 清津.

〇五年大連港が日本の租借地となり商港として活動する迄は南滿唯一の貿易港として發展したが、爾來大連港の羅進に壓倒され發展遅々たるものがあつたが、最近は大連港船渠に再び重要視されんとしてゐる。汽船碇泊區域は延長約一三、五〇〇米なるも汽船碇泊可能埠頭の延長は僅に四、四八六米に過ぎず、他は戎克船の碇泊場である。港内の河端は平均七百五十米で滿鐵埠頭附近は約五百六十米である。水深二十呎乃至三十九呎で最深時は五十呎乃至七十九呎である。港務行政は滿洲國營口航務局がある。埠頭設備 大小三十有餘の埠頭を有するも設備に於て見るべきもの少く、滿鐵埠頭にその優なるを認めるのみで、外商所有埠頭は外商取引不振から昔日の面影がなし。

交通・通信—海運

新設、北鮮線、羅津、清津、新羅津、...

羅津港主要輸出入貨物

羅津港 明治四十一年開港されたもの...

羅津港主要輸出入貨物

水産加工品、石炭、...

羅津港主要輸出入貨物

石炭、食糧、...

臺灣島港 臺灣島は錦縣の南端にある、...

臺灣島港主要輸出入貨物

五穀、其他雜穀、...

普蘭店港 遼東半島のXに位し渤海の...

臺灣島港主要輸出入貨物

交通・通信—道路

滿洲國の道路 建設方針 滿洲の道路は都市相互間を連...

は土木科に於て施行せしめてゐる。
國道網の現況 國道網は第一期建設五箇年計畫に於ては八、九九二、三軒の竣工を見約二十箇所の特殊橋梁の架設を完成し、第二期建設五箇年計畫の初年度たる康徳四年度の實績は特殊道路の建設六九六、五軒、第一種道路一、四七二、一軒、特殊橋梁十

國道建設功績工事費並延長

Table with columns for year (年), amount (額), and length (延長). Rows include 大正、康徳、昭和 years.

地方道路 國道建設を國道局に委ねた政府は國道が國防上に重要性を有すると同様一般地方道路の産業經濟文化の發達に必要なるに鑑み、民政部土木司を設置しその

完備に當らしめた。

大回元年以來民政部は二回に亘り各縣内の既存道路に付て調査報告せしめた所、一六二縣中報告提出縣は一二五縣であつた、此の調査に依り八米以上の幅員を有するもの二七、四三三軒八米以下のもの九、一三九軒合計三六、六二二軒、橋梁六二七渡船場一二五を指示したが此等の道路は頗る委せて管理保全を爲さず道路が殆ど盛土等を爲さぬため平地との大差がなく所謂惡路であつて降雨期等には道路の用をなさず卑劣雨水の通路となつてゐるものが多く、自動車通行可能な道路は殆ど皆無と云つて良い位である。

此の調査に基き地方道路網改良計畫を樹立して康徳二年度より國內主要道路の改良に着手した。

此の計畫は將來國道として認められるべき重要性を有するものと省、縣公署所在地間を通ずるものと、縣公署所在地より各鐵道主要線に通ずるもの等より約二萬軒を選定してこれを改修を行ふ事、全國主要道路中約三萬軒の道路維持並に右道路の各橋梁に對する改修維持道路補助金に基き新設乃至は根本的改修橋梁の新設等に盡力して来た此の地方道路工事に於ては地方住民殊に沿道

民の援助無視すべからざるものがあるもので本部に於ては道路愛護思想の普及に力め街村保甲長をして進んで賦役工事に服する様奨励し道路行政の完備を期すると共に地方産業經濟の振興、文化の向上に資せんとするものである。

斯くて康徳二年國務院總務廳に東邊道復興委員設置され安東、奉天、通化に夫々辦事處を設け復興事業の一として土木事業が擧げられたが、此れは積年冷水害に伴ふ農産物の不作、匪禍に伴ふ破弊困憊の極に達した舊東邊道十六縣の農村を窮乏より救ひ民心の歸趨を明にし、農民大衆の更生を圖り以て農村復興の基礎を築き一は王道の慈光を全地に遍からしめ他は新國家の權威と實力を徹底せしめんとする主旨に基くものであつた。尙事業執行の主體は専ら縣公署が當りその實績は左の通りである。

東邊道土木復興道路工事總括表

Table with columns for province (省), road type (道路), amount (額), and length (延長). Rows include 奉天, 吉林, 遼寧, etc.

地方道路の現況 各省は土木建設土木科をして國道の培養線となり且産業の開發に必要な一般地方道路の新設維持改良に主

力を注ぐと共に地方民への道路愛護思想普及に力め道路の保全改良のため賦役に當ら

地方道路橋梁新設維持改良延長

Table with columns for year (年), amount (額), and length (延長). Rows include 大正、康徳 years.

移民道路の建設 日本人農業の大量移民計畫の實現に伴ひ、集團移民地より地方中心地又は地方主要道路に連絡する交通施設

既設移民道路延長及工費

(康徳五年中竣功確定のものを含む)

Table with columns for year (年), amount (額), and length (延長). Rows include 康徳、昭和 years.

省別竣工路線一覽

Table with columns for province (省), road type (別), amount (額), and length (延長). Rows include 奉天, 吉林, 遼寧, etc.

しめた結果地方の主要道路は著しく改善され惡道轉じて良道となつた。康徳四年度迄

地方道路橋梁新設維持改良延長

Table with columns for year (年), amount (額), and length (延長). Rows include 康徳、昭和 years.

として道路の建設整備は必要不可欠なる故を以て移民道路の完備に當り、移民道路五年計畫を樹立し、康徳四年度より之が施

既設移民道路延長及工費

(康徳五年中竣功確定のものを含む)

Table with columns for year (年), amount (額), and length (延長). Rows include 康徳、昭和 years.

省別竣工路線一覽

Table with columns for province (省), road type (別), amount (額), and length (延長). Rows include 奉天, 吉林, 遼寧, etc.

**滿洲道路の特殊性** 滿洲の従来の道路は極めて劣悪であることは支那本土同様であるが、水路の便にすることが割に少なく陸路によるものが多いため、中央の平原を通ずるものは相當の幅員をもち、奉天から山海關を経て北平に達する官路などは道幅百丈を有してゐた。然し官路は普通六米、大路は四米平均でその他の小路では道幅五、六呎を超えるものは極めて少なかった。しかも清朝も三百年の平和に慣れて政務の廢頹を來すに至っては、道路の保全修理は全く顧みられず荒廢のまゝに捨ておかれた。なほこれは滿洲に於ける道路の特殊性にもよるのである。即ち滿洲では年々十一月から翌年の三月ころに至る約五箇月間は全地凍結し到る處自然の道路を形成し、且つその土質は主として粘土又は微砂土より成る關係上、夏季殊に雨期には路上の泥土車輪を没し、乾燥期に至れば所謂黃塵萬丈の實狀であり馬車の交通は頗る困難である。且つ河川には殆ど橋梁の架設なく益々この困難を倍加してゐる。このほか滿洲に於ける馬車は大部分農夫が自己の車輛及び馬匹を使用し冬期の農閑期を利用するため、必ずしも一年を通じて車馬を通車せしむる如き良路の必要なこと、夏季農作物繁茂期に於ける交通の危險、滿洲在來馬の耐熱性に乏しいこと等を挙げ得る。

かく支那に於ける道路は古來軍用を主として發達し、近世に至るに及び漸く各開港場又は鐵道を中心として産業道路が發達しつゝあるが、滿洲は由來邊陲の地に位し産業の發達が遅かりしため産業道路の必要も充分認められず、滿洲國の成立に至るまで經濟交通開發を目指す本格的道路建設は絶えてなかつたのである。

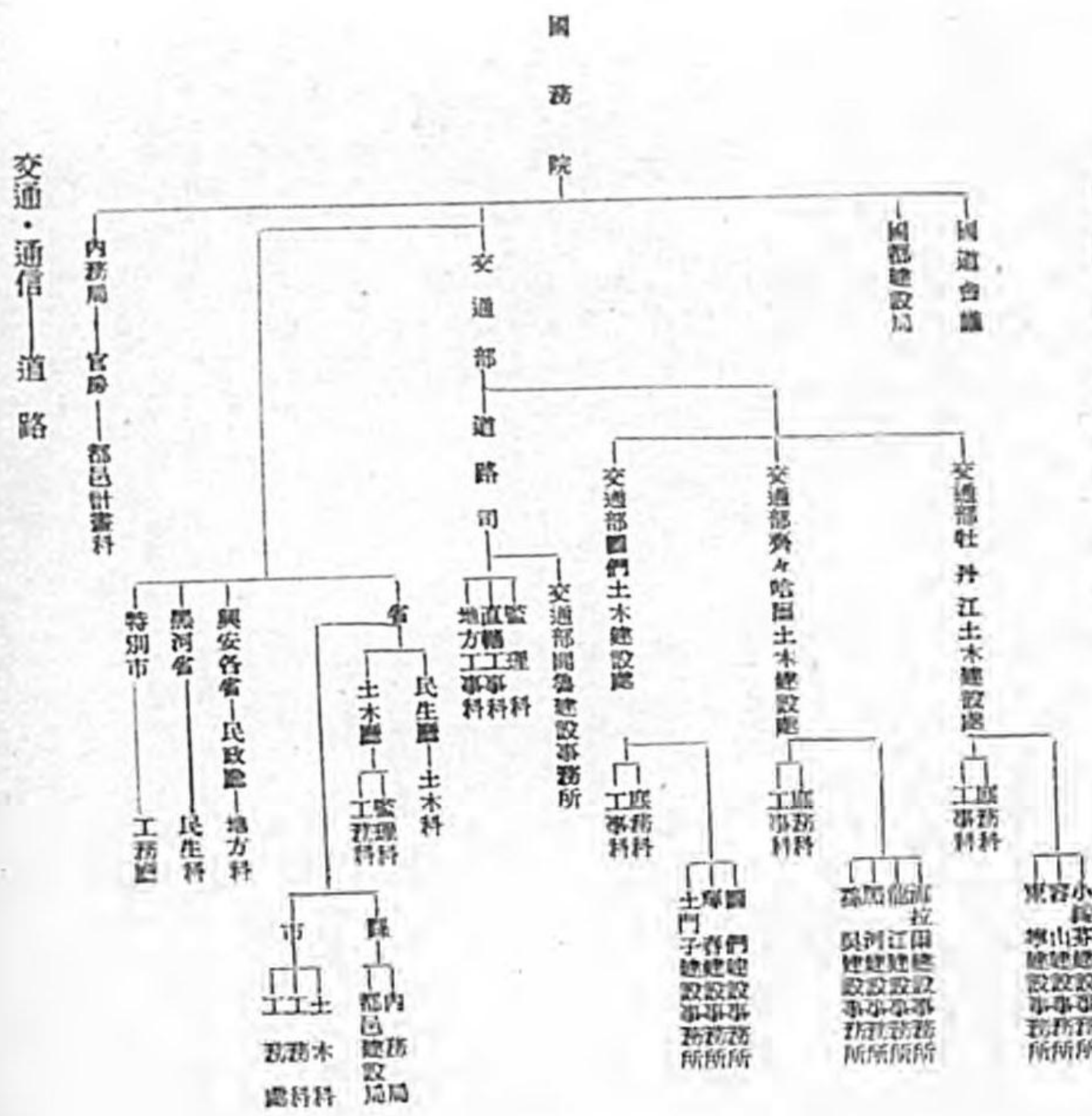
**滿洲國の道路行政**

組織 建國後道路行政機關として國務總理大臣管理の下に國道局が設けられて國の直轄する道路の建設に當り民政部大臣の下に土木司が設置されて一般土木行政を主管し道路に付ては地方一般道路の建設並に監督を掌ることとなつた。國道局に於ては所謂國道、主として軍用道路の建設に當り新京、奉天、齊々哈爾濱、哈爾濱に夫々建設處を設け更に建設の下に建設事務所を設けて事業の執行を圖り、民政部土木司に於ては一般地方道路の工事の監督並に執行を爲し各省民政廳に土木科を、新京、哈爾濱特別市には工務處を市には土木科を更に縣には内務局に工務段を設けて工事の執行を爲すと共に、都邑土木に付ては民政部土木司都邑科の立案に成る都邑計畫案に基き主要都

市に都邑計畫事業として都邑内の道路を新設し國都新京には國都建設局設けられたが都建設區域内の道路の築造を爲し來つたが康德四年一月一日土木行政機關の改革に伴ひ民政部大臣の監視の下に土木局設置せられ國道局及土木司が爰に統一合併し我國の土木行政は統制せられ、直轄工事執行の爲齊々哈爾濱、牡丹江、圖們の三箇所に建設處を設け、其下に建設事務所が設けられた。此れと同時に奉天、吉林兩省公署に、六月には瀋江省に土木廳が設けられ更に七月一日には中央行政機關の改革に依り土木行政は都邑計畫關係を除き舉げて交通部の所管する所となつた結果、鐵道、道路、河川、港灣、水運等に關する事項は交通部大臣の主管となり、道路行政、交通行政は統一せられて陸上交通行政の圓滿なる運営が期し得られることとなつた。此の他道路行政機關としては國務院に國道會議があり國の直轄する道路に關する重要なる事項に付審議し且國務總理大臣に建設することが出来る。

都邑計畫事業に基き都邑内の道路に付ては内務局に設けられた都邑計畫科の監督指導の下に都邑計畫法に依り指定された都邑内の直轄の建設を執行してゐる。此れを圖示すれば左表の通りである。

道路行政機構一覽表



**國道の種類構造** 國道は自動車道の構造に依りて之を一等國道、二等國道及び三等國道の三種に分つ。一、二等國道は馬車道、自動車道を區別し、特に必要を認めざる場合は適當なる施設を爲し兩者を併用する。三等國道は馬車道自動車道を區別せず、主として在來路面に用る河川湖地の渡且其他車馬の通行に必要なく可からざる程度の施設を爲す。一等道路は主として國都より主要都市又は海港に達する路線で國道上特に必要な路線等にして道路幅七米、犬走二・五公尺、用地幅二六米、二等道路は主として主要都市相互間を連絡する路線、主要都市より主要縣城又は鐵道驛所在地に達する路線等にして道路幅六米、犬走一・五公尺、用地幅一八米、三等國道は縣城相互間を連絡する路線、縣城より地方都市に達する路線等にして特に幅員を限定せず、在來の道路數に依るものである。

**將來の計畫** 康德四年度より國道建設第二次計畫に入り向ふ五箇年間に總工費六千二百萬圓を以て特殊國道三千五百軒、治安産業國道九千八百軒及三十七箇所の特殊橋梁の建設を規畫し康德五年度に於ける特殊國道の建設改良維持の豫定延長は新設一、〇〇〇軒餘、改良八四〇軒、維持五、

交通・通信—航空

三〇〇軒、橋梁一〇箇所である。次に同年度に於ける治安産業國道及地方道路の施行確定延長は左の左の通りである。...

航空

總説 満洲における航空路には三つの系統がある。一は満洲航空株式会社の管内三十六飛行場を結ぶ航空路網、一は日本航空輸送株式会社の内地、朝鮮聯絡航空路、他の一つは蕙通航空股份有限公司の大連—北京線及び北京—錦州線である。...

トアップに努めてゐる。關東州内の航空に關する事務は昭和二年六月航空法施行、同年七月同法を關東州に適用せられるに及び、これを關東通信局の所管に加へられたもので、管内の航空は大正十五年九月以後日本航空株式会社に於いて試験飛行をなすつゝあつたが、昭和四年度から政府補助の下に日本航空輸送株式会社が東京大連間定期航空路を開張し大連、新義州、平壤、京城、蔚山、福岡、大阪、東京各地間の郵便物並に貨物の輸送を始め、...

滿洲航空株式會社 (本社奉天市大和區五路路九路路三號) 由來滿洲國は廣汎なる地勢、氣象等より觀て航空事業に最適當の條件を具備してゐる實情に鑑み、政府は鐵道總局をして陸の交通機關を一元的に經營せしめると同様、空の交通網の開發並に經營の統制を圖るため、滿洲航空株式會社を設立した。同

社は日滿合辦として大同元年(昭和七年)九月二十六日創立せられ同年十一月三日より營業を開始した株式會社である。最初は滿洲國、滿鐵、住友等の出資により資本金三百八十五萬圓全額拂込であつたが、その後事業の擴充により一躍一千三百九十七萬圓に増資された特殊會社で、現在國內の政治經濟上の重要都市は悉くその航空網の下にあり、定期航空の他治安工作、森林調査及び各種の測量等公私の需めに應じ臨時航空を實施してをり、又各接壤國との航空連絡をも企圖し、これが速やかなる達成を使命としてゐる、惟ふに歐亞連絡定期航空の幹線をなすソウエート民間航空隊のシベリヤ領斷航空路は既にモスコトよりイルクーツク、チタ、ボチカロフ、ハバロフスクを経て浦鹽に至つてをり、一方蕙通公司により康徳三年末より滿支空通線も實現されてゐる今日、同社の地位は國際航空事業の上非常に重要性を有してゐる。本社を奉天支店を東京に置き支所、出張所は左の如くである。

- 奉天支店 奉天北飛行場内
大連支店 大連周水子飛行場内
安東支店 安東飛行場内
錦州支店 錦州飛行場内
桓仁出張所 桓仁飛行場内
通化出張所 通化飛行場内

交通・通信—航空

Table with columns for flight destinations (e.g., 遼寧、吉林、山東) and their respective airports (e.g., 遼寧飛行場内、吉林飛行場内).

Table with columns for flight routes (e.g., 奉天—安東、大連—新義州) and their respective airports (e.g., 奉天、大連).

Table with columns for flight routes (e.g., 奉天—長春、長春—海拉爾) and their respective airports (e.g., 奉天、長春、海拉爾).

交通・通信——航空

海拉爾—滿洲里 二二円  
手荷物 携帶手荷物は一名に付十斤(約二、六六六匁)迄無料であるが、それ以上は超過一斤につき旅客運賃の百分のこの超過運賃を要す。但し最低五十匁とし十匁未満の端数は十匁に切上げ計上する。超過重量分は左記貨物運賃表により徴収せられる。

Table with columns for weight (重量) and rate (料率). Rates range from 1.00 to 6.00.

郵便 郵便物輸送は康徳四年七月より。従来行はれてきた制度の特長を採つて一元化したる速達郵便制度が開始され、航空運送の完備を期してゐる。その輸送量は満洲國の發展に伴ひ逐次飛躍的增加を示してゐる。料金その他については「通信」の章を参照。

遊覽飛行 滿洲航空株式會社では奉天北飛行場その他において左記料金により遊覽飛行を行つてゐる(飛行時間約十分、飛行距離約三十斤) 料金は大人五圓、小人二圓五十匁、團體は五十名以上二割引、百名以上三割引(但し小人は四割引) 日本航空會社大連支所でも越冬期を除いて毎月一

日曜日又は祭日に遊覽飛行を行ひ周水子上空三十斤を飛ぶ約十五分で料金五圓、但し團體の場合は割引する。

貨切飛行 國內各地における鐵道敷設のための調査、治水工事の視察、墾田調査、罌粟耕作偵察、森林状況視察、水害状況調査、阿片輸送、砂金輸送、奥地への雜貨輸送、人員輸送等各種の需めに應じ貨切飛行を行つてゐる。料金左の如し。

宣傳飛行 宣傳ビラの撒布、その他の方法による官傳飛行も左の料金で需めに應じてゐる。

航空券代賣 滿洲航空會社の航空券は各飛行場營業所で發賣する他、左記の各所で代理發賣並に取次をなしてゐる。 航空券代賣所 奉天、大連、長春、哈爾濱、海拉爾、滿洲里、海龍、吉林、安東、延吉、琿春、牡丹江、通遼、四平街、開通、乾安、洮安、洮南、瞻榆、鎮賚、德惠、九台、梨樹、伊通、懷德、雙陽、農安、德惠、九台、梨樹、伊通、懷德、雙陽、農安、德惠、九台、梨樹、伊通、懷德、雙陽、農安、

二八八

奉天—滿洲里、平和ホテル、泰ビル、ホテル、大連ホテル、大丸旅館、平安ホテル、  
新 名古屋ホテル、國都ホテル、金華洋行、  
哈爾濱—ユニバーシティー、北滿ホテル、  
龍州ホテル、泰山ホテル、昭和ホテル、  
通 寶昌旅館、  
化 國都旅館、  
空陸海運切符 陸路、海路、空路の日鮮滿支各運送機關は運送運賃契約を締結してゐるので、一枚の切符で汽車、汽船、飛行機等を利用し内地、朝鮮、滿洲、臺灣支那に互つて便利なスピード旅行が出来る例へば、  
A、哈爾濱—(飛行機)—新 奉天—(飛行機)—大連—(汽車)—東京  
B、新 奉天—(飛行機)—大連—(汽車)—門司—(汽船)—基隆—(汽車)—臺北  
空陸海運切符の參加機關は左の如し。  
航空—滿洲航空會社、東通航空會社、日本航空會社  
海路—日本郵船會社、朝鮮郵船會社、臺灣交通會社、滿洲交通會社  
陸路—大連商會社、延吉郵船會社  
惠通公司 資本金四百四十萬圓の日支折半出資による株式會社で、航空路は北京を中心とし、北京—大連間、北京—錦州間の二線である。なほ大連北京間は日本航空會

社の東京、大連線と接続、現在東京、北京間一日連絡を圖つてゐる。  
日本航空運輸株式會社(東京市芝區田村町一丁目)、同大連營業所(大連市連鎖街常盤通)、同大連支所(大連市外周水子大連飛行場内) 昭和三年五月第五十五帝國議會に於ける航空輸送補助に關する決議に基き資本金一千萬圓を以て航空輸送に依る旅客貨物及び郵便物の運送業務を営むため、昭和三年度に本社の創立を爲し、且つ諸設備を整へ昭和四年より定期航空を開始した。

Table for flight routes (航路) with columns for route (航路), frequency (頻度), and departure/arrival (出發/到達). Includes routes like 東京—大連, 東京—長春, etc.

超過手荷物 携帶手荷物は一名十斤(二貫六百六十匁)迄は無料であるが、それ以上は左記の規定に依る航空貨物運賃と同額の超過運賃を要す。

通信

Table for communication rates (通信) with columns for destination (宛先), rate (料率), and unit (単位). Includes rates for Tokyo, Manchuria, and other regions.

概況 滿洲國は建國の趣旨に鑑み、大同元年四月一日郵政の自主權を中外に宣言した。之に對し南京政府はその報復手段として全滿の郵局を閉鎖し、從業員も七月二十四日を最後として全部關内引揚を斷行し、こゝに於いて滿洲國政府は郵政の一日も忽にし得ざる重要性に鑑み、七月二十六日斷乎これを接收し、次いで翌二年二月熱河省内の郵政をも接收し、全滿の郵政自主權を確立、全國的統一を見ることとなつた。接收直後はその制度及業務とも中華民國郵政當時のものをもそのまゝ踏襲したが、同年九月郵政管理局官制及郵局官制を公布實施し、

その制度を改めると共に漸次從業員の補充を行ひ更に郵政管理局、郵局、代辦所、信櫃等の新増設や業務規定の制定並に改正を斷行次いで康徳四年七月行政機構の全面的改正に伴ひ郵政總局を設け、從來交通部郵務司に於いて取扱ひたる郵政各種業務を全般的に管掌するほか、電氣、通信及日本の委託に依る日本郵政業務をも併せ管理經營し、更に治外法權撤廢並に滿鐵附屬地行政權の移讓の具體化を見るや、先づ郵政當局は準備事務として基本法令二百餘を制定公布し、郵便、郵政爲替、郵政儲蓄、郵政振替及郵政生命保險の各業務は夫々改善創造され先進國日本の郵政業務と比肩し得るまでに達した。  
郵政確立 次いで同年十二月一日の治外法權撤廢により日本側通信行政權は些かの支障も見ず移讓されるに至つたが移讓後に於ても附屬地在住民は從來日本業務に依つて得たと同様の便宜を享受してゐるが從來の二重施設による郵便配達の遅延等の弊は完全に一掃され、滿洲國、日本の各異りたる現業機關を調整統合して郵政局、郵政辦事處の二とし、また業務の性質上移讓し得ない日本郵便貯金簡易生命、保險、國債元利の支拂、恩給年金の支給等は其の取扱を滿洲國に委託し、從來通り滿洲國郵政局所

交通・通信——通信



速達郵便及航空郵便附加料金表

種別	速達郵便		航空郵便	
	金額	口数	金額	口数
第一種 普通郵便	六〇瓦毎に一角	同左	七五分	同左
第二種 封筒郵便	六〇瓦毎に一角	同左	七五分	同左
第三種 封筒郵便	六〇瓦毎に一角	同左	七五分	同左
第四種 封筒郵便	六〇瓦毎に一角	同左	七五分	同左
第五種 封筒郵便	六〇瓦毎に一角	同左	七五分	同左

速達取扱数 (康徳四年七月十二月)  
 引 受 物 数 計 一、〇〇〇、〇〇〇  
 引 受 物 数 計 一、〇〇〇、〇〇〇

年寄郵便特殊取扱物数 (康徳四年度)  
 引 受 物 数 計 一、〇〇〇、〇〇〇  
 引 受 物 数 計 一、〇〇〇、〇〇〇

外郵便取扱数 (康徳四年度)  
 引 受 物 数 計 一、〇〇〇、〇〇〇  
 引 受 物 数 計 一、〇〇〇、〇〇〇

内爲替の方法に準じて二年振りに交換の再開を見て今日に至つてゐる。その後當局では親政制度の改訂擴張に努力し、先づ爲替料金の低減改正を企圖し全國均一なる金額別料金制度に改めた。本改正に依つて従來の料金の約半額を以て國內の如何なる邊陲の地にも送金出来るやうになつたのであるが、郵政収入に及ぼす影響は甚大なるものがあり、多大の減收を犠牲にするも公衆の便益を増大する意圖に出でた當局の英斷的措施であつた。

小爲替制度の創設も康徳元年八月より日本國內小爲替と略同様な制度に依つて實施、電信爲替制度の創設も康徳三年一月より日本國の右制度に範を採り國內の主要都市の郵政局に於いて取扱を開始した。その後康徳四年三月郵政爲替法、同規則同取扱規程の制定公布を見、これにより従來の不便な通常爲替制度を全面的に改正し多年の懸案はこゝに解決するに至つた。

大飛躍をなしてゐる。  
 國內爲替年度別受拂高一覽表  
 年度別 口数 金額 増加歩合(%)  
 大同元年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 大同二年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 大同三年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 大同四年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇

満日爲替年度別受拂高一覽表  
 年度別 口数 金額 増加歩合(%)  
 康徳二年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 康徳三年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 康徳四年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇

爲替 振替  
 制度及沿革 郵政振替の制度は送金及決済の機關として便利且確實なる上、その料金低廉なる故日本及び歐米諸國に於いては夙に發達してゐるが、滿洲國に於いても國民經濟の進展に伴ひその實施の必要を認めらるに至つたので、特に本邦と日本國との間

に於ける郵便振替制度の創設に就ては既に早くよりその實施を要望せられ、その結果康徳二年末滿日間に締結せられた郵便條約には兩國間振替に關する必要條項が定められ、その後日本國通信當局と振替實施に必要なる業務協定の取極め方を折衝し遂に康徳三年十一月滿日郵便爲替條約に基き業務協定を修正する追加條款の締結を見、國內暫行振替規則の實施と共に同年十二月一日より取扱を開始するに至つた。



郵政總務月別受拂總計數

Table showing monthly postal revenue statistics from 1932 to 1934, categorized by month and total amount.

Summary text describing the overall trends in postal revenue and its contribution to government income.

沿軍及制度

Postal business operations in Manchuria under military administration, detailing the transition from a postal office to a postal bureau and the implementation of postal laws.

儲蓄

Postal savings operations, including the introduction of postal savings banks and the management of postal savings funds.

郵政儲蓄金高及加入人員年度別數

Table showing the number of postal savings members and the total amount of postal savings by year from 1931 to 1934.

Overview of postal life insurance, mentioning the goal of stabilizing the lives of the general population.

郵政生命保險

Detailed description of postal life insurance operations, including the establishment of postal life insurance companies and the process of underwriting and policy issuance.

保險契約金額及び加入者數

Table showing the amount of insurance contracts and the number of policyholders for various types of insurance, including life and fire insurance.

滿洲電信電話株式會社

Overview of the Manchuria Telephone and Telegraph Company, including its history, capital structure, and current operations in the region.

交通・通信・通信

和文電報取扱局所數

Table showing the number of Japanese telegraph offices established in Manchuria from 1931 to 1934.

電報取扱局所數

Table showing the number of telegraph offices, including Japanese and foreign offices, in Manchuria from 1931 to 1934.

一箇年半の歳月を費して竣工せる新京無線電...

△日滿通信 大連—長崎、佐世保への二...

△滿鮮通信 安東—新義州—平壤間、大...

△滿華通信 創立當初は大連—芝罘間の海...

に委託して通話事務の取扱を開始せられ、北...

△通話料の統制 滿洲に於ける電話事業...

電話關係累年別表

Table with columns for years (昭和八年 to 昭和十二年) and categories like 電話取扱局所數, 自動式交換局所數, etc.

交通・通信——通信

はその歴史的沿革と特殊地境とに依り甚しく不統一にして、電話通話料も極めて不合理...

一九七

信通協定が成立し、天津及び北京との間に和文電報の取扱を行ふ事となつたが、其...

電報取扱發着週數

Table showing telegraph handling statistics for years 昭和八年 to 昭和十二年, categorized by region (滿洲内及日滿).

し和文電報取扱局は北京、天津、瀋陽、煙台、青島、瀋陽、石家莊、太原、保定、濟南、芝罘、威海衛、青島等二十局に據して居る。

これが全通と共に殊に、奉天—新京間のケーブルが完成すれば日滿間の通信は一大躍進をなすものと豫想されてゐる。

電話事業概況

Table with columns for years (昭和九年 to 昭和十二年) and categories like 加入者數, 交換局所數, etc.

放送事業

會社創立當時の放送事業は極めて幼稚なもので聴取者數は僅かに六千餘に過ぎず放送局も四局にして甚だ小規模で、云はば試験的なものであつたが現在では新京中央放送局に於いては東洋一の百キロ大電力放送を行ふのみか昭和十一年十一月には二重放送を實施、更に昭和十二年には大連に二重放送を開始、牡丹江、安東、承德、齊齊哈爾、延吉、佳木斯に新放送を設置する等極めて大規模なものとなり放送中継線は新京放送局を中心として新京—大連間、新京—奉天間及び新京—哈爾濱間に中繼専用の搬送式電話線を完成したために難音か少くなつた。又日本との中繼には感度の良好な受信機があり、スタヂオ外實況放送には移動式の超短波送受信機が各放送局に設備し

交通・通信—通信

てある、同社の放送局現在敷次の如し。

局名	呼出符號
大連放送局	J Q A K
奉天	M T B Y
新京	M T C Y
哈爾濱	M T F Y
安東	M T G Y
吉林	M T H Y
齊齊哈爾	M T K Y
佳木斯	M T N Y
延吉	M T Y Y

此のほか康徳五年中には海拉爾、營口、錦縣、黑河の四箇所にも増局される豫定、なほ聴取者數も創設以來その大獲を得るを以て、指して滿洲に適應する格安の受信機を直營販賣をなした結果、康徳五年九月末に於いて一躍十二萬を突破し創設當初に比し十倍と云ふ驚くべき數に達した、又日本内地にては不能とされる廣告放送を開始、好評を得てゐる。

日本側の通信

沿軍及制度 滿洲に於ける日本側通信事業は、日露戦後當時の野戦郵便及び軍用電信等軍用通信がその濫觴である。戦後明治三十九年七月關東都府官制の公布に續き勅令第九十七號を以て「關東都府郵便電信局官制」が布かれ、同九月二日よりこ

二九八

れら各種施設を繼承今日に至つたものである。この間時勢の推移に伴ひ敷次に互る官制改正を見たが、現在の制度は昭和八年八月滿洲電信電話會社の設立を見、電信電話業務は擧げて同社に移管されたため、この新情勢に即すべく同月三十一日勅令二百三十一號を以て公布、九月一日より實施された「關東廳通信官署官制」に依るものである。その後昭和九年十二月在滿行政機構改革が擧行され關東通信官署と改正され昭和十二年十二月一日通信管理移譲よりその中央機關は大連所在關東通信局(庶務課、業

務課、監督課の三課より成る)大連貯金管理所が設けられてゐる。前者は郵便、爲替貯金、保險、年金、航空、電信電話、電氣瓦斯事業及び滿洲電信電話會社の監督に関する事務を掌理し、後者は郵便爲替及郵便貯金の檢査計算に関する事項を分掌する。更にその下は地方現業機關として郵便局、郵便所及び飛行場がある。昭和十三年三月末現在職員は現信局長以下委任官七判任官二二〇人、嘱託六人雇員七六五人、備員一〇〇人總計一〇九八人となる。管内通信機關累年表左の如し。

年度	局數	貯金	郵便	同出	同借	郵便	電話	電報	無線	無線	飛行	計
明治三十九年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正元年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同五年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同十年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同十五年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十一年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十二年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十三年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十四年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十五年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十六年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十七年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十八年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十九年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同三十年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同三十一年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同三十二年度末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

てゐる。而してその取扱數は左表の如く年と共に激増し殊に滿洲事變後は驚異的飛躍を遂げ、十二年度は普通郵便三億二百六十一百通、三百萬通小包郵便二百八萬九千箇し、日滿間發着がその大部分を占めてゐる。

通常郵便物數

年度	引受	配達	合計
明治三十九年	23,235,700	21,010,800	44,246,500
大正元年度	25,100,000	22,400,000	47,500,000
同五年度	26,000,000	23,000,000	49,000,000
同十年度	27,000,000	24,000,000	51,000,000
同十五年度	28,000,000	25,000,000	53,000,000
同二十年度	29,000,000	26,000,000	55,000,000
同二十一年度	30,000,000	27,000,000	57,000,000
同二十二年度	31,000,000	28,000,000	59,000,000
同二十三年度	32,000,000	29,000,000	61,000,000
同二十四年度	33,000,000	30,000,000	63,000,000
同二十五年度	34,000,000	31,000,000	65,000,000
同二十六年度	35,000,000	32,000,000	67,000,000
同二十七年度	36,000,000	33,000,000	69,000,000
同二十八年度	37,000,000	34,000,000	71,000,000
同二十九年度	38,000,000	35,000,000	73,000,000
同三十年度	39,000,000	36,000,000	75,000,000
同三十一年度	40,000,000	37,000,000	77,000,000
同三十二年度	41,000,000	38,000,000	79,000,000

郵便線路里數

年度	普通道路	延里數	實里數	水道	延里數	實里數
明治四〇年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
大正元年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同五年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同十年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同十五年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十一年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十二年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十三年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十四年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十五年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十六年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十七年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十八年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同二十九年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同三十年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同三十一年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—
同三十二年度末	10,000	10,000	10,000	—	—	—

には定期航空便による運送も行はれてゐる。滿洲國發着のものは滿洲國內主要都市に開設せる交換局に通じ、こゝに郵便物の交換を行ひそれ／＼運送されてゐる。また支那との間に發着するものはその方面により鐵道便或は船便に依つて運送さる。以上記述せる外の諸外國發着郵便物はソ聯、歐洲諸國、阿弗利加、黑河及地中海沿岸の亞細亞諸國宛のものは西伯利亞線經由、また南北亞米利加諸國宛のものは西伯利亞線經由の指定なき限りそれ／＼最速運の徑路を選ひ船便鐵道便等を併せ利用してゐる。

交通・通信—通信

二九九

滿鐵

會社の設立 日露戦役の成果として明治三十八年九月五日、米國ボーツマスに於て締結された日露講和條約第六條に據り日本は露國が建設經營してゐた東清鐵道の南部(長春(寬城子)旅順間の鐵道及び其他一切の支線並に、同地方に於て之に附屬する一切の權利特權財產及炭鑛を無償で露國より譲渡されたので、帝國政府は之を繼承して經營を行ふべく直ちに準備に着手すると共に右條約に基き同年十二月北京に於て、清國政府との間に日清滿洲善後條約並同附屬協定を締結し譲渡に關する承諾を得たので翌三十九年六月勅令第四百二十二號を以て、南滿洲鐵道株式會社設立に關する件を制定公布し七月、參謀總長兒玉源太郎大將を委員長とする八十名の設立委員が任命され八月一日には逋債、外務、大藏三大臣署名の會社組織並に監督に關する根本的命

目録とを引續ぎ、十二月七日設立登記を了し滿鐵は茲に設立を完成した、同時に中村副總裁以下理事は現地の引繼準備の爲十二月二十日東京を出發大連に赴任、四月二月十一日大連に假事務所を開設したが三月には勅令改正され會社は本社を大連に、支社を東京に置くことになつた。かくて開業準備進み明治四十年四月一日野鐵鐵道提理部その他の官廳から鐵道及び炭坑に附屬する土地、建物等の政府出資財產の實地引渡しを受け營業を開始し今日に至つた。

は八億圓にして内拂込済株金六億七千六百二十萬八千圓拂込未済株金一億二千三百七十九萬二千圓であり其の内譯左の如し。

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 金額 (Amount). Lists various types of shares and their values, including Japanese government shares, Russian shares, and bonds.

十二年度に於ては租債界不振が因をなして第五十四回社債五千萬圓及第五十五回社債六百萬圓計五千六百萬圓を募集したに止まり、一方償還は第二十八回社債三千五百萬圓及第六回社債償還額二百四十七萬五千圓の内二十二萬五千圓計三千五百二十二萬五千圓であつた。而して會社の社債發行限度は拂込株金額の二倍迄となつてゐるので十二年度末に於ては十三億五千二百四十一萬六千圓となり之に對する社債發行餘力は五億五千四百四十六萬六千圓を有しこの中株主總會の決議を経て何時にても發行し得る金額は二億九千二百四萬八千圓である。

昭和十二年度末現在に於ける資本金總額

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 金額 (Amount). Lists various types of shares and their values, including Japanese government shares, Russian shares, and bonds.

滿鐵

Table with 3 columns: 年 (Year), 募集額 (募集額), 償還額 (償還額), 年度末現在 (年度末現在). Shows financial data from 1911 to 1923.

Table with 3 columns: 年 (Year), 金額 (金額), 金額 (金額). Shows financial data from 1911 to 1923.

Table with 3 columns: 科目 (科目), 金額 (金額), 金額 (金額). Shows financial data from 1911 to 1923.